山形県埋蔵文化財センター調査報告書第5集

蕨台遺跡

発掘調査報告書

国営農地開発事業鳥海南麓地区（5）

財団法人
山形県埋蔵文化財センター
6-1994-69-01

1994
69
6

1994

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

蕨台遺跡
（わらびだい）

発掘調査報告書

国営農地開発事業鳥海南麓地区（５）

平成６年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

蔵書
'94. 4. 15
財団法人
山形県埋蔵文化財センター

094 - 069

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、蕨台遺跡の調査成果をまとめたものです。

蕨台遺跡は山形県の北西部に位置する飽海郡八幡町にあります。八幡町は出羽富士といわれる秀峰鳥海山の山麓にあり、庄内米の産地として有名なだけでなく、豊かな自然を利用したレクリエーション施設の整備も進んでいるところです。

調査では、丘陵上の調査区内より縄文時代の中期から後期にかけての集落跡の遺構が検出されました。また、遺物は土器・石器をはじめ多数出土し、当時の生活の様子を知ることができました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　場　清　耕

例　　言

1　本書は国営農地開発事業鳥海南麓地区にかかる「蕨台遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は山形県教育委員会の委託により財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記のとおりである。

遺跡名　　蕨台遺跡（ＡＹＴＷＤ）　　遺跡番号　平成２年度登録

所在地　　山形県飽海郡八幡町大字下青沢字蕨台

調査期間　　発掘調査　平成５年４月１日～平成６年３月31日

　　現地調査　平成５年６月７日～平成５年10月14日　77日間

調査主体　　財団法人　山形県埋蔵文化財センター

発掘調査担当

　　調査研究課長　　佐々木洋治

　　主任調査研究員　佐藤庄一

　　調査研究員　　斎藤　守，安部　実，阿部　明彦

　　嘱託職員　　長南　憲一

資料整理担当

　　調査研究課長　　佐々木洋治

　　主任調査研究員　佐藤庄一

　　調査研究員　　斎藤　守

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、東北農政局鳥海南麓開拓建設事業所、八幡町農林課、八幡町教育委員会、山形県農林水産部農地建設課、庄内支庁経済部国営土地改良対策室、山形県教育庁文化課などの関係機関、並びに地元八幡町・遊佐町・酒田市の方々のご協力を得ました。ここに記して感謝申し上げます。

5　本書の作成は斎藤守が担当した。編集は安部実、伊藤邦弘が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。

6　出土遺物、調査記録については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ＳＴ……竪穴住居跡　　ＳＫ……土坑　　ＳＰ……単独の柱穴

ＥＬ……炉跡　　ＥＰ……竪穴住居内柱穴　ＲＰ……一括土器

ＲＱ……石製品

2　本書の執筆基準は下記のとおりである。

(1)　遺跡位置図、調査区概要図、遺構配置図中の方位は真北を示している。

(2)　グリッドの南北軸は、真北である。

(3)　遺構実測図は1/40・1/400縮図で採録し、各挿図ごとにスケールを付した。

(4)　遺構実測図第６図におけるＥＬ３と第８図ＥＬ２の網点は、石囲炉を示している。第６図ＥＬ111、第７図ＥＬ94、第８図ＥＬ93、第９図ＥＬ95，96，97、第10図ＥＬ110の網点は地床炉を示している。第８図のＲＰ18は土器を示している。第９図ＲＱ14の網点は石組を示している。

(5)　遺構ごとの水糸レベル数値は、標高を示している。

(6)　遺物実測図・拓影図は1/1・1/2・1/3で採録し、各々スケールを付した。遺物図版についてはつぎのとおりである。図版12は1/3，1/4縮尺、図版13は1/3，1/2縮尺、図版14，15，17～31，33は1/2縮尺、図版16は4/5，1/2縮尺、図版32は1/3縮尺、図版34は2/3，1/2縮尺で採録した。

(7)　出土遺物観察表中の（　　）内の数値は、現存値を示している。

(8)　遺構覆土の色調の記載については、1987年版農林水産省農林技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過……1

2　調査の経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境……2

2　歴史的環境……2

Ⅲ　調査の概要

1　調査区と層序……4

2　遺構と遺物の分布……4

Ⅳ　検出遺構

1　竪穴住居跡……7

2　土坑……15

Ⅴ　出土遺物

1　縄文土器……18

2　土偶……26

3　石器類……27

Ⅵ　まとめ……52

報告書抄録……53

表

表１　出土遺物観察表（１）……29

表２　出土遺物観察表（２）……30

表３　出土遺物観察表（３）……31

表４　出土遺物観察表（４）……32

挿　　図

第１図　遺跡位置図……3

第２図　土層柱状図……4

第３図　調査区概要図……5

第４図　遺構配置図……6

第５図　ＳＴ１竪穴住居跡……9

第６図　ＳＴ８，９竪穴住居跡……10

第７図　ST54竪穴住居跡 ……11
第８図　ST31，32竪穴住居跡 ……12
第９図　ST37竪穴住居跡 ……13
第10図　ST99竪穴住居跡 ……14
第11図　ST15，38，50，51土坑 ……16
第12図　ST22，89，90土坑 ……17
第13図　縄文土器実測図（１） ……19
第14図　縄文土器実測図（２） ……20
第15図　縄文土器実測図（３） ……21
第16図　縄文土器実測図（４） ……22
第17図　縄文土器実測図（５） ……23
第18図　縄文土器実測図（６） ……24
第19図　縄文土器実測図（７） ……25
第20図　土偶実測図……26
第21図　石鏃実測図……33
第22図　石錐実測図……34
第23図　篦状石器実測図（１） ……35
第24図　篦状石器実測図（２） ……36
第25図　篦状石器実測図（３） ……37
第26図　掻器・削器実測図（１） ……38
第27図　掻器・削器実測図（２） ……39
第28図　掻器・削器実測図（３） ……40
第29図　掻器・削器実測図（４） ……41
第30図　石匙実測図……42
第31図　磨製石斧実測図（１） ……43
第32図　磨製石斧実測図（２） ……44
第33図　磨製石斧実測図（３） ……45
第34図　磨製石斧実測図（４） ……46
第35図　凹石実測図（１） ……47
第36図　凹石実測図（２） ……48
第37図　凹石実測図（３）磨石実測図（１） ……49
第38図　磨石実測図（２） ……50
第39図　磨石実測図（３）石錘実測図……51

図　　版

図版１　調査区遠景　調査区全景
図版２　調査区全景　遺構配置
図版３　調査区遠景　鍬入式
　　表土除去　調査区風景
図版４　調査風景
図版５　ST54，99検出状況
図版６　ST54完掘状況　ST１全景
　　ST９，８全景
　　ST32，31全景
　　ST37土層断面
図版７　ST37土層断面
　　ST99土層断面
　　SK15半截状況
　　SK38完掘状況
　　SK50半截状況
　　SK51半截状況
　　SP10検出状況
　　SP64完掘状況
図版８　EL93半截状況
　　EL95半截状況
　　EL96半截状況
　　EL97半截状況
　　EP102土層断面
　　EP103土層断面
　　EP104土層断面
　　EP109土層断面
図版９　土器出土状況（RP２）
　　土器を転用した炉（RP18）
図版10　EL２出土状況
　　EL２半截状況
　　EL３出土状況
　　RQ14出土状況
　　RP15，RQ13出土状況
　　RP16出土状況
　　RP17出土状況
　　RQ107出土状況
図版11　調査説明会
図版12　縄文土器復元（１）
図版13　縄文土器復元（２）
　　縄文土器（１）
図版14　縄文土器（２）
図版15　土偶
図版16　石鏃・石錐
図版17　篦状石器（１）
図版18　篦状石器（２）
図版19　篦状石器（３）
図版20　篦状石器（４）
図版21　篦状石器（５）
図版22　掻器・削器（１）
図版23　掻器・削器（２）
図版24　掻器・削器（３）
図版25　掻器・削器（４）
図版26　掻器・削器（５）
図版27　石匙（１）
図版28　石匙（２）
図版29　磨製石斧（１）
図版30　磨製石斧（２）
図版31　磨製石斧（３）
図版32　凹石
図版33　磨石
図版34　石錘・石皿

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

庄内平野の北東丘陵地帯には、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が分布している。昭和59年より、この地域一帯に庄内地方北部の畑作振興を目的とした国営の農地開拓事業が計画された。山形県教育委員会では同事業との調整を図るため、昭和60年度から遺跡詳細分布調査を実施してきた。分布調査は現在も継続して実施され、山間部の遺跡の存在が改めて確認されるに至っている。

同事業に関連して、現在までにつぎのような遺跡について緊急発掘調査が実施された。平成２年度に「山海窯跡群第１次」「山谷新田遺跡」、平成３年度に「山楯７・８遺跡」「山楯楯跡」「山海窯跡群第２次」、平成４年度に「山海窯跡群第３次」「金俣Ⅰ遺跡」「金俣Ｋ遺跡」、そして今年の「山楯３・４・５遺跡」「蕨台遺跡」である。

蕨台遺跡は、平成２年度に遺跡として登録された。その際の分布調査では、１ｍ×１ｍ規模の試掘坑37基を設定し、その結果13ヵ所より縄文土器片や剝片などの遺物が検出された。また、東西に約130ｍ南北に約50ｍを中心とする遺跡の範囲が推定されるに至った。

2　調査の経過

調査は遺跡範囲にかかる畑作用地内5,000㎡を対象とした。調査範囲の周辺が沢であったりなどの理由から土捨て場を確保できないので、西側を先に調査した後、そこを土捨て場にし、その後遺構が検出予想される中央部・東側を調査する予定にした。

はじめに、遺跡内の立木伐採終了後、６月８日～23日に重機で表土を除去しながら、同時に調査区内の枝払い、根元のまわりの環境整備、器材置場の設置などをおこなった。その際に、５ｍ×５ｍの仮グリッドを設けた。

６月29日より調査区内西側の面整理を始めた。７月８日までに西側の遺構精査をおこなった結果、ＳＰ25，26，27，28の柱穴以外遺構が検出されなかった。

つぎに、７月９日より調査区内中央部ならびに東側の面整理・遺構精査をおこなった。８月５日に竪穴住居跡３棟、６日に１棟を検出することができた。なお、その際の面整理の段階で整地された跡らしきものがあったので、幅１ｍのトレンチ調査を行い確認した（19～20－８グリッド）。

８月25日には一通りの面整理が終了したので、正式に５ｍ×５ｍのグリッドを設定した。その後、８月26日に竪穴住居跡２棟が検出された。

９月１日からは、住居跡や土抗などの遺構精査と実測図などの記録作業を実施した。16日には、竪穴住居跡が１棟検出された。21日には、ＳＴ32より土器を転用した炉（ＲＰ18）が検出された。

10月４日には竪穴住居跡が１棟検出され、全部で８棟になった。13日には調査説明会を開催し、多数の人々の参加を得るとともに、翌14日に無事調査を終えることができた。

II　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

山形県の北西部にある日本海に面した庄内地方は、庄内平野を中心として北に秋田県との県境にある出羽富士と呼ばれる鳥海山、西を限る庄内砂丘、北から南にかけて東側を縁どる出羽山地から成っている。また、そのやや中央北よりを出羽山地を侵食して西流する先行河川である最上川がある。

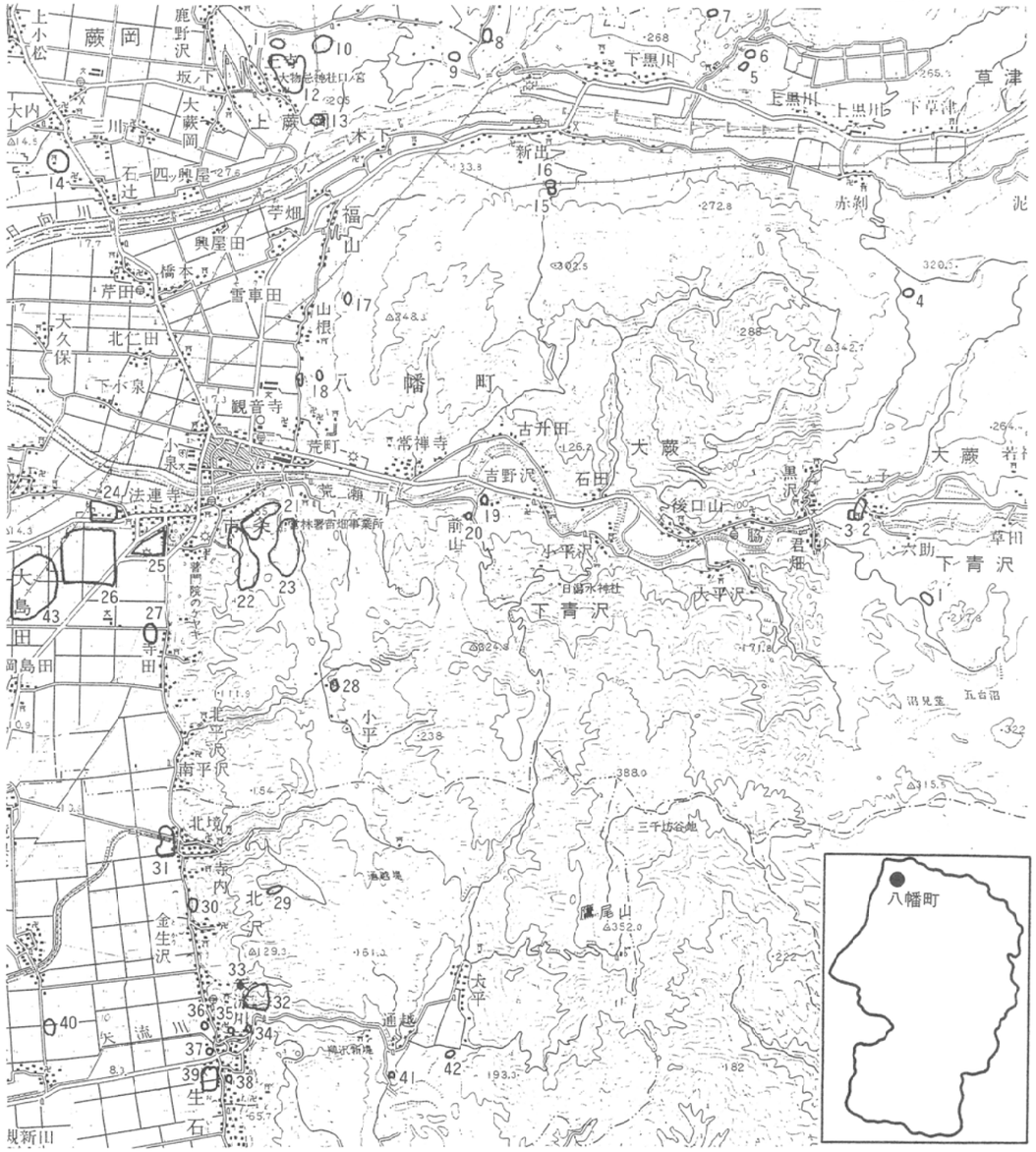
蕨台遺跡は、山形県飽海郡八幡町大字下青沢字蕨台に所在する。八幡町は、荒瀬川が山間部から庄内平野に出た谷口集落が発展した町である。荒瀬川は河岸段丘を呈しており、その段丘上に各集落が形成されている。本遺跡は、八幡町の中心部である観音寺より東へ約12㎞、六助集落より南へ約１㎞、標高177ｍの丘陵上にあり、位置は北緯38°57′40″、東経140°00′34″である。地目は大半が杉林であり、部分的に雑木林が残っている。記録によると、江戸時代の天明年間からの洪水が報告されている。また、本遺跡からは五台沼という灌漑用溜池に通じている。この溜池は、創設が享保年間であることが知られている。

蕨台遺跡の場所は大正年間に麓の小学校の運動場として使用され、その後の造林により杉林となった。また、遺跡の中央部から西側にかけては運動場として使用されたことから、造成した際の整地されたあとや削除された場所があった。遺跡の周辺にはいくつかの沢があり水量が豊富であることから、遺跡の立地条件としては適していたと思われる。

2　歴史的環境

八幡町には、古くから最上地方との交易ルートとして荒瀬川に沿った青沢越えがあった。各集落は、そういう交易ルートの恩恵を受けて生活が営まれてきたものと考えられる。江戸時代には、庄内・新庄両藩の口留番所が峠に近い村落につくられ、交易の取り締まりが行なわれた。交易品としては、最上から飽海に割箸・桧皮・干ぜんまい等、飽海から最上に塩・海産物・衣類等であった。

八幡町には、これまで40近くの遺跡があることが報告されている。そのうち４分の１近くが、縄文時代の集落跡であることがわかっている。八幡町では、縄文早期の遺跡はいまだ発見されていない。縄文前期の遺跡では、下黒川地区松原と市条地区八森が報告されている。特に後者は昭和52年に調査されており、その報告によると、土器、石鏃、石篦などを採集したとしている。同期は、土器の底部が尖底から平面により大型化の傾向が起きてくるといわれている。このことは、生活に定住性がより強まって、煮沸の機能だけでなく貯蔵用の機能も求められることを意味している。縄文中期から後期にかけてが、その最盛期を迎えるようだ。八幡町関係を挙げれば、同上の松原遺跡、八森遺跡や、館の内遺跡、安宝山遺跡をはじめ、本遺跡である蕨台遺跡も含まれる。また、国指定史跡である平安時代の堂の前遺跡がある。



1　蕨台遺跡(縄文)	12　蕨岡館遺跡(奈良・平安)	23　八森Ｃ遺跡(奈良・平安)	34　矢流川Ａ遺跡(奈良・平安)
2　二夕子Ａ遺跡(縄文)	13　鞍出山遺跡(縄文)	24　芽針谷地遺跡(奈良～室町)	35　矢流川Ｂ遺跡(奈良・平安)
3　二夕子Ｂ遺跡(奈良・平安)	14　楯畑遺跡(奈良～室町)	25　樋掛遺跡(奈良～室町)	36　関道遺跡(奈良・平安)
4　大峯Ｉ遺跡(縄文)	15　安宝山Ａ遺跡(縄文)	26※堂の前遺跡(奈良～室町)	37　矢口遺跡(奈良・平安)
5　館の内遺跡(縄文)	16　安宝山Ｂ遺跡(奈良・平安)	27　屋敷田遺跡(奈良・平安)	38　生石Ｉ遺跡(奈良・平安)
6　松原遺跡(縄文)	17　山根遺跡(奈良・平安)	28　小平遺跡(奈良・平安)	39　生石２遺跡(奈良・平安)
7　谷地田遺跡(縄文)	18　楯の腰Ａ遺跡(縄文)	29　入の沢遺跡(弥生)	40　高阿弥陀遺跡(奈良・平安)
8　網取り遺跡(縄文)	19　前山Ａ遺跡(縄文)	30　鍋倉遺跡(奈良・平安)	41　生石５遺跡(奈良・平安)
9　湯之尻遺跡(縄文)	20　前山Ｂ遺跡(奈良・平安)	31　北鏡遺跡(縄文・奈良・平安)	42　生石３遺跡(縄文)
10　堂森Ａ遺跡(縄文・奈良・平安)	21　八森Ａ遺跡(縄文)	32　朝日山城遺跡(鎌倉・室町)	43　後田遺跡(奈良～室町)
11　堂森Ｂ遺跡(奈良・平安)	22　八森Ｂ遺跡(奈良・平安)	33　北沢遺跡(縄文)	※堂の前遺跡は国指定史跡

第Ｉ図　遺跡位置図（Ｓ＝Ｉ：50,000）

Ⅲ　調査の概要

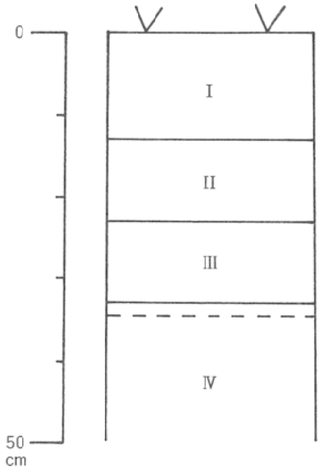
1　調査区と層序

遺跡は荒瀬川の左岸、君畑地区より五台沼への途中の丘陵上に位置する。調査区は全体的に東側から西側に向かって傾斜している。その中で、東側はゆるく傾斜しているが、中央部から西側にかけては傾斜がきつい。また、調査区の西側は窪地になっている。さらに南端と西端には沢があり、水量が豊富である。

層序は、調査区中央部の観察により、Ⅰ～Ⅳ層に分けられる。

Ⅰ層：黒褐色粘土質シルト、Ⅱ層：黒色粘土質シルト、Ⅲ層：褐色シルト、Ⅳ層：黄褐色礫混じりシルト質粘土である。

そのうち、地表面から20～30cm下のⅡ～Ⅲ層に遺物が集中して見られる包含層がある。



第２図　土層柱状図

2　遺構と遺物の分布

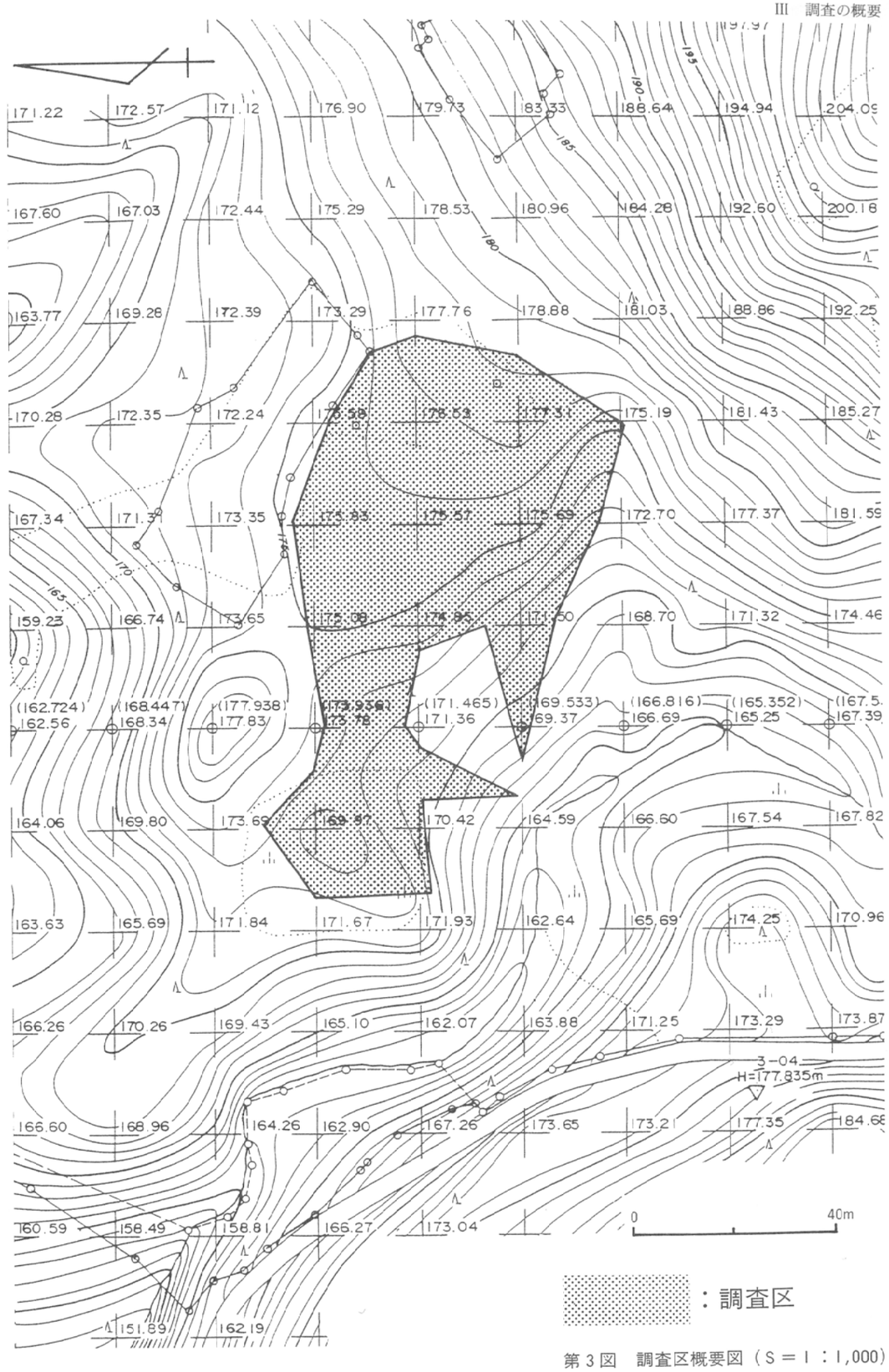
本遺跡で登録した遺構は100基を数える。

遺構の分布は、調査区東側（18～25－7～13グリッド）に集中して検出されている。調査区の中央部から西側にかけての斜面上、ならびに西側の窪地には遺構の検出がほとんど見られない。

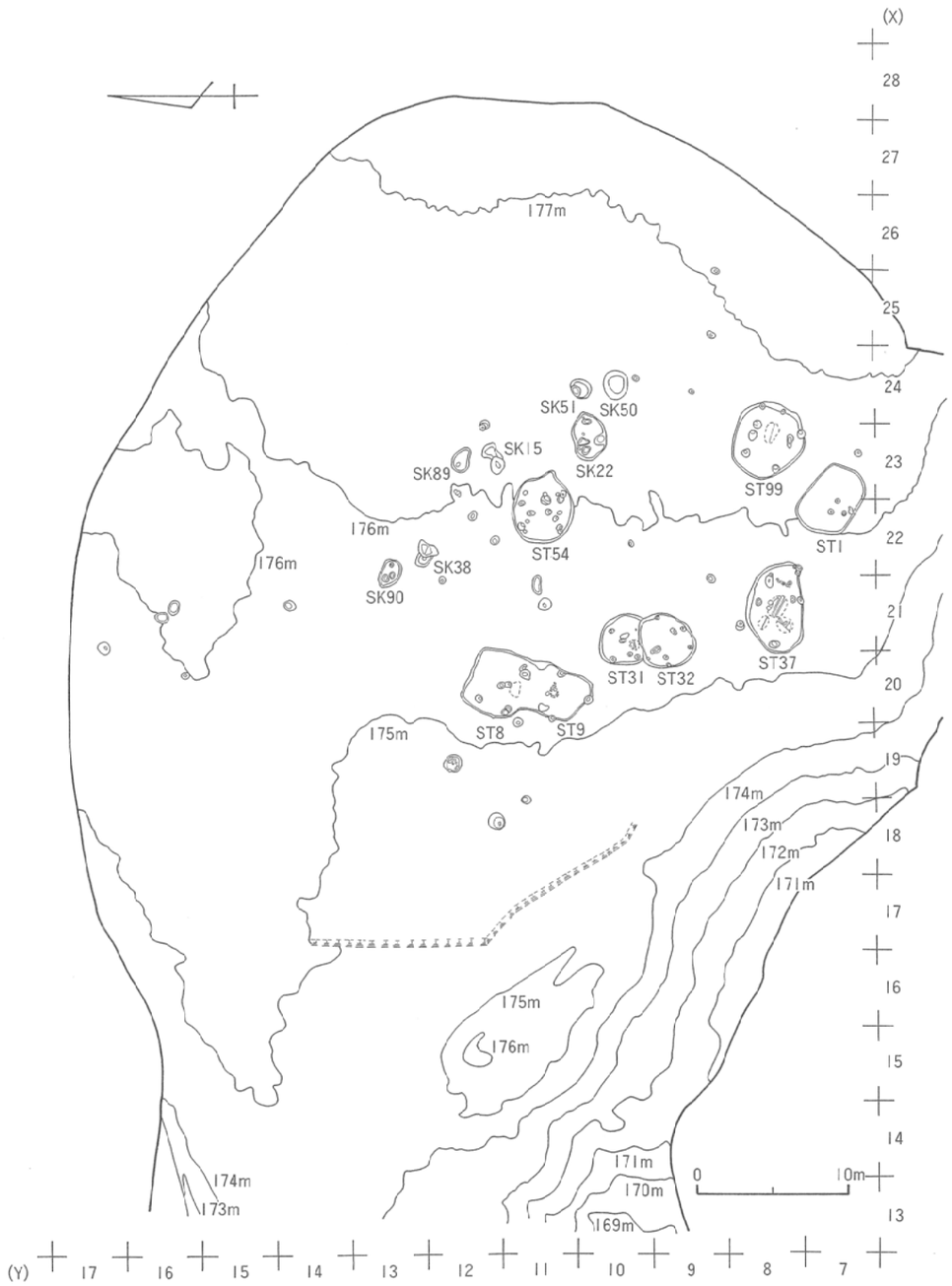
竪穴住居跡が８棟、調査区中央部から南側縁辺部にかけて環状に配列されているのが検出された（ＳＴ１，ＳＴ８，ＳＴ９，ＳＴ31，ＳＴ32，ＳＴ37，ＳＴ54，ＳＴ99）。そのうち、ＳＴ８・９とＳＴ31・32とは重複して検出された。

土坑は、調査区東側にあるＳＴ54から北側ならびに東側に集中して確認された（ＳＫ15，ＳＫ22，ＳＫ38，ＳＫ50，ＳＫ51，ＳＫ89，ＳＫ90）。

遺物の分布は遺構の分布とほぼ同様で、調査区東側（18～25－7～17グリッド）から集中して出土した。全体の遺物の出土数は、箱数にして140箱を数えるにいたった。そのほとんどが、Ⅱ層内とⅢ層内の黒色粘土質シルトおよび黄褐色礫混じりシルト質粘土の包含層より出土している。ほとんどの竪穴住居跡からは、地床炉が確認された（ＥＬ93，94，95，96，97，110，111）。とくに、ＳＴ37からは地床炉が３カ所も確認された（ＥＬ95，96，97）。また、ＳＴ９とＳＴ31からは石囲炉が検出された（ＥＬ３，２）。さらに、ＳＴ32内からは土器を転用した炉が出土した（ＲＰ18，ＥＬ113）。



第３図　調査区概要図（Ｓ＝１：1,000）



第４図　遺構配置図（Ｓ＝１：400）

IV　検出遺構

1　竪穴住居跡

ST１住居跡（第５図）

調査区22～23－６～７グリッドに位置する。長軸長6.17m、短軸長3.45mの楕円形となる平面プランをもつ。短軸方位は真北を基準としてN－33°－Eを測る。この住居跡は西側へ傾斜する斜面上に位置するので、東壁では比較的急な立ち上がりを示すが、西側では不明瞭になっている。また、全体的に攪乱を受けているので、床面や柱穴の痕跡がはっきりしない。さらに、床面は凹凸がはっきりと認められる。柱穴は４基検出された。堆積土は１～３層に細分することができた。遺物は土器片と礫と石器破片がそれぞれ同量ずつで１箱分出土した。

ST８，９住居跡（第６図）

調査区20－10～11グリッドに位置する。２つの住居跡が重複して検出された。長軸長7.7m、短軸長3.3mで、それぞれが方形に近い平面プランをもつ。長軸方位は真北を基準としてN－23°－Eを測る。この住居跡の上には特に杉の木が多く植林された関係で、根による攪乱が多い。その結果、住居跡の重複面の区別がはっきり確認されなかった。さらに、床面がはっきりと確認することが困難であった。しかし、ST８からは地床炉（EL111）が、ST９からは石囲炉（EL３）が検出された。堆積土は１～５層に細分することができた。また、柱穴は12基検出された。遺物はST８からは土器片と石器破片が少量出土した。ST９からは土器片と礫と石器破片がわずか出土した。

ST54住居跡（第７図）

調査区22～23－10～11グリッドに位置する。直径約4.2mのほぼ円形プランをもつ。主軸方位は真北を基準としてN－14°－Wを測る。この住居跡も東壁は木の根による攪乱のため、不明瞭になっている。床面は確認面より深さ10cmを測り、凹凸が少なくわりと平坦である。住居内北西部より底部がない、完形に近い土器（RP２）が出土した。堆積土に埋もれていたため埋設土器ではなかったが、正位して出土したことから意図的か、偶然にそうなったのか判断はむずかしい。また、ほぼ中央部より地床炉（EL94）が検出された。柱穴は19基検出された。堆積土は１～３層に細分することができた。遺物は土器片と石器破片で約１箱分出土した。

ST31，32住居跡（第８図）

調査区20～21－９～10グリッドに位置する。ここも、２つの住居跡が重複して検出された。長軸長6.3m、短軸長2.68mで、それぞれが円形に近い平面プランをもつ。長軸方位は真北を基準としてN－19°－Eを測る。ST32の南壁は、杉の根によって攪乱されているため

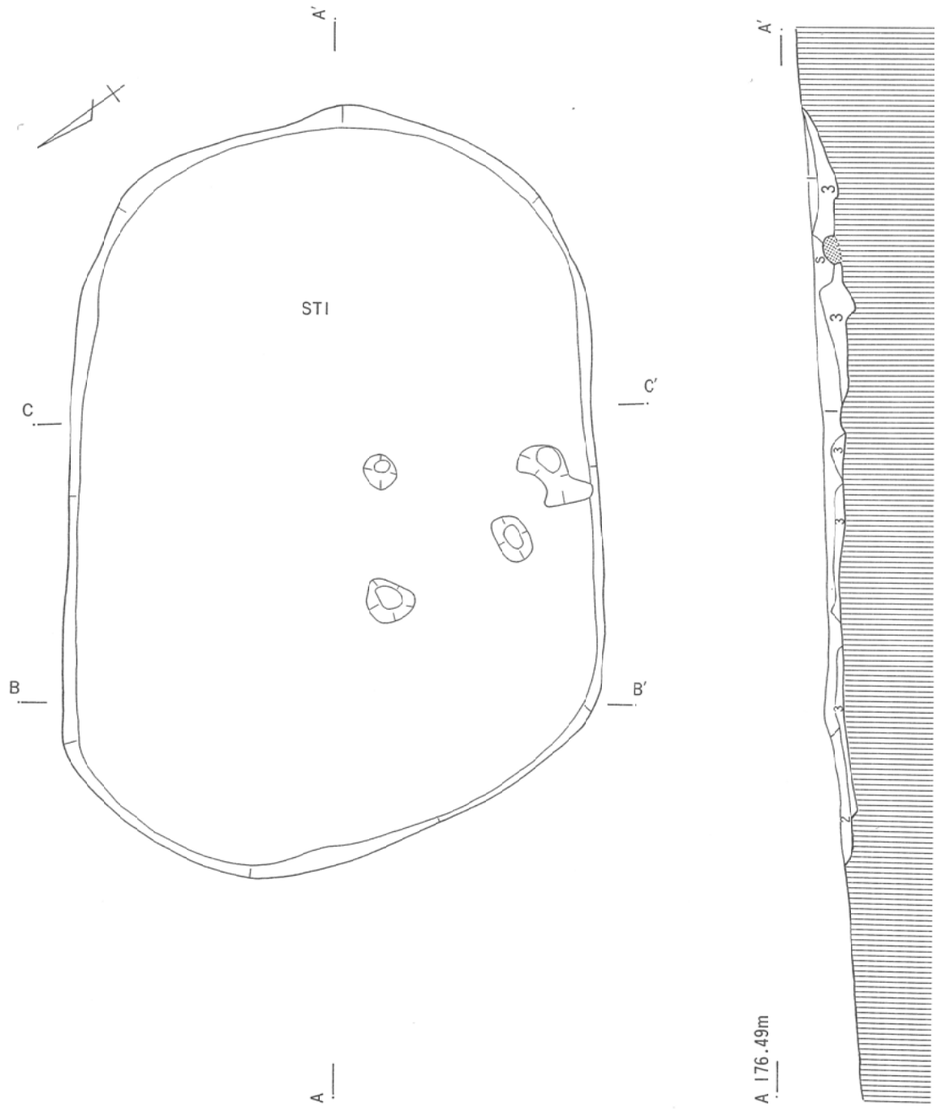
不明瞭になっている。ST31の床面からST32の床面までは20cmの段差がある。ST32の床面は踏み固められてしっかりしている。また、住居跡の壁面の形状や堆積土の状態からみて、ST32が新しいと考えられる。ST31からは石囲炉（EL２）と地床炉（EL93）が検出された。また、ST32からは土器を転用した炉(RP18)が検出された。この炉は土器の半面だけを使用し、それを横臥させ炉に転用したものである。大抵は土器と石を使った複式炉が使用されるのだが、土器だけの炉はめずらしい。堆積土は１～３層に細分することができた。柱穴は、ST31は６基、ST32は10基検出することができた。遺物はST31からは土器片と石器破片が少量出土した。ST32からは１箱分出土したが、土器片が多く、礫と石器破片がわずかだけであった。

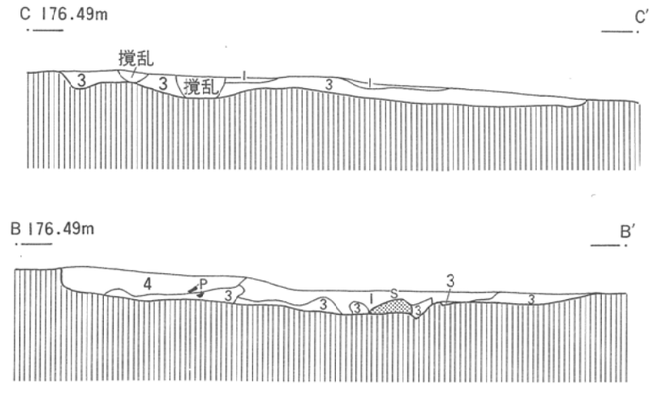
ST37住居跡（第９図）

調査区20～21－７～８グリッドに位置する。長軸長5.7m、短軸長3.6mで、不整楕円形となる平面プランをもつ。短軸方位は真北を基準としてN－２°－Wを測る。東壁は木の根による攪乱のため、不明瞭になっている。西に傾斜している関係上、ここも同様に壁際が不明瞭である。さらに、この住居跡からは３ヵ所も地床炉（EL94、95、96）が検出されたため、プランの変更があったと推測される。この点からも壁の立ち上がりがはっきりとしない理由となると考えられる。床面は凹凸のないわりと平坦である。直線的な石組(RQ14)が検出された。住居内でどんなことに使用されたか判断しかねるが、その内の１個は磨石であった。柱穴は14基検出された。また、EP76からは底部より４個の石が見つかり、住居を建てる際の礎石として使用された可能性が考えられる。また、本住居の構成要素と考えられる柱穴とわかる住居跡でもある。遺物に関しても、土器片が多量にまとまって１箱分出土し、中には復元可能なものもあった。このことは、ほかの住居跡からは考えられないことである。つまり、この住居跡は廃棄されるときに生活の痕跡がそのまま放置されたのか、廃棄場所として使用されたのかなどと考察することができる。その他、石器破片や礫も出土した。

ST99住居跡（第10図）

調査区23～24－７～８グリッドに位置する。長軸長５m、短軸長4.6mのほぼ楕円形となる平面プランをもつ。短軸方位は真北を基準としてN－９°－Eを測る。この住居跡も西側に傾斜する斜面上に位置するので、東側では急な立ち上がりを示しているが、西側では緩やかな立ち上がりになっている。確認面からの深さは東側で20cm、西側で10cmを測る。床面は平坦を示している。住居跡のほぼ中央より地床炉(EL110)が検出された。また、柱穴が９基確認された。東壁の２基は、1.1mの間隔で対を成しているため、出入口に使用された柱跡と推測される。残りの柱の中にも深さからみて、本住居を構成要素と考えられるものが検出された(EP100、102、103、109)。堆積土は１～８層に細分することができた。遺物に関しては、礫がほとんどで１箱分出土し、土器片と礫も出土した。



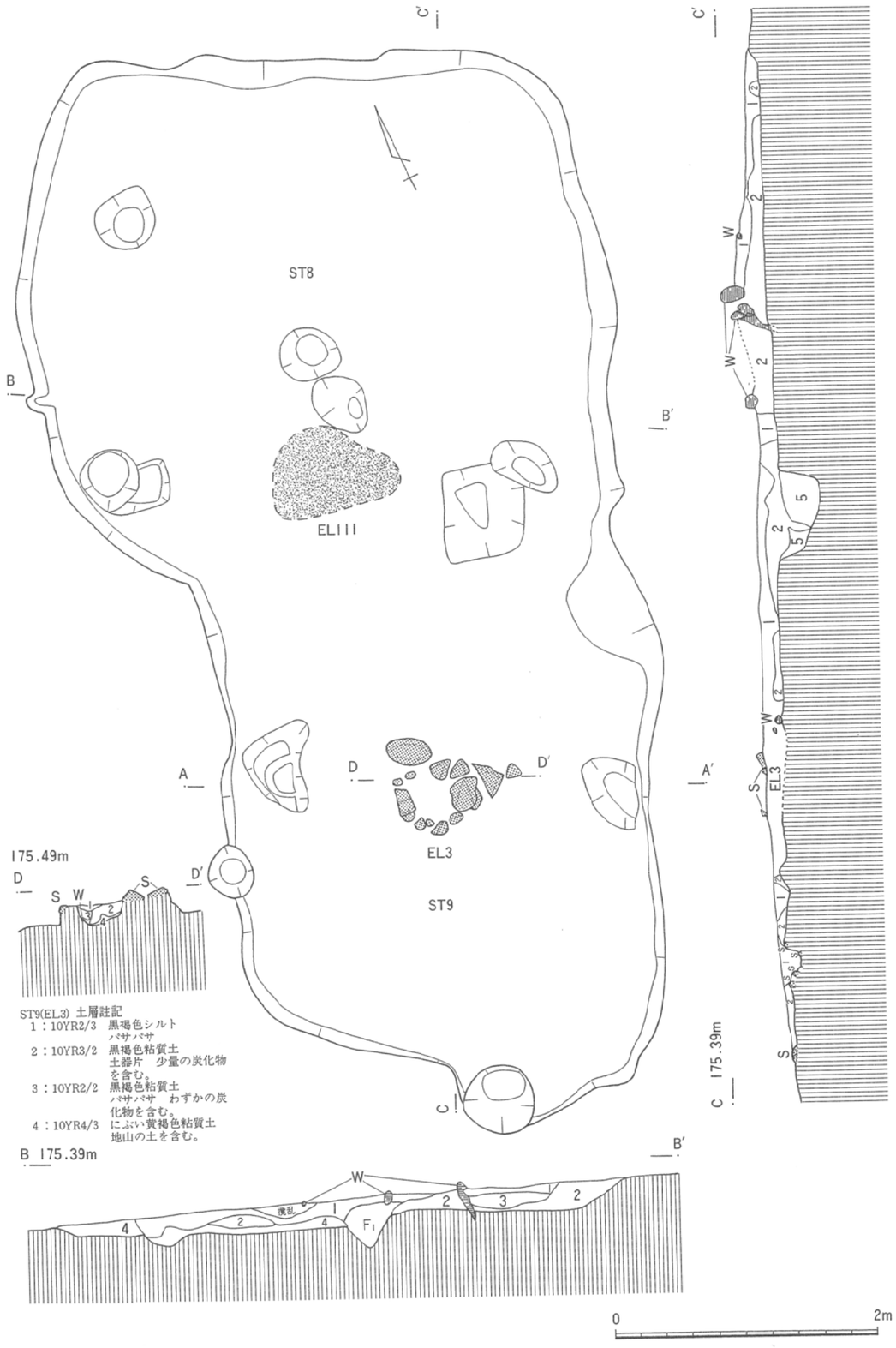


ST１　土層註記

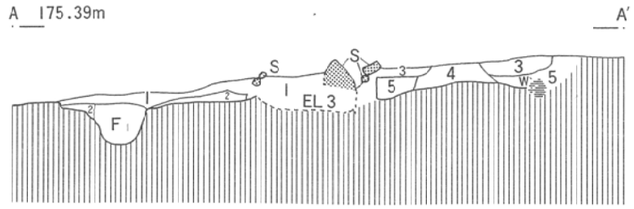
１：10YR2/2　黒褐色粘質土
　　炭化物を含む。
２：10YR2/3　黒褐色粘質土
　　土器片、礫を少々含む。
３：10YR3/4　暗褐色粘質土
　　地山を含む。
４：7.5YR2/2　黒褐色粘質土
　　つぶが感じられる。
　　炭化物、土器、礫を少量
　　含む。

0　2m

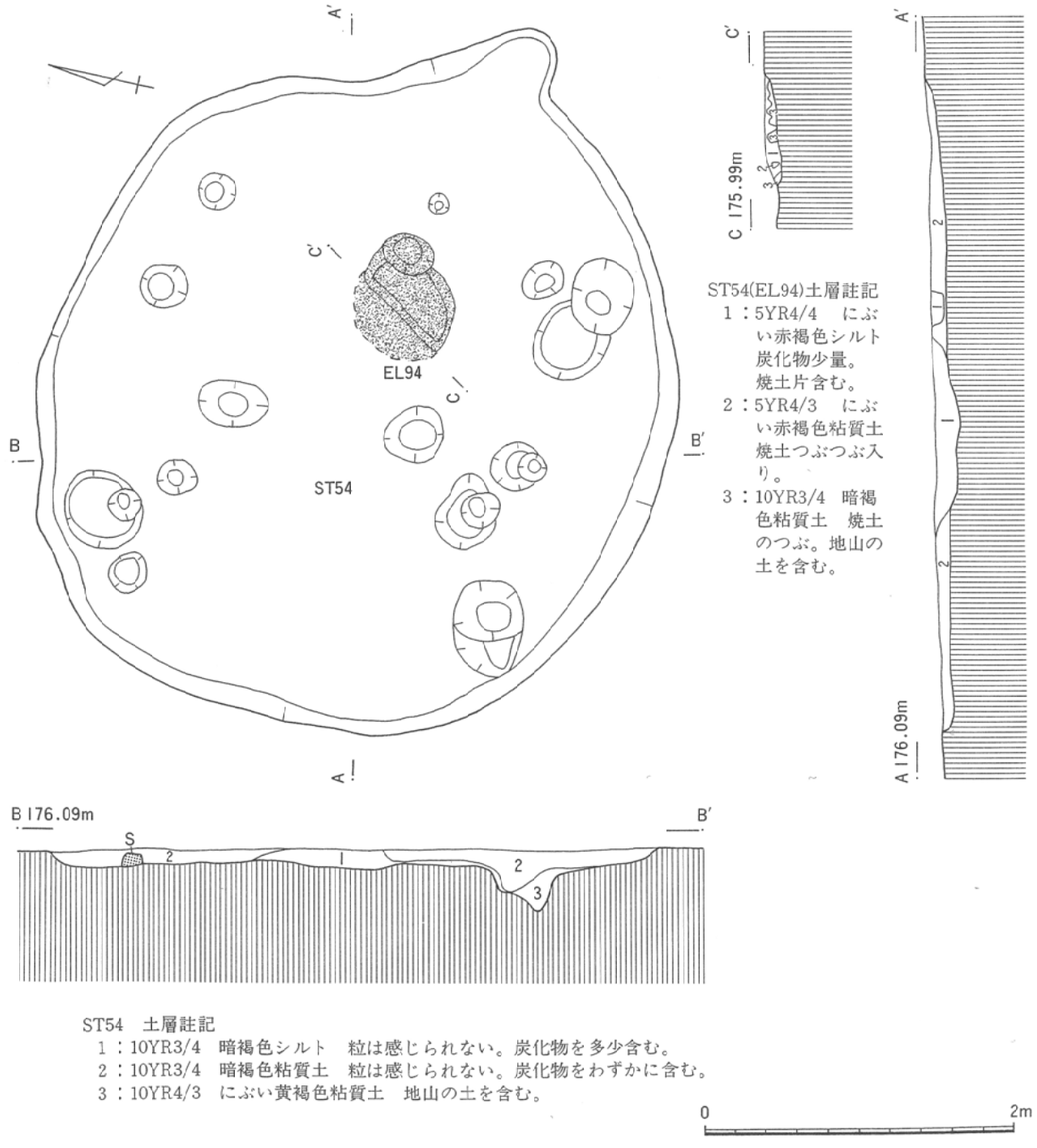
第５図　ST1竪穴住居跡



第６図　ST8,9竪穴住居跡

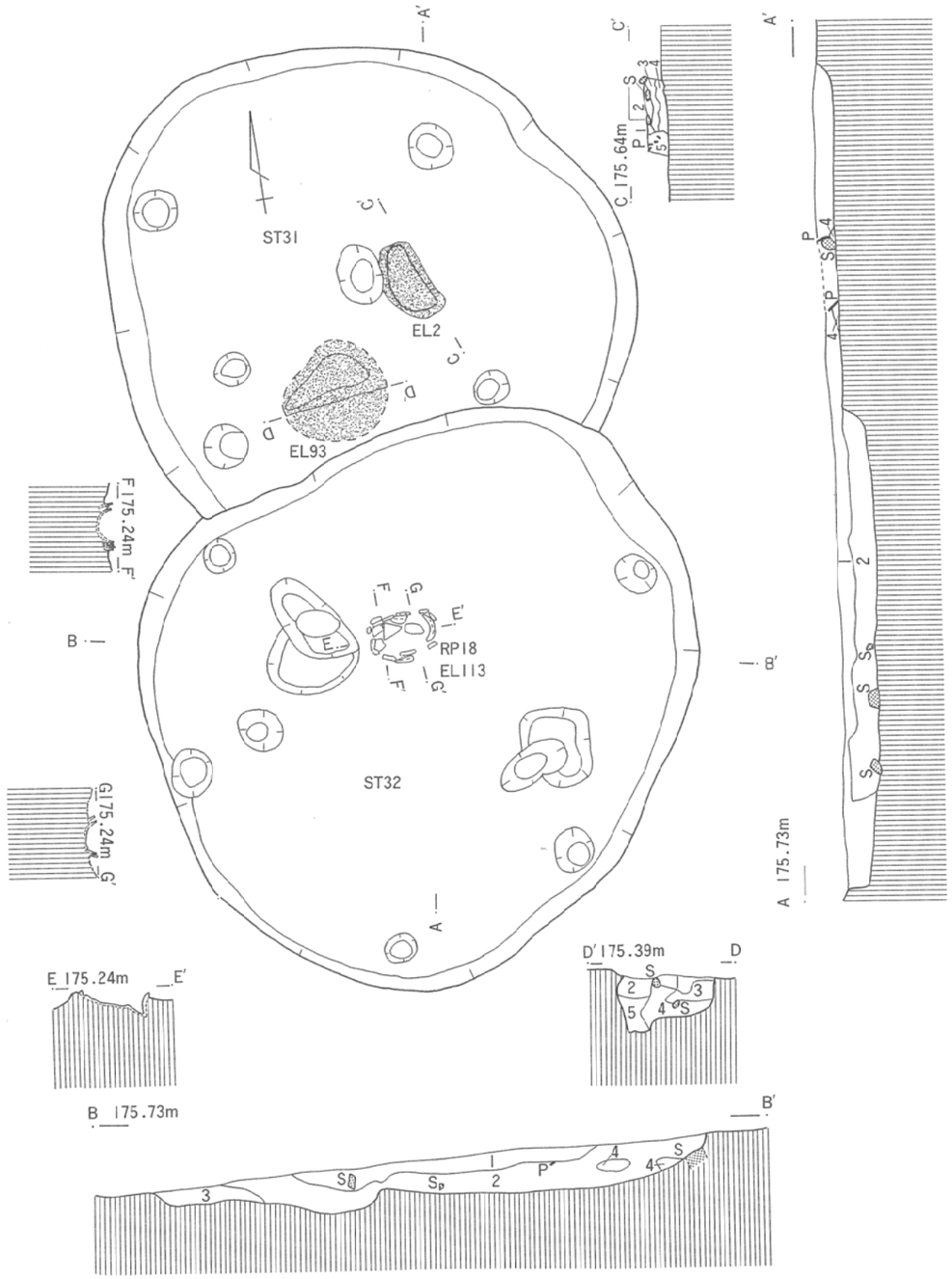


ST８．９　土層註記
1：10YR3/3　暗褐色シルト　土器片を含む。
2：10YR3/4　暗褐色シルト　粒が少し感じられる。炭化物を含み、所々に地山の土を含む。
F_1：10YR2/2　黒褐色シルト　土器片、礫、炭化物を含む。
3：7.5YR3/3　暗褐色粘質土　炭化物を少量含む。
4：7.5YR3/4　暗褐色粘質土
5：7.5YR4/4　褐色粘質土　炭化物を少量含む。



ST54　土層註記
1：10YR3/4　暗褐色シルト　粒は感じられない。炭化物を多少含む。
2：10YR3/4　暗褐色粘質土　粒は感じられない。炭化物をわずかに含む。
3：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　地山の土を含む。

第７図　ST54竪穴住居跡



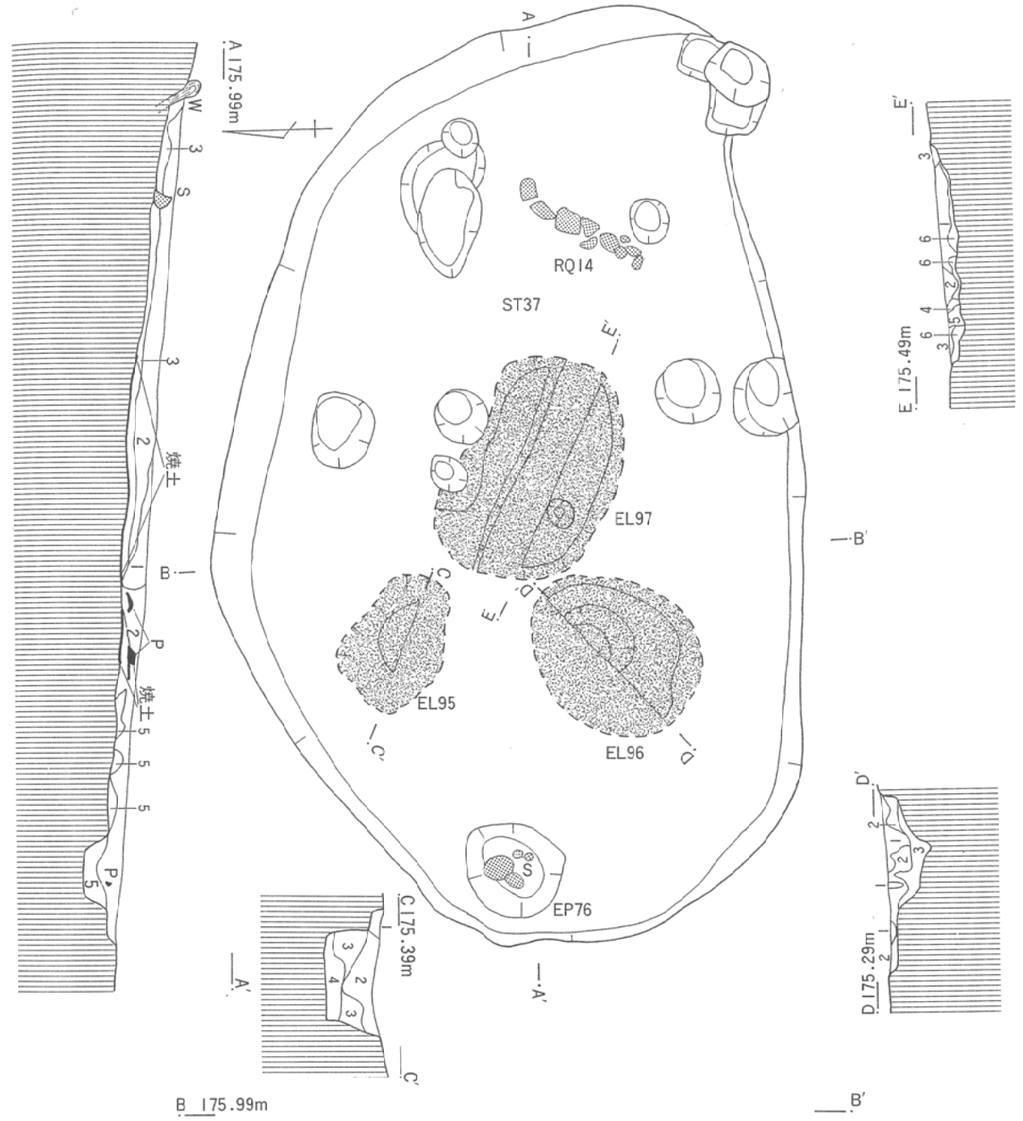
ST31.32　土層註記
1：10YR2/3　黒褐色シルト　炭化物を微量含む。
2：10YR3/3　暗褐色粘質土　炭化物と土器の粒子を含む。
3：10YR4/3　にぶい黄褐色土　少しねばり気がある。地山ブロックを含む。
4：10YR4/6　褐色粘質土　地山の土と炭化物を微量に含む。

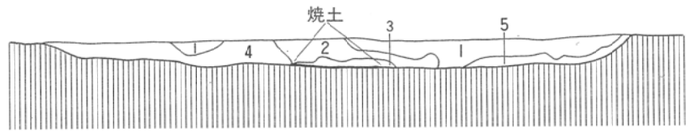
ST31(EL2)土層註記
1：7.5YR1.7/1　黒色粘質土　炭化つぶ土器つぶを含む。
2：10YR2/3　黒褐色粘質土　炭化つぶ、土器つぶを含む。
3：10YR3/4　暗褐色粘質土　土器つぶ、地山の土を含む。
4：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　土器片、地山の土を含む。
5：10YR4/2　灰黄褐色粘質土　土器片、炭化物を含む。

ST31(EL93)土層註記
1：5YR3/2　暗赤褐色シルト　パサパサ。まばらな炭化物。
2：5YR3/3　暗赤褐色シルト　パサパサ。まばらな炭化物。
3：10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　土器つぶ。まばらな炭化物。
4：10YR4/4　褐色粘質土　礫片まばらの炭化物。
5：10YR3/4　暗褐色粘質土　土器つぶ、礫片。

0　2m

第８図　ST31，32竪穴住居跡





ST37　土層註記
1：7.5YR2/2　黒褐色シルト　炭化物、土器片を含む。
2：10YR2/3　黒褐色粘質土　炭化物を多量に含み土器片も含む。
3：7.5YR3/1　黒褐色粘質土　炭化物、土器片を含む。
4：10YR3/4　暗褐色粘質土　土器片、炭化物地山の土も含む。
5：10YR4/3　にぶい暗褐色土　地山を含む。

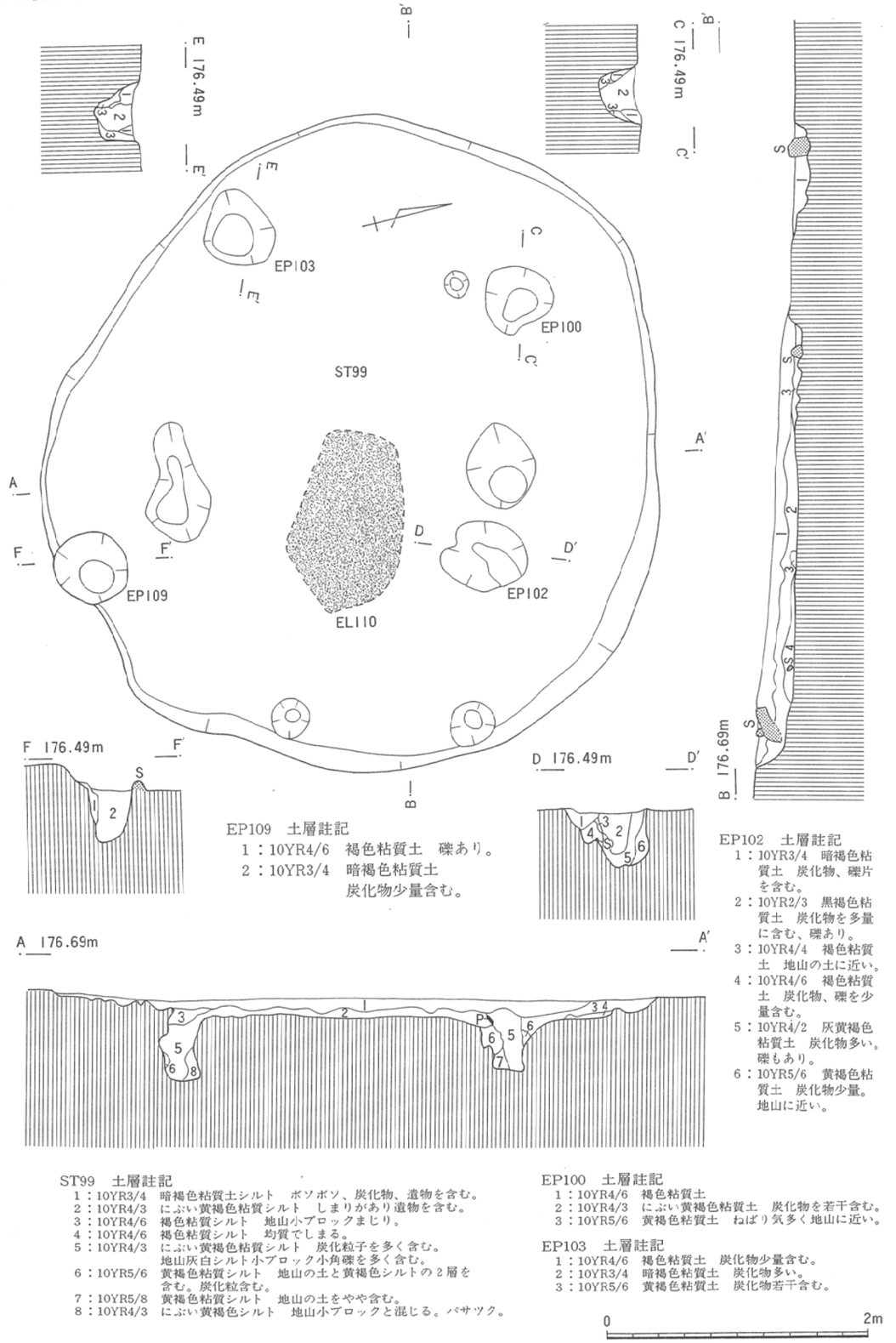
ST37(EL95)　土層註記
1：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　少量の炭化物、地山の土を含む。
2：5YR4/4　にぶい赤褐色粘質土　焼土、炭化物を含む。
3：10YR4/6　褐色粘質土　焼礫片、礫つぶ、わずかの炭化物を含む。
4：10YR5/6　黄褐色粘質土　礫片、焼土つぶを含む。

ST37(EL96)　土層註記
1：10YR3/3　暗褐色粘質土　炭化物つぶつぶ入り。
2：10YR4/6　褐色粘質土　炭化物少量、地山の土もあり。
3：10YR5/8　黄褐色粘質土　礫、地山の土を含む。

ST37(EL97)　土層註記
1：2.5YR3/3　暗赤褐色粘質土　焼土炭化つぶ含む。
2：10YR2/3　黒褐色粘質土　焼土つぶ含む。
3：10YR3/3　暗褐色粘質土　炭化つぶ含む。
4：10YR3/4　暗褐色粘質土　焼土つぶ含む。
5：10YR2/2　黒褐色粘質土　炭化つぶ含む。
6：10YR4/6　褐色粘質土　地山を含む。

0　2m

第９図　ST37竪穴住居跡



第10図　ST99竪穴住居跡

2　土坑

SK15（第11図）

調査区23－10～11グリッドに位置する。長軸長2.15m、短軸長65cmの不整楕円形となる平面プランをもつ土坑である。２つの土坑が重複した形状を示すが、西端の擂鉢状の底面からの立ち上がりは急で、確認面からの深さ35cmを測る。堆積土は５層より成る。地山との識別は比較的容易である。遺物は土器片がわずかと石器片が３点ほどであった。

SK38（第11図）

調査区22－12グリッドに位置する。長軸長1.78m、短軸長85cmの不整楕円形となる平面プランをもつ土坑である。２つの土坑が重複した形状を示すが、東端の擂鉢状の底部からの立ち上がりは急で、確認面からの深さ50cmを測る。堆積土は４層に細分することができた。遺物は土器片がわずかと石器片が６点と礫が１点であった。

SK50（第11図）

調査区24－10グリッドに位置する。長軸長1.9m、短軸長1.7mの楕円形となる平面プランをもつ土坑である。確認面からの深さ40cmを測る。底面は平坦であり、壁の立ち上がりも緩やかである。堆積土は２層に細分することができた。遺物は、土器片が少量と石器片が13点と礫が３点であった。

SK51（第11図）

調査区24－10グリッドに位置する。長軸長1.5m、短軸長1.35mの楕円形となる平面プランをもつ土坑である。底面は平坦であるが、北端に深いところが１ヵ所確認された。壁の立ち上がりは緩やかである。確認面からの深さ20cmを測る。堆積土は１層だけであった。遺物は土器片がほんのわずかと石器片が３点であった。

SK22（第12図）

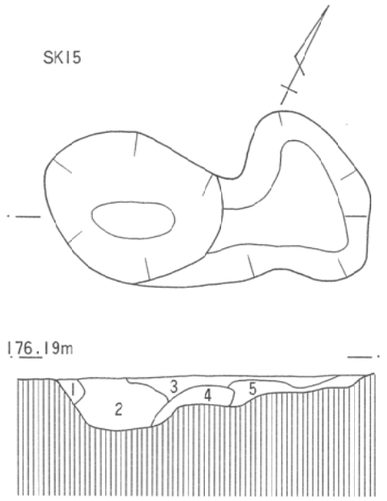
調査区23～24－10グリッドに位置する。長軸長3.2m、短軸長2.1mのほぼ楕円形となる平面プランをもつ土坑である。確認面からの深さ20cmを測る。底面は平坦であるが、４ヵ所深いところが確認された。堆積土は６層に細分することができた。遺物は土器片が少量と石器片が２点であった。

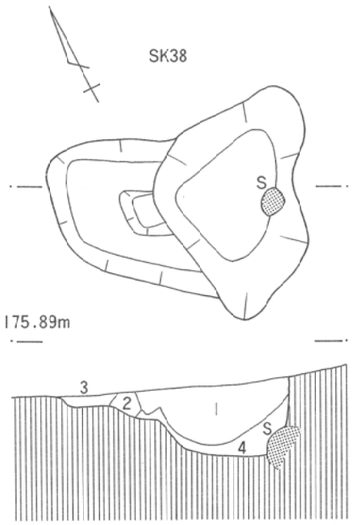
SK89（第12図）

調査区23－12グリッドに位置する。長軸長1.7m、短軸長70cmの不整楕円形となる平面プランをもつ土坑である。底面は平坦であるが、２ヵ所深いところが確認された。確認面からの深さ30cmを測る。堆積土は３層に細分することができた。遺物は土器片がほんのわずか出土した。

SK90（第12図）

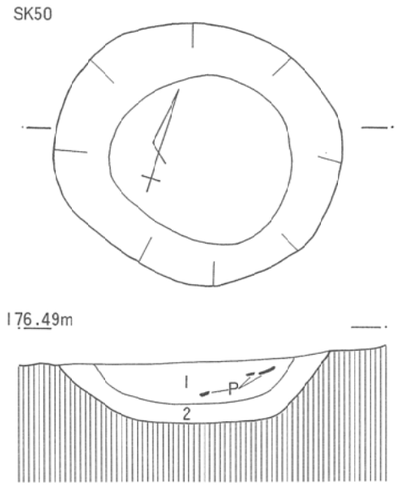
調査区21～22－13グリッドに位置する。長軸長2.05m、短軸長1.2mの不整楕円形となる平面プランをもつ土坑である。底面は平坦であるが、３ヵ所深いところが確認された。確認面からの深さ30cmを測る。堆積土は６層より成る。遺物は土器片が６点だけ出土した。

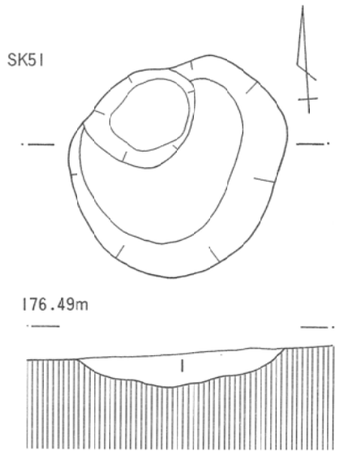




SK15　土層註記
1：10YR4/3　灰黄褐色粘質シルト　ボソボソ。
2：10YR3/1　黒褐色シルト　ボソボソ
3：10YR2/3　黒褐色シルト　ボソボソ。
4：10YR6/1　褐灰色シルト
5：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト

SK38　土層註記
1：10YR3/3　暗褐色粘質シルト　土器小片含む。しまる。下半に地山ブロック。
2：10YR5/1　褐灰色粘質土
3：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト
4：10YR5/6　黄褐色シルト



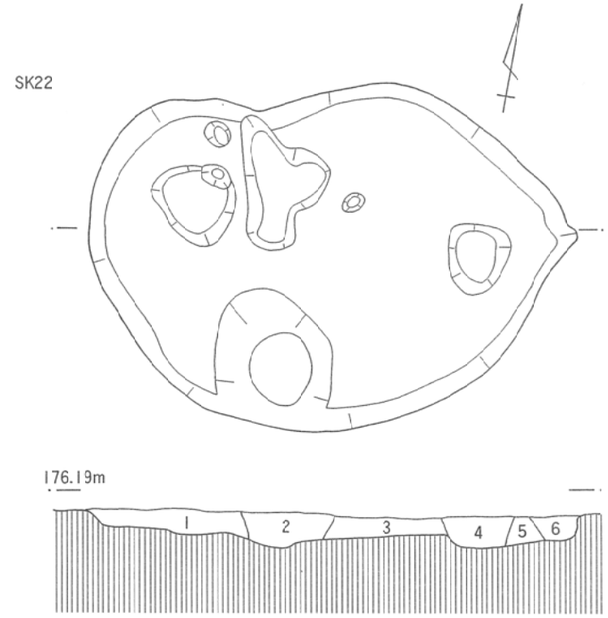


SK50　土層註記
1：10YR3/3　暗褐色粘質土　土器片、炭化物を含む。
2：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質土　炭化物、地山の土を含む。

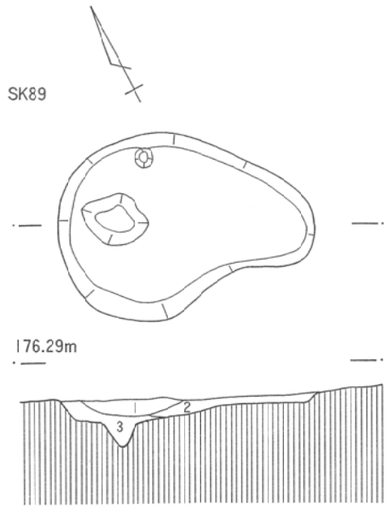
SK51　土層註記
1：10YR3/3　暗褐色粘質土　土器片、炭化物を含む。

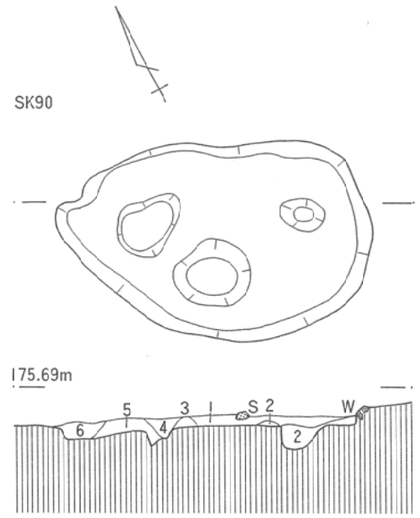
0　2m

第11図　SK15，38，50，51土坑



SK22　土層註記
1：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト　地山10YR5/6ブロックを下方に含む。
2：10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　地山ブロック若干、微細な炭化粒を点々と含む。しまる。
3：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト　地山10YR4/1ブロックを含む。
4：10YR4/1　褐灰色粘質土　下端に炭化物若干含む。
5：10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　ボソボソ。
6：10YR4/1　褐灰色粘質土　下端に炭化物若干含む。





SK89　土層註記
1：10YR2/3　黒褐色粘質シルト　炭化粒子地山ブロックをまばらに含む。
2：10YR4/4　褐色粘質シルト　地山ブロックをまばらに含む。
3：10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト　炭化粒子土器小片を含む。

SK90　土層註記
1：10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
2：10YR4/6　褐色シルト
3：10YR4/4　褐色シルト　地山ブロックまじり。
4：10YR3/3　褐色シルト
5：10YR4/3　褐色シルト
6：10YR3/3　褐色シルト

0　2m

第12図　SK22，SK89，SK90土坑

V　出土遺物

1　土器

箱数にして60箱にのぼる。文様帯の特徴としてはつぎのようなものがあげられる。口縁部は橋状突起（図版13）、注口突起（図版13）、螺旋状突起（第14図６，７，図版13）、波状突起（図版13）をもつものに分けられる。文様表現技法について、複雑に入り組んだ橋状突起には隆沈線や刺突文や斜行縄文を有している。注口突起には隆沈線や刺突文ならびに斜行縄文を有している。螺旋状突起には沈線と隆線を、波状突起には沈線を施しているのが見られる。胴部は刺突文（第15図，図版14）、隆線（第15図，図版15）、沈線（第15，16図，図版15）を施したものが見られる。刺突文の中でも、刺したあとそれが隆起したままのもの（第15図30、31）と刺したあと隆起をとり、なだらかにしたもの（第15図32）がある。また、隆線や沈線の下に地文として斜行縄文（第16図36，37，39，40，41，42，43，44，46など）や区画文（第13図１）がある。底部は、網代や木の葉の圧痕（第18,19図，図版14）が見られる。

RP２（ST54出土：第13図２，図版12）

口径（推定）26.8cm、現高20.3cmの深鉢形土器である。口縁部と底部が欠損している。地文はLR単節の斜行縄文である。色調は黄褐色で、胎土は少量の石英砂を含む。

RP18（ST32出土：第13図１，図版12）

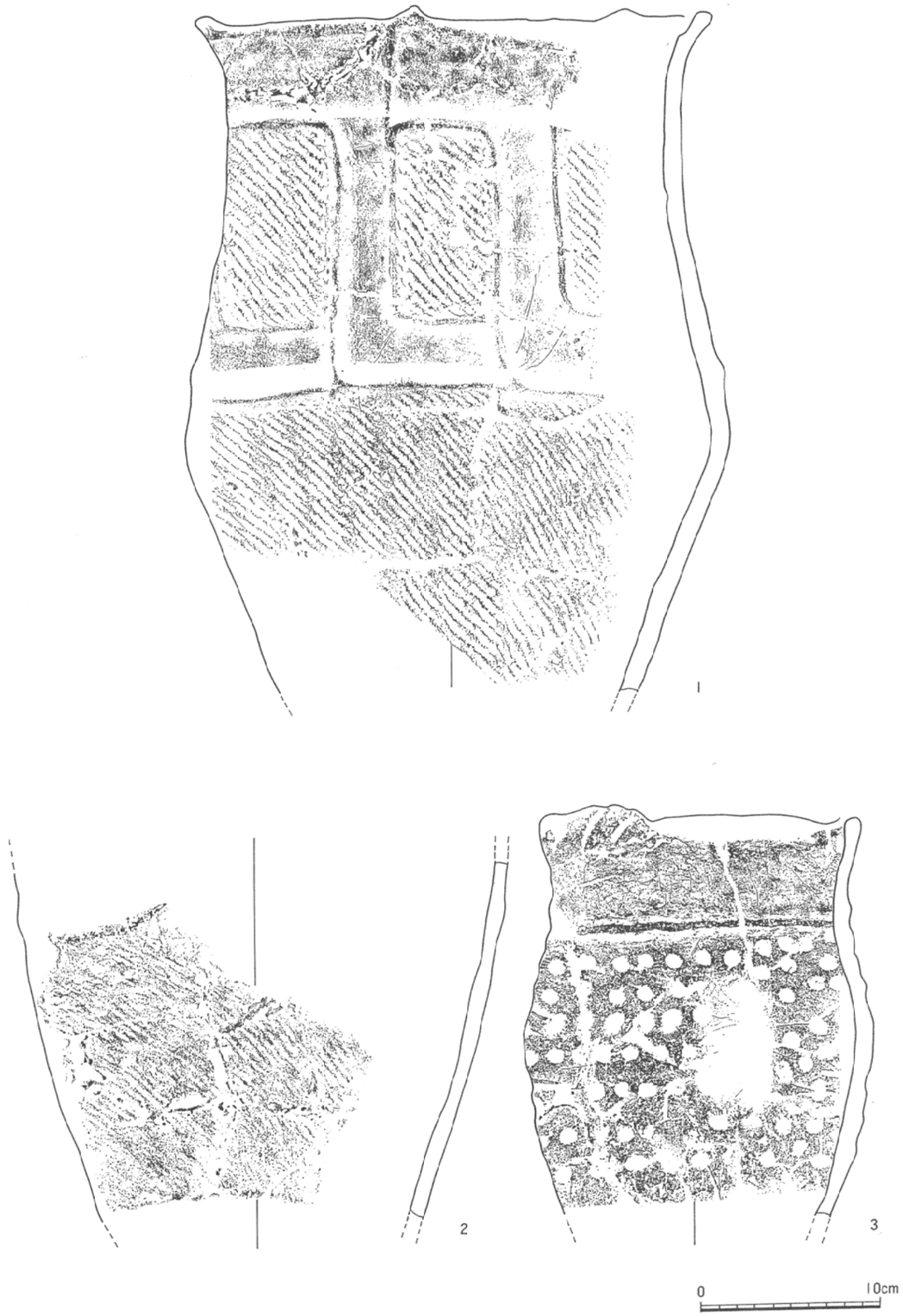
口径（推定）27.0cm、現高38.5cmの深鉢形土器である。底部や口縁部、胴部の1/3近くを欠損している。口縁部は幾分外反している。地文はLRL複節の斜行縄文である。口縁部には波状突起と三角形状突起が施してある。頸部から張り出し上部までL字と逆L字を組み合わせたクランク文が見られる。クランク文の中は磨り消しがなされている。クランク文に囲まれた区画文には、後から施された斜行縄文が見られる。色調は明黄褐色で、少量の粗砂を含む。

RP20（ST37出土：第13図３，図版13）

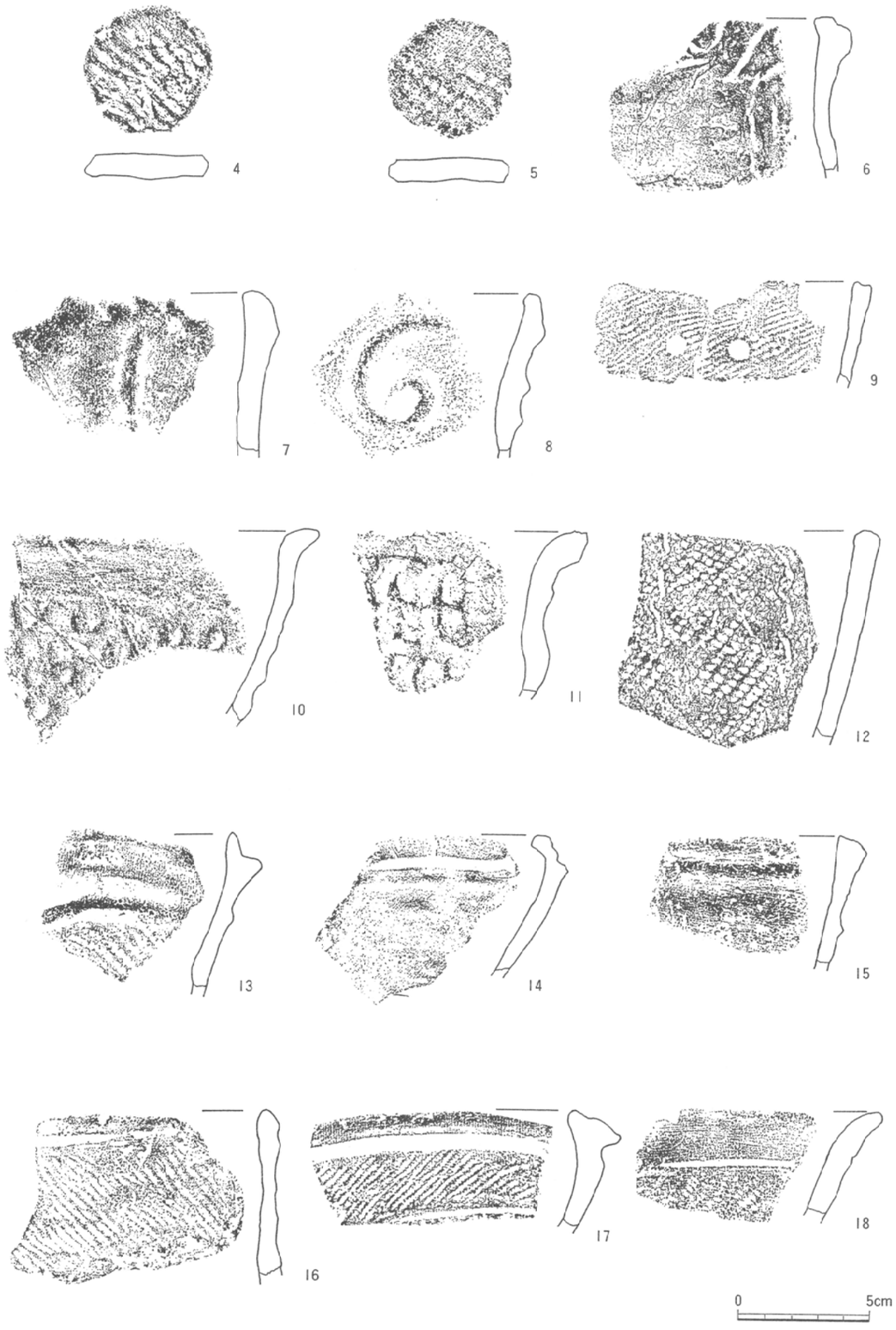
口径（推定）16.6cm、現高23.3cmの深鉢形土器である。底部と口縁部の2/3が欠損している。口縁部はわずかながら外反している。口縁部には螺旋状突起が施されている。頸部には一条の隆線が水平に走っている。また、頸部から口縁部の突起があるところに、隆線が延びていると思われる部分がある。頸部から底部にかけて、刺突文が施されている。突刺した痕の中央部が若干突出していることから、竹管などの使用と思われる。色調は黄褐色で、少量の粗砂を含む。

円盤状土製品（第14図，図版14）

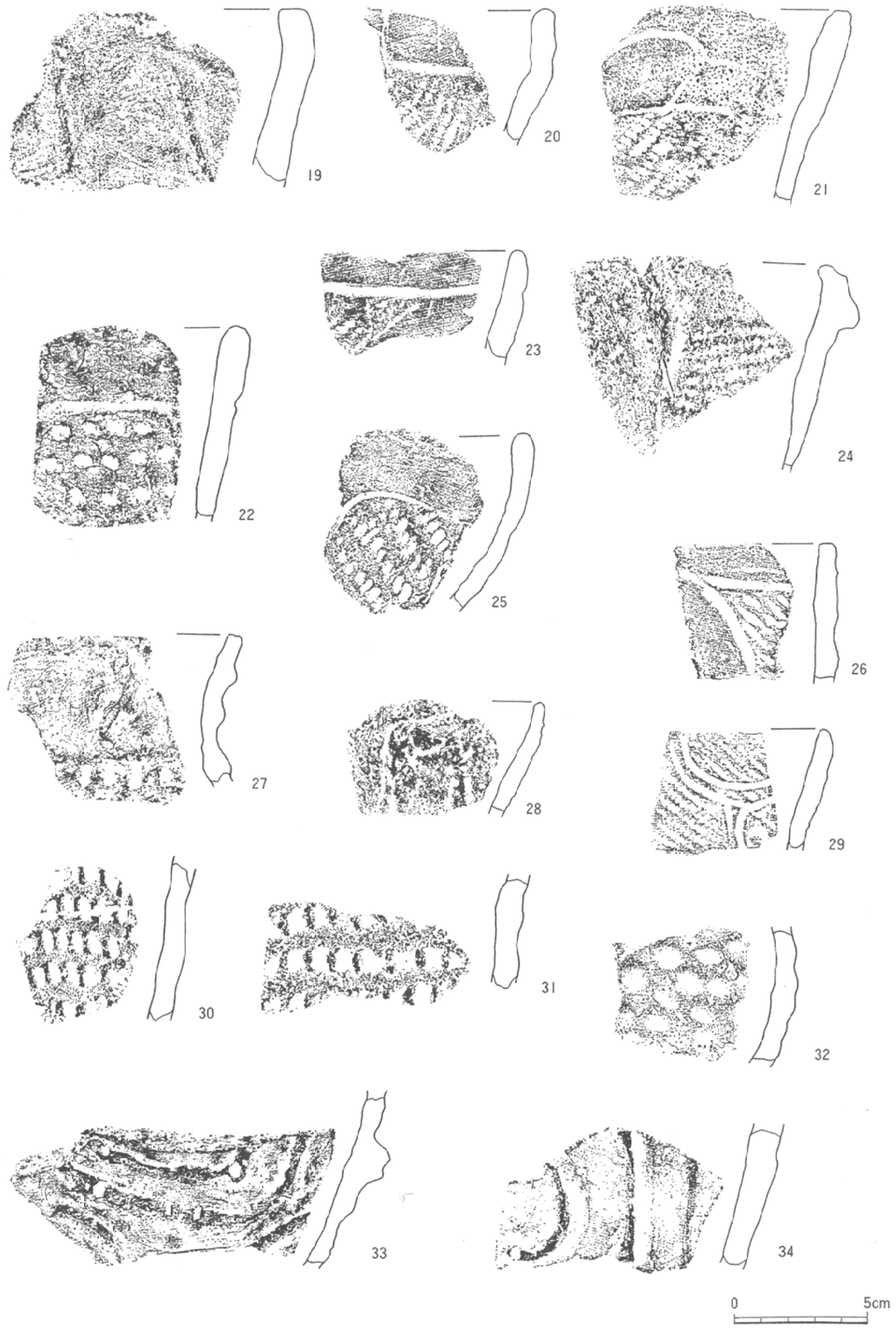
円盤状土製品は６点（18-10グリッドから２点，20-13，21-7，21-9グリッド，ST37）出土した。いずれも胴部片を利用している。



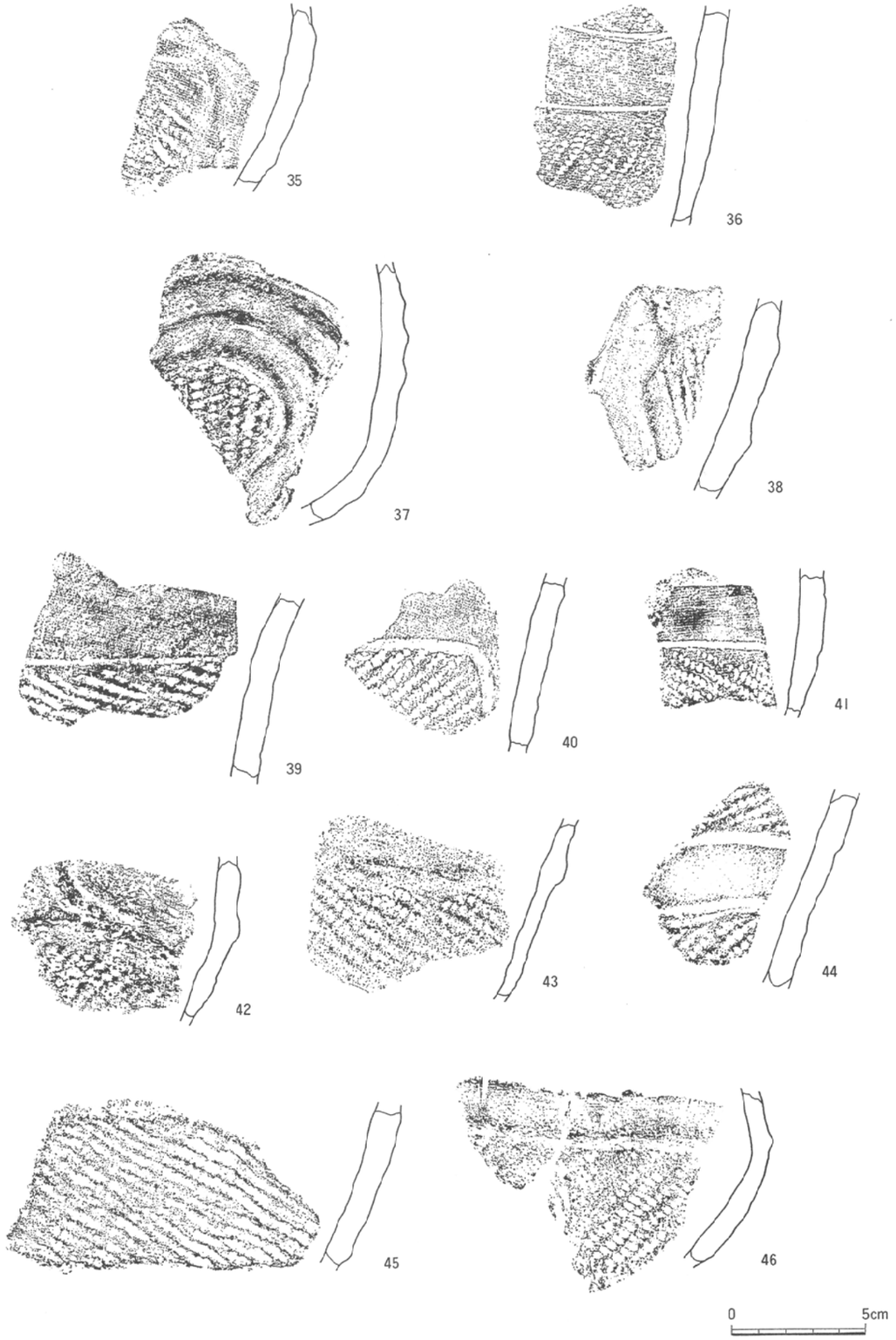
第13図　縄文土器実測図（１）



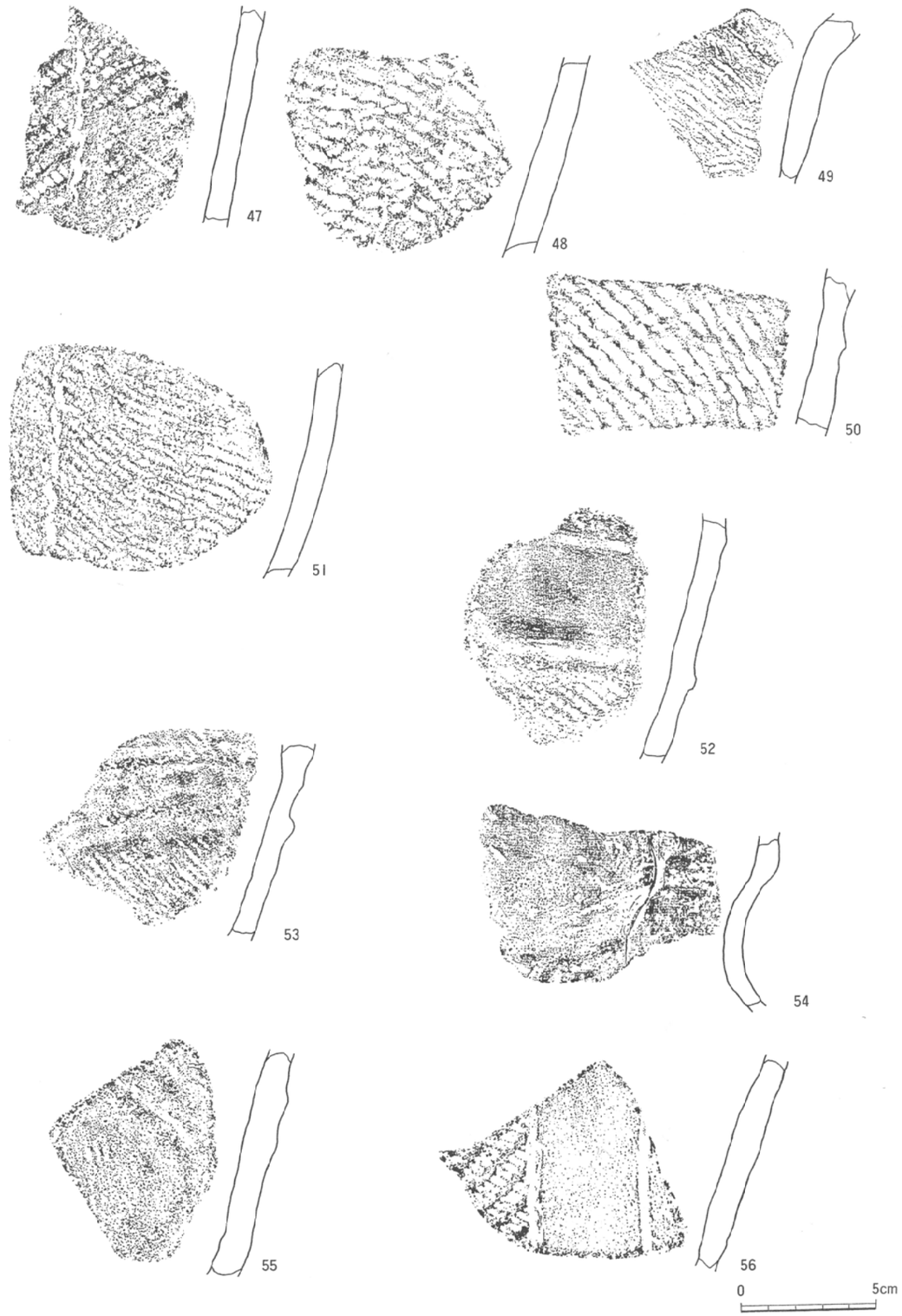
第14図　縄文土器実測図（２）



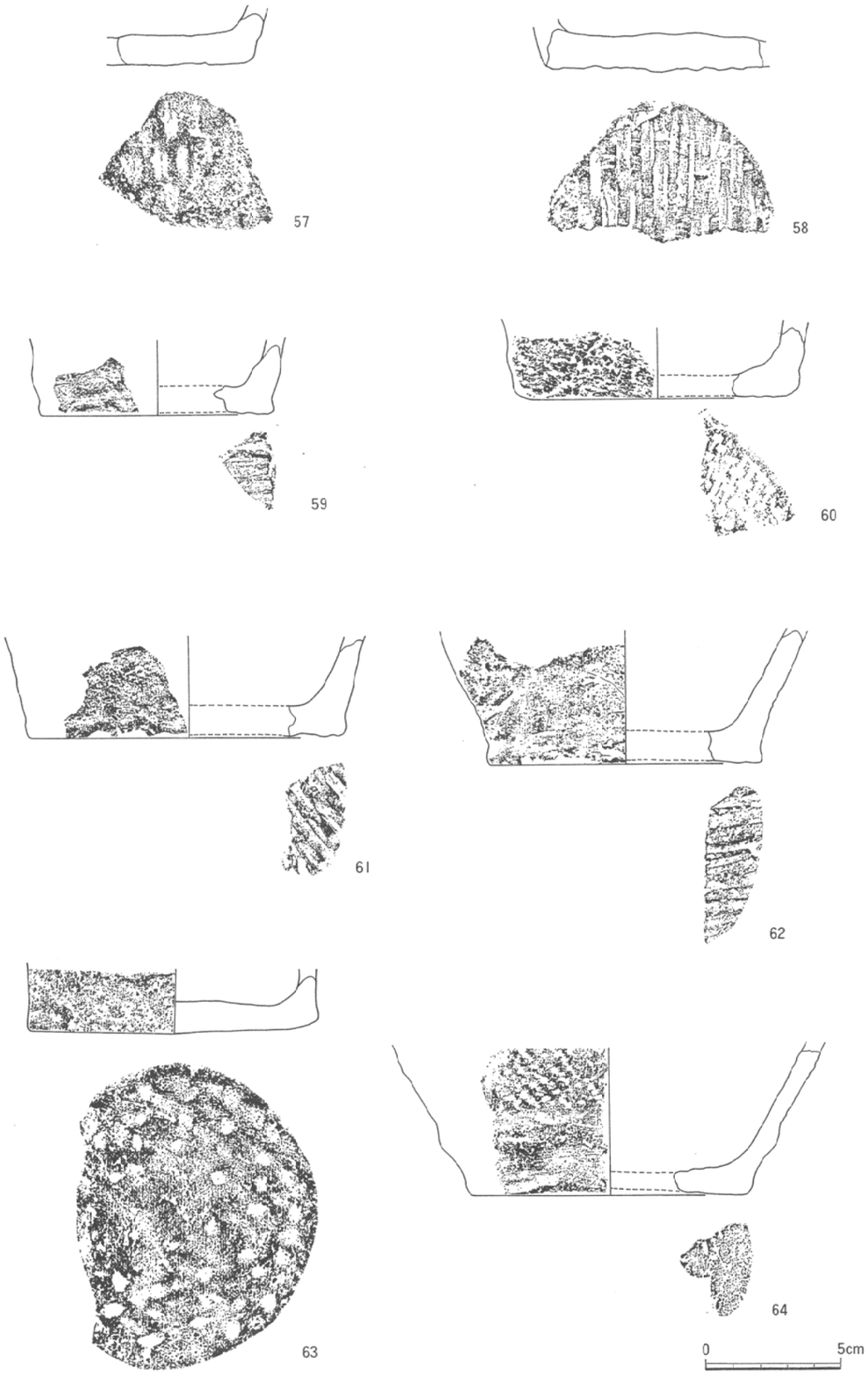
第15図　縄文土器実測図（３）



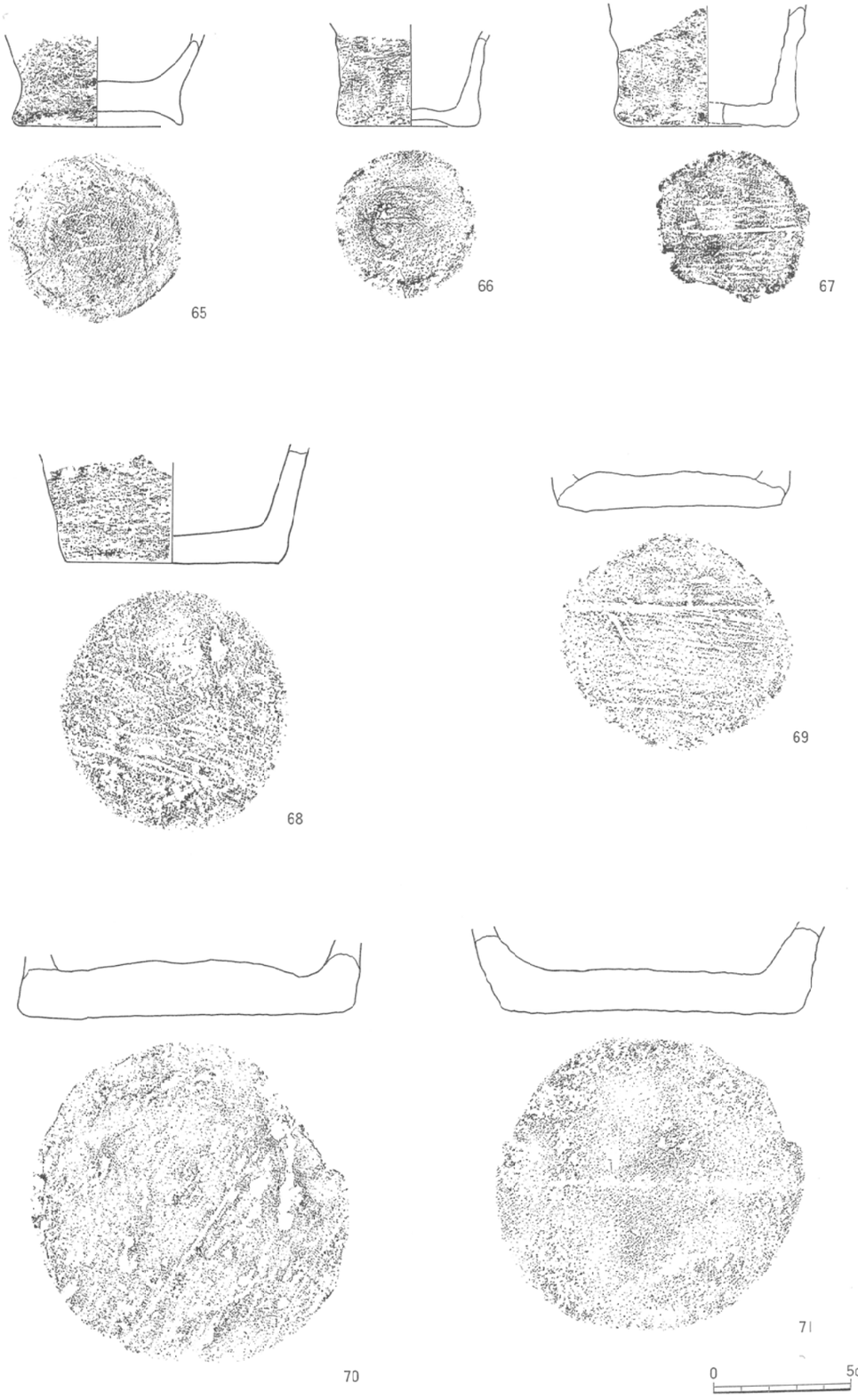
第16図　縄文土器実測図（4）



第17図　縄文土器実測図（5）



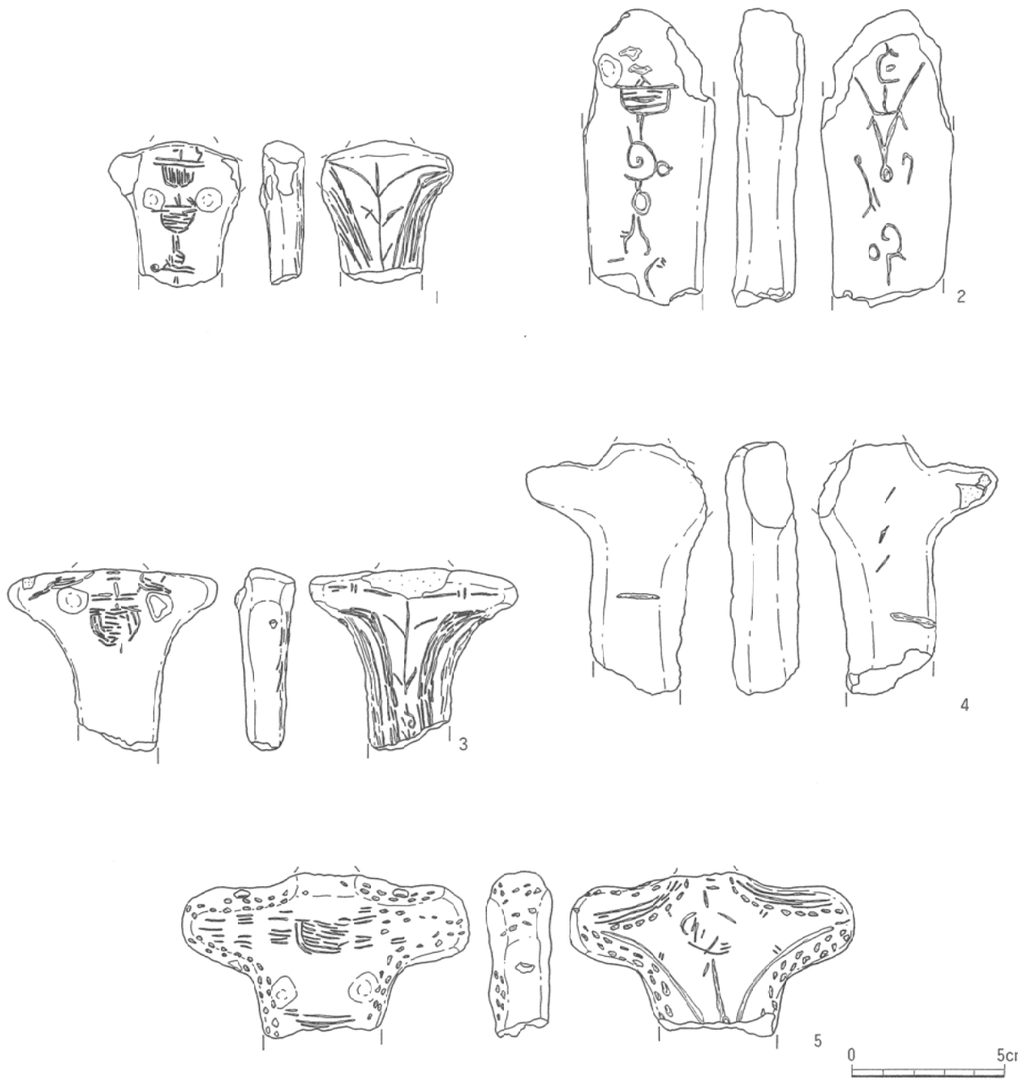
第18図　縄文土器実測図（６）



第19図　縄文土器実測図（７）

2　土偶（第20図，図版15）

18－10，20－13，21－9，22－12，22－14グリッドから、それぞれ１点ずつ５点出土した。現存部の高さそれぞれ、47.4㎜（№１）、93.6㎜（№２）、49.8㎜（№３）、80.4㎜（№４）、58.6㎜（№５）である。そのうち、肩部と胴部を残すのが４点（№１，３，４，５）と胴部だけを残すものが１点（№２）であり、他は欠損している。また、乳首を示していると思われるのが、№１，２，３，５に残存している。さらに、いずれも板状を呈し、その内４点（№１，３，４，５）には肩を貫通する穿孔痕があることから、懸垂するのが可能なように作られている。文様は№４を除き、いずれも細い沈線で表現されている。№１，３，５の背中は中心部から左右対称な模様に成っている。№５のものは刺突を施した文様をもっている。№２の沈線は、絵柄の文様に受け取られる独特なものである。



第20図　土偶実測図

3　石器類

石　鏃（第21図，図版16）

石鏃とは、矢の先端につける石製の矢じりである。全部で16点出土している。すべての石鏃は無茎鏃に分類できる。その中でも、基部に抉りのあるものが14点、円基鏃と言われる基部が丸みをおびるものが２点である。石材は頁岩が８点（№３，６，９，10，12，13，15，16）、玉髄が７点（№１，４，５，７，８，11，14）、瑪瑙が１点（№２）である。アスファルト付着の石鏃は１点（№13）出土したが、基部の抉りのある部分に限られている。

石　錐（第22図，図版16）

石錐とは石製の錐であり、剝片の縁辺に調整加工して、その一端に尖った先端部を作用した石器である。全部で８点出土した。形態的にみると、つまみをもち先端部を細身に尖らせたものが５点(№１，３，５，６，８)、不定形な剝片の一端に両端から加工調理して錐部をつくりだしたもの２点(№４，７)、細身棒状で両端部を加工調理したもの１点(№２)である。石材はすべて頁岩である。

箆状石器（第23，24，25図，図版17，18，19，20，21）

ほぼ左右が対称で上部が狭く、下方が広がっている形を示している。箆状石器は形態の変化が乏しく規格性の強い石器である。全部で30点出土したが、形状で分類して３種類に分けた。１つめは頭部が尖っていて、刃部に向けて大きく開くものが３点(№３，８，23)である。２つめは、頭部にやや幅があるものが21点（№１，２，４，５，６，７，９，10，11，12，13，14，15，16，17，18，19，20，22，24，25）である。３つめは、楕円形に近いものが５点（№26，27，28，29，30）である。（№21は頭部が欠損しているので省いた。）石材はすべて頁岩である。

掻器・削器（第26，27，28，29図，図版22，23，24，25，26）

大きさ、形態が一様でない不定形な剝片に二次加工を施した一群を一括した。37点の出土がある。形状、刃部の形態からつぎのように分類した。１つめは縦長剝片を用い、主としてその両側に加工を施したものが８点（№１，２，３，４，５，６，７，８）である。２つめは、縦長剝片の主としてその１側面に加工を施したものが14点（№９，10，11，12，13，14，15，16，17，18，19，20，21，22）である。３つめは、楕円形状で剝片全周近くに加工を施したものが５点（№23，24，25，26，27）である。４つめは、縦長で剝片全周近くに加工を施したものが10点（№28，29，30，31，32，33，34，35，36，37）である。石材はすべて頁岩である。

石　匙（第30図，図版27，28）

石匙とは、つまみ状の小突起をもち片面からの加撃によって刃部がつくられたものとし

た。石匙の機能については、万能ナイフであると言われている。全部で12点出土した。形態上分類は、縦型、横型、中間型との３種類に分けて考えてみた。縦型に当たるのが６点（№１，２，３，４，５，７）である。横型に当たるのが１点（№12）、中間型に当たるのが５点（№６，８，９，10，11）である。石材はすべて頁岩である。また、アスファルトが付着しているものが１点（№６）あった。つまみの部分にその痕が認められた。

磨製石斧（第31，32，33，34図，図版29，30，31）

定角式磨製石斧と呼ばれるものが、破片資料を含めると30点の出土があった。形状は、両側縁および頭部が研磨されたもので、石斧主面とのあいだに稜をつくり、断面は隅丸長方形となる。

凹　石（第35，36，37図，図版32）

やや扁平な円礫に凹痕を有する石器で、29点の出土がある。用途については、発火具として使用されたことと、堅果類の殻割り道具として使用されたことの２説がある。

磨　石（第37，38，39図，図版33）

河原石に磨痕の残る石器を磨石とした。ここでは、磨痕を有する礫のうち、凹みや敲打痕などがあるものは除外し、磨痕だけをもつ石器に限定した。16点の出土がある。

石　錘（第39図，図版34）

石錘の用途は漁網錘、釣りの錘などと考えられている。普通、石錘には円石の両端に網掛け用の切り込みを施した切目石錘と、円石に溝を施した有溝石錘の２種類がある。本遺跡では河原石を利用した切目石錘が５点出土した。

その他

不定形な剝片で、二次加工がわずかでも為されているものが123点あった。

石　皿（図版34）

中央を凹めた皿形の石器である。名称とは異なり、製粉器であり、食糧の粉砕・製粉や土器混和材としての石を粉末化したものと考えられている。８点の出土があった。

表―１　出土遺物観察表(1)

石　鏃

№	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	えぐり	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	18-12	玉髄	28.6	18.2	2.2	5.5	0.8	21		
2	18-12	瑪瑙	17.6	15.0	1.6	4.0	0.4	21		
3	22-8	頁岩	18.0	14.5	2.0	3.0	0.4	21	16	
4	22-11	玉髄	21.5	13.1	2.0	4.5	0.4	21		
5	19-8	玉髄	23.3	16.6	2.7	4.0	0.8	21		
6	21-8	頁岩	23.1	13.7	2.3	5.0	0.6	21	16	ST37
7	16-16	玉髄	33.3	15.6	3.2	5.0	1.2	21		
8	19-14	玉髄	29.5	16.7	3.0	5.5	1.0	21		
9	20-13	頁岩	(18.0)	14.6	2.1	4.5	(0.6)	21	16	
10	20-10	頁岩	15.7	11.1	2.2	2.0	0.4	21	16	
11	27-11	玉髄	19.6	12.2	2.4	4.0	0.4	21		
12	20-13	頁岩	19.4	12.6	1.6	3.0	0.4	21	16	
13	20-15	頁岩	22.6	14.6	3.0	3.0	0.9	21	16	
14	20-10	玉髄	23.7	11.6	2.4	2.0	0.8	21		
15	18-12	頁岩	(23.8)	14.6	4.5		(1.6)	21	16	
16	21-12	頁岩	24.6	11.0	3.8		0.8	21	16	

石　錐

№	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	21-13	頁岩	36.5	18.9	8.6	6.3	22	16	
2	23-11	頁岩	86.2	19.1	12.6	22.5	22	16	
3	9-12	頁岩	51.6	22.1	9.3	6.8	22	16	
4	24-8	頁岩	66.2	41.8	9.8	23.9	22	16	ST99
5	22-8	頁岩	28.9	17.2	4.4	2.1	22	16	
6	18-4	頁岩	37.5	12.4	8.7	3.2	22	16	
7	18-11	頁岩	47.1	44.7	10.9	16.2	22	16	
8	24-7	頁岩	31.2	13.4	6.9	2.6	22	16	

箆状石器

№	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	24-9	頁岩	80.2	40.6	19.1	37.2	23	17	
2	23-9	頁岩	87.3	40.0	18.6	78.2	23	17	
3	19-9	頁岩	82.6	37.8	17.5	53.8	23	17	
4	24-11	頁岩	72.7	37.6	16.0	47.9	23	17	SK50
5	20-6	頁岩	82.9	44.2	18.6	77.4	23	17	
6	20-8	頁岩	87.4	39.2	12.3	61.1	23	17	
7	24-12	頁岩	65.4	41.1	13.0	36.5	23	18	
8	18-11	頁岩	79.6	37.5	12.0	41.3	23	18	
9	23-10	頁岩	72.9	38.6	12.0	38.3	24	18	
10	23-11	頁岩	72.7	40.0	14.6	46.8	24	18	
11	23-11	頁岩	69.5	40.1	19.0	56.6	24	18	
12	8-12	頁岩	69.2	31.1	13.6	28.8	24	18	
13	19-11	頁岩	75.2	39.3	17.0	52.0	24	19	
14	21-8	頁岩	71.6	32.9	16.5	39.6	24	19	
15	23-12	頁岩	64.1	32.5	17.1	34.3	24	19	

表一２　出土遺物観察表(2)

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
16	24-9	頁岩	64.4	35.0	17.6	61.9	24	19	
17	23-7	頁岩	67.3	34.1	14.6	44.9	24	19	ST1
18	19-9	頁岩	67.9	30.1	16.4	31.9	24	19	
19	23-8	頁岩	59.6	32.0	13.0	25.8	25	20	
20	21-8	頁岩	62.3	33.6	9.5	21.1	25	20	
21	23-8	頁岩	(42.6)	(32.9)	(10.1)	(19.0)	25	20	
22	24-11	頁岩	(57.6)	(38.8)	(11.6)	(24.5)	25	20	
23	26-10	頁岩	64.0	36.9	17.3	43.4	25	20	
24	13-9	頁岩	76.3	41.8	22.6	76.7	25	20	
25	19-10	頁岩	119.6	41.0	22.0	99.4	25	21	
26	17-12	頁岩	82.0	26.5	18.4	42.1	25	21	
27	23-11	頁岩	56.9	25.4	11.3	17.5	25	21	
28	19-10	頁岩	64.5	22.5	13.4	25.7	25	21	
29	19-8	頁岩	72.6	29.7	16.4	43.9	25	21	
30	17-16	頁岩	85.4	30.0	18.0	50.2	25	21	

掻器・削器

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	21-13	頁岩	99.9	52.7	15.9	98.1	26	22	
2	23-8	頁岩	124.5	50.9	21.5	115.3	26	22	
3	22-11	頁岩	94.9	43.3	8.4	46.6	26	22	
4	16-20	頁岩	62.4	55.8	9.8	48.6	26	22	
5	18-12	頁岩	82.0	42.0	17.1	59.2	26	22	
6	20-8	頁岩	75.4	32.4	10.0	20.0	26	22	
7	22-12	頁岩	64.3	21.6	7.0	12.9	26		
8	24-9	頁岩	60.6	27.6	9.6	17.0	26		
9	21-7	頁岩	90.0	43.6	12.6	49.2	27	23	
10	21-11	頁岩	89.8	31.7	12.2	41.8	27	23	
11	22-10	頁岩	89.9	51.5	29.2	65.8	27	23	
12	21-7	頁岩	108.9	25.1	11.0	41.6	27	23	
13	24-8	頁岩	80.2	29.3	14.8	18.8	27	23	
14	25-8	頁岩	71.5	42.2	15.5	47.5	27	23	
15	23-7	頁岩	56.0	12.4	9.3	10.4	27		
16	20-9	頁岩	67.4	30.5	11.0	21.3	27		ST32
17	19-13	頁岩	73.9	22.7	10.5	20.9	27	24	
18	22-11	頁岩	79.5	42.7	9.1	30.4	28	24	
19	20-11	頁岩	85.3	42.7	19.3	54.1	28	24	ST9
20	24-12	頁岩	94.2	31.4	17.0	49.7	28	24	
21	22-9	頁岩	23.6	41.7	18.9	62.6	28	24	
22	XO	頁岩	77.2	22.2	8.1	13.7	28	24	
23	25-12	頁岩	66.4	54.3	12.1	45.6	28	25	
24	19-9	頁岩	71.7	69.8	15.5	69.0	28	25	
25	18-12	頁岩	84.8	43.1	16.1	53.1	28	25	
26	22-12	頁岩	73.3	38.1	10.7	29.9	28	25	
27	18-12	頁岩	54.8	32.6	18.6	21.3	28	25	
28	19-13	頁岩	85.8	33.4	12.7	27.3	29	26	
29	20-9	頁岩	77.1	23.6	13.0	34.7	29	26	
30	21-6	頁岩	58.3	22.1	14.5	23.5	29	26	

表一３　出土遺物観察表(3)

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
31	20-13	頁岩	61.4	26.0	12.9	21.1	29	26	
32	20-9	頁岩	66.7	21.9	6.2	11.2	29	26	
33	23-8	頁岩	51.4	23.0	5.5	9.7	29	26	ST99
34	21-7	頁岩	70.8	12.7	13.2	14.6	29	26	
35	21-8	頁岩	50.5	17.1	14.3	19.5	29	26	
36	21-11	頁岩	59.6	26.6	9.8	17.4	29	26	
37	19-12	頁岩	41.5	13.8	6.7	4.1	29	26	

石匙

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	23-7	頁岩	121.8	27.6	9.2	28.5	30	27	
2	17-16	頁岩	77.5	27.6	8.0	10.4	30	27	
3	23-14	頁岩	88.6	33.9	15.1	60.9	30	27	
4	21-8	頁岩	80.3	17.2	6.3	7.7	30	27	
5	20-13	頁岩	69.2	20.5	5.9	6.8	30	27	
6	19-8	頁岩	42.7	29.1	8.2	10.3	30	28	
7	21-10	頁岩	76.8	24.0	8.7	16.9	30	27	
8	21-13	頁岩	85.3	42.4	16.2	49.1	30	28	
9	15-10	頁岩	68.1	27.4	11.4	18.3	30	28	
10	17-15	頁岩	56.6	31.1	9.4	12.4	30	28	
11	9-11	頁岩	62.4	42.3	7.5	21.8	30	28	
12	25-12	頁岩	72.4	68.8	18.9	79.9	30	28	

磨製石斧

No.	出土区	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	20-10	(101.5)	(53.2)	(29.3)	(226.2)	31	29	
2	23-12	(127.9)	(49.2)	(21.7)	(227.1)	31	29	
3	21-7	(97.1)	(55.4)	(24.8)	(217.0)	31	29	
4	20-17	(93.6)	(62.4)	(37.9)	(302.0)	31	29	
5	20-11	(102.2)	(63.9)	(33.4)	(399.0)	31	29	
6	23-15	(110.4)	(47.4)	(24.9)	(233.6)	31	29	
7	18-10	(84.9)	(53.4)	(31.9)	(184.2)	31	29	
8	21-9	(55.3)	(42.6)	(25.7)	(88.3)	31	29	
9	22-7	(110.5)	(74.3)	(38.2)	(558.5)	32	29	
10	19-14	(61.4)	(37.2)	(22.5)	(67.9)	32	29	
11	22-8	(55.1)	(37.8)	(24.3)	(73.1)	32	30	
12	20-13,24-14	(142.8)	(58.2)	(32.7)	(390.1)	32	30	
13	17-16	(60.9)	(43.6)	(22.9)	(91.7)	32	30	
14	22-10	(117.9)	(57.6)	(26.5)	(280.2)	32	30	
15	22-8	(52.9)	(39.4)	(25.9)	(90.0)	32	30	
16	24-9	(46.4)	(45.4)	(27.6)	(75.9)	32	30	
17	21-9	(108.5)	(61.2)	(30.1)	(303.2)	33	30	
18	19-15	(108.8)	(52.2)	(29.1)	(249.9)	33	30	
19	18-11	(112.2)	(44.5)	(26.3)	(217.3)	33	30	
20	23-8	(115.3)	(46.2)	(18.6)	(158.1)	33	30	
21	19-12	(84.8)	(48.7)	(29.4)	(153.9)	33	31	

表一２　出土遺物観察表(2)

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
16	24-9	頁岩	64.4	35.0	17.6	61.9	24	19	
17	23-7	頁岩	67.3	34.1	14.6	44.9	24	19	ST 1
18	19-9	頁岩	67.9	30.1	16.4	31.9	24	19	
19	23-8	頁岩	59.6	32.0	13.0	25.8	25	20	
20	21-8	頁岩	62.3	33.6	9.5	21.1	25	20	
21	23-8	頁岩	(42.6)	(32.9)	(10.1)	(19.0)	25	20	
22	24-11	頁岩	(57.6)	(38.8)	(11.6)	(24.5)	25	20	
23	26-10	頁岩	64.0	36.9	17.3	43.4	25	20	
24	13-9	頁岩	76.3	41.8	22.6	76.7	25	20	
25	19-10	頁岩	119.6	41.0	22.0	99.4	25	21	
26	17-12	頁岩	82.0	26.5	18.4	42.1	25	21	
27	23-11	頁岩	56.9	25.4	11.3	17.5	25	21	
28	19-10	頁岩	64.5	22.5	13.4	25.7	25	21	
29	19-8	頁岩	72.6	29.7	16.4	43.9	25	21	
30	17-16	頁岩	85.4	30.0	18.0	50.2	25	21	

掻器・削器

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	21-13	頁岩	99.9	52.7	15.9	98.1	26	22	
2	23-8	頁岩	124.5	50.9	21.5	115.3	26	22	
3	22-11	頁岩	94.9	43.3	8.4	46.6	26	22	
4	16-20	頁岩	62.4	55.8	9.8	48.6	26	22	
5	18-12	頁岩	82.0	42.0	17.1	59.2	26	22	
6	20-8	頁岩	75.4	32.4	10.0	20.0	26	22	
7	22-12	頁岩	64.3	21.6	7.0	12.9	26		
8	24-9	頁岩	60.6	27.6	9.6	17.0	26		
9	21-7	頁岩	90.0	43.6	12.6	49.2	27	23	
10	21-11	頁岩	89.8	31.7	12.2	41.8	27	23	
11	22-10	頁岩	89.9	51.5	29.2	65.8	27	23	
12	21-7	頁岩	108.9	25.1	11.0	41.6	27	23	
13	24-8	頁岩	80.2	29.3	14.8	18.8	27	23	
14	25-8	頁岩	71.5	42.2	15.5	47.5	27	23	
15	23-7	頁岩	56.0	12.4	9.3	10.4	27		
16	20-9	頁岩	67.4	30.5	11.0	21.3	27		ST32
17	19-13	頁岩	73.9	22.7	10.5	20.9	27	24	
18	22-11	頁岩	79.5	42.7	9.1	30.4	28	24	
19	20-11	頁岩	85.3	42.7	19.3	54.1	28	24	ST 9
20	24-12	頁岩	94.2	31.4	17.0	49.7	28	24	
21	22-9	頁岩	23.6	41.7	18.9	62.6	28	24	
22	XO	頁岩	77.2	22.2	8.1	13.7	28	24	
23	25-12	頁岩	66.4	54.3	12.1	45.6	28	25	
24	19-9	頁岩	71.7	69.8	15.5	69.0	28	25	
25	18-12	頁岩	84.8	43.1	16.1	53.1	28	25	
26	22-12	頁岩	73.3	38.1	10.7	29.9	28	25	
27	18-12	頁岩	54.8	32.6	18.6	21.3	28	25	
28	19-13	頁岩	85.8	33.4	12.7	27.3	29	26	
29	20-9	頁岩	77.1	23.6	13.0	34.7	29	26	
30	21-6	頁岩	58.3	22.1	14.5	23.5	29	26	

表一３　出土遺物観察表(3)

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
31	20-13	頁岩	61.4	26.0	12.9	21.1	29	26	
32	20-9	頁岩	66.7	21.9	6.2	11.2	29	26	
33	23-8	頁岩	51.4	23.0	5.5	9.7	29	26	ST99
34	21-7	頁岩	70.8	12.7	13.2	14.6	29	26	
35	21-8	頁岩	50.5	17.1	14.3	19.5	29	26	
36	21-11	頁岩	59.6	26.6	9.8	17.4	29	26	
37	19-12	頁岩	41.5	13.8	6.7	4.1	29	26	

石　匙

No.	出土区	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	23-7	頁岩	121.8	27.6	9.2	28.5	30	27	
2	17-16	頁岩	77.5	27.6	8.0	10.4	30	27	
3	23-14	頁岩	88.6	33.9	15.1	60.9	30	27	
4	21-8	頁岩	80.3	17.2	6.3	7.7	30	27	
5	20-13	頁岩	69.2	20.5	5.9	6.8	30	27	
6	19-8	頁岩	42.7	29.1	8.2	10.3	30	28	
7	21-10	頁岩	76.8	24.0	8.7	16.9	30	27	
8	21-13	頁岩	85.3	42.4	16.2	49.1	30	28	
9	15-10	頁岩	68.1	27.4	11.4	18.3	30	28	
10	17-15	頁岩	56.6	31.1	9.4	12.4	30	28	
11	9-11	頁岩	62.4	42.3	7.5	21.8	30	28	
12	25-12	頁岩	72.4	68.8	18.9	79.9	30	28	

磨製石斧

No.	出土区	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
1	20-10	(101.5)	(53.2)	(29.3)	(226.2)	31	29	
2	23-12	(127.9)	(49.2)	(21.7)	(227.1)	31	29	
3	21-7	(97.1)	(55.4)	(24.8)	(217.0)	31	29	
4	20-17	(93.6)	(62.4)	(37.9)	(302.0)	31	29	
5	20-11	(102.2)	(63.9)	(33.4)	(399.0)	31	29	
6	23-15	(110.4)	(47.4)	(24.9)	(233.6)	31	29	
7	18-10	(84.9)	(53.4)	(31.9)	(184.2)	31	29	
8	21-9	(55.3)	(42.6)	(25.7)	(88.3)	31	29	
9	22-7	(110.5)	(74.3)	(38.2)	(558.5)	32	29	
10	19-14	(61.4)	(37.2)	(22.5)	(67.9)	32	29	
11	22-8	(55.1)	(37.8)	(24.3)	(73.1)	32	30	
12	20-13,24-14	(142.8)	(58.2)	(32.7)	(390.1)	32	30	
13	17-16	(60.9)	(43.6)	(22.9)	(91.7)	32	30	
14	22-10	(117.9)	(57.6)	(26.5)	(280.2)	32	30	
15	22-8	(52.9)	(39.4)	(25.9)	(90.0)	32	30	
16	24-9	(46.4)	(45.4)	(27.6)	(75.9)	32	30	
17	21-9	(108.5)	(61.2)	(30.1)	(303.2)	33	30	
18	19-15	(108.8)	(52.2)	(29.1)	(249.9)	33	30	
19	18-11	(112.2)	(44.5)	(26.3)	(217.3)	33	30	
20	23-8	(115.3)	(46.2)	(18.6)	(158.1)	33	30	
21	19-12	(84.8)	(48.7)	(29.4)	(153.9)	33	31	

表一4　出土遺物観察表(4)

No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
		長さ	幅	厚さ				
22	23-13	(89.5)	(49.3)	(25.4)	(167.2)	33	31	
23	18-12	(77.9)	(53.9)	(26.6)	(190.9)	34	31	
24	25-8	(74.9)	(52.4)	(24.8)	(161.1)	34	31	
25	23-8	(55.3)	(47.4)	(22.4)	(104.2)	34	31	
26	21-12	(75.3)	(48.2)	(23.6)	(123.9)	34	31	
27	20-11	80.1	36.5	17.3	84.4	34	31	
28	22-6	69.3	37.4	15.9	56.8	34	31	
29	21-8	(48.5)	(49.3)	(26.8)	(84.2)	34	31	
30	20-13	61.9	29.2	11.5	33.7	34	31	

凹石

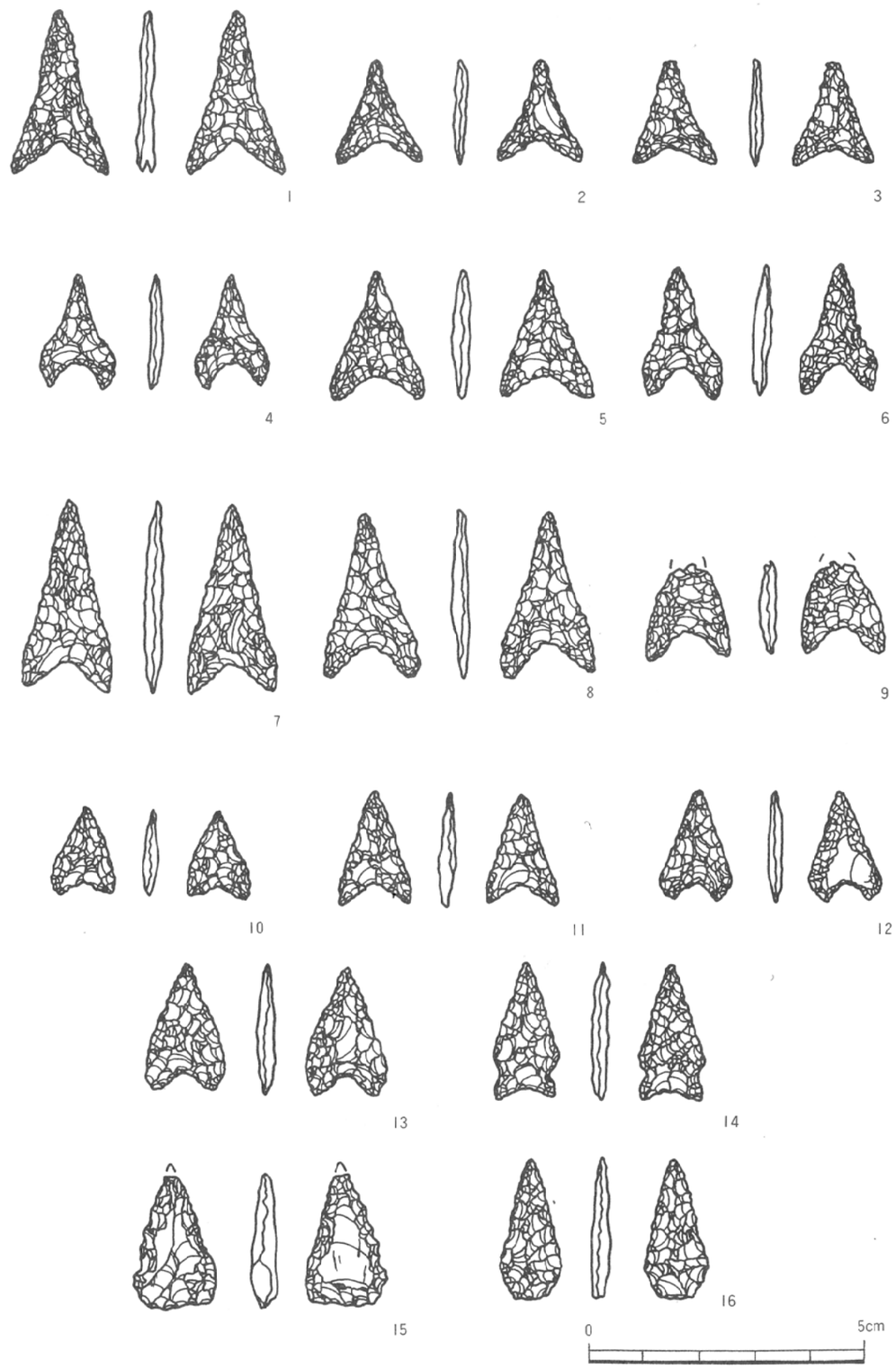
No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
		長さ	幅	厚さ				
1	20-15	94.8	88.9	45.5	468	35	32	
2	21-8	91.6	69.8	45.8	422	35	32	
3	17-12	104.5	88.6	48.1	645	35	32	
4	21-10	117.9	75.9	38.7	465	35	32	
5	23-8	129.9	97.2	44.6	580	36	32	
6	20-9	101.2	92.5	45.2	654	36	32	
7	21-8	139.3	88.9	45.6	892	36	32	
8	23-8	88.1	67.5	39.7	665	36	32	
9	17-11	145.2	96.7	66.1	1380	37	32	
10	23-14	65.8	55.3	32.1	115	37		
11	23-8	110.3	84.3	53.6	350	37		

磨石

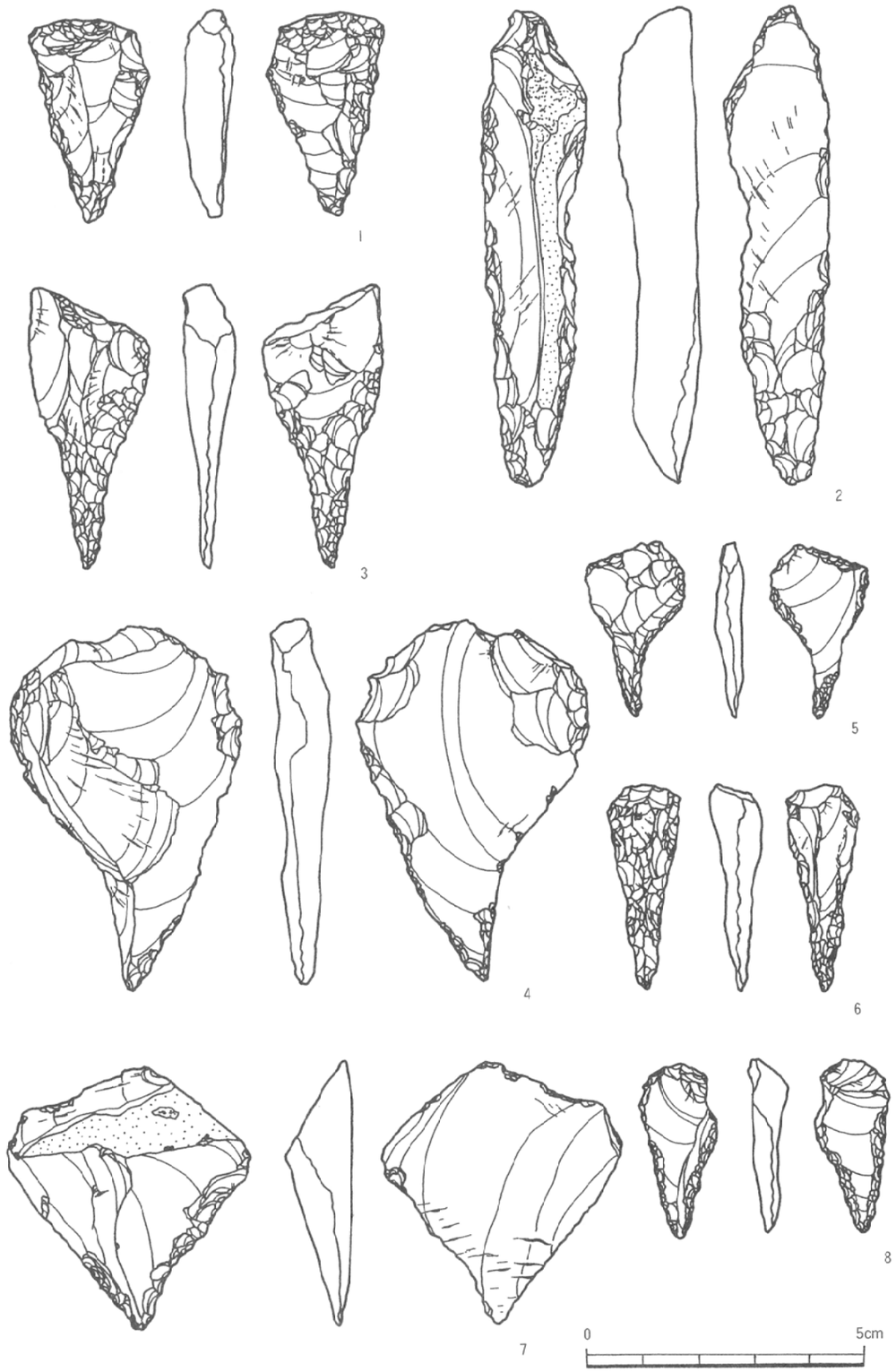
No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
		長さ	幅	厚さ				
1	24-9	108.9	99.4	66.3	990	37	33	
2	19-8	179.9	103.2	59.8	1790	38	33	
3	22-13	157.5	75.8	55.1	945	38	33	
4	XO	129.3	68.6	46.7	600	38	33	
5	20-8	76.1	70.1	64.9	510	39	33	
6	22-6	127.5	86.3	62.9	1040	39	33	
7	22-14	120.5	89.8	68.8	1050	39	33	

石錘

No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	挿図番号	図版番号	備考
		長さ	幅	厚さ				
1	24-9	50.6	41.4	17.7	39.8	39	34	
2	9-17	46.9	31.9	19.9	29.8	39	34	
3	24-9	46.7	37.8	16.2	35.8	39	34	
4	17-17	37.2	30.2	16.8	18.8	39	34	
5	26-10	42.9	31.1	18.5	29.8	39	34	



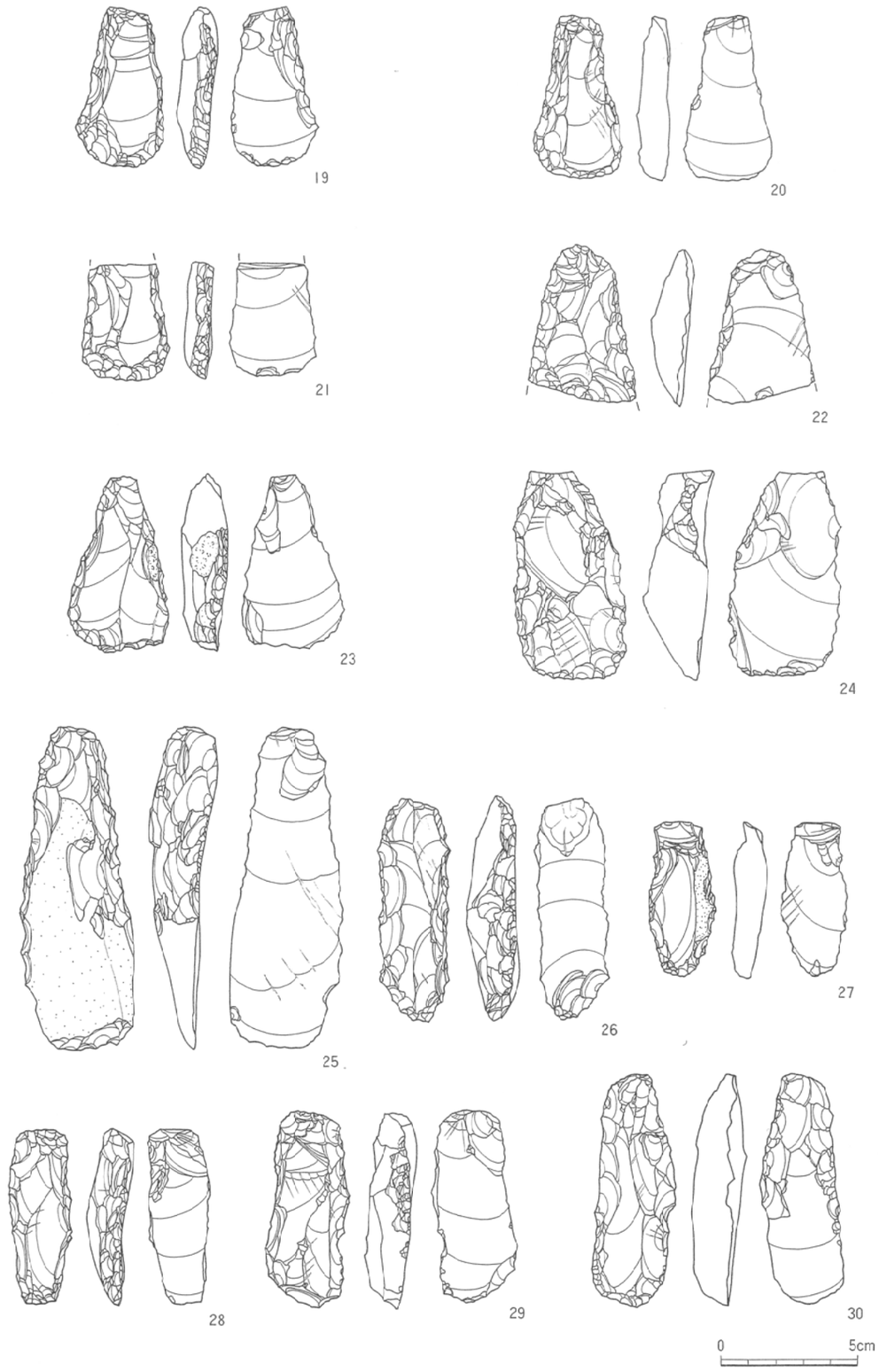
第21図　石鏃実測図



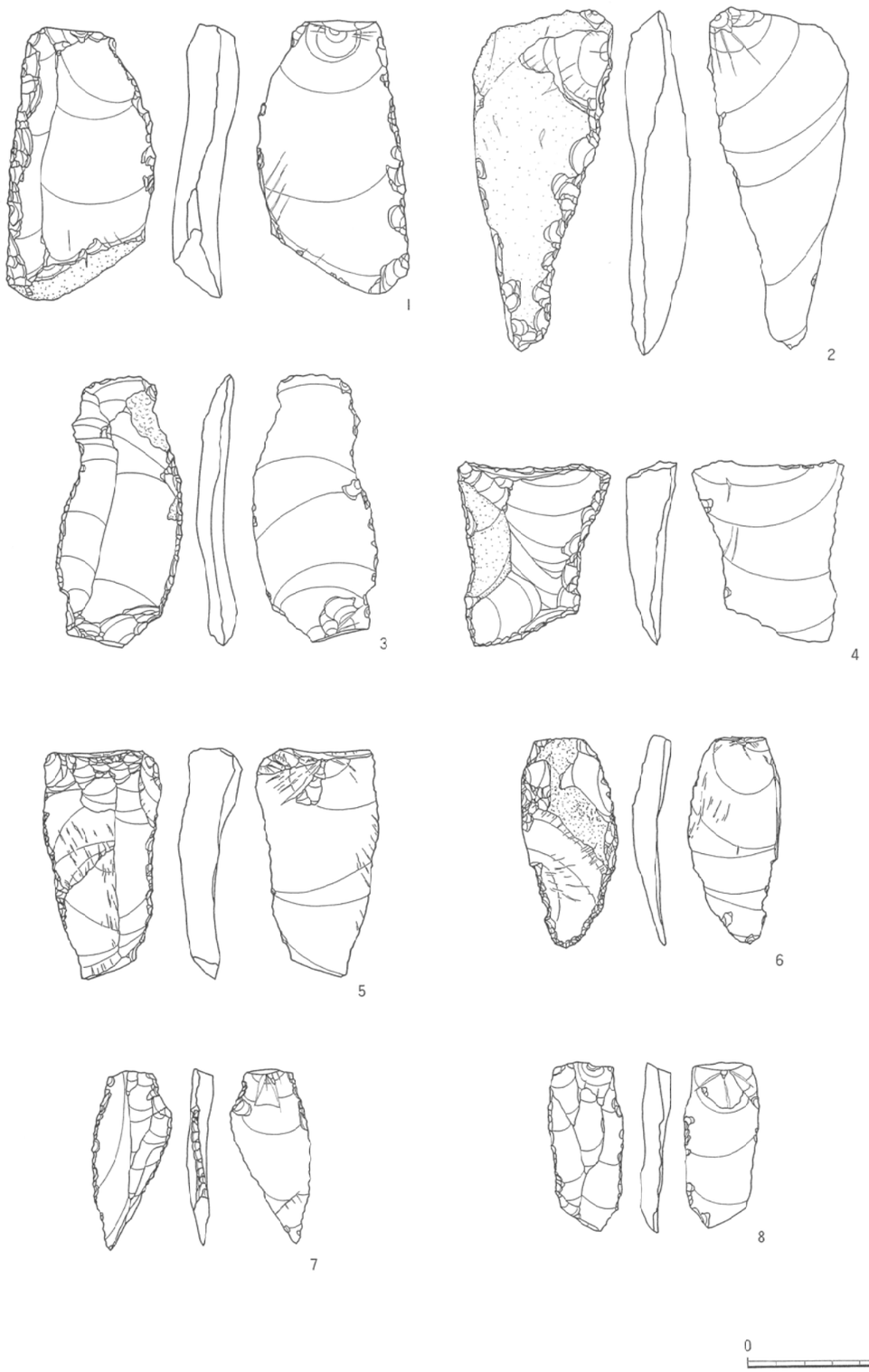
第22図　石錐実測図

第23図　篦状石器実測図（Ⅰ）

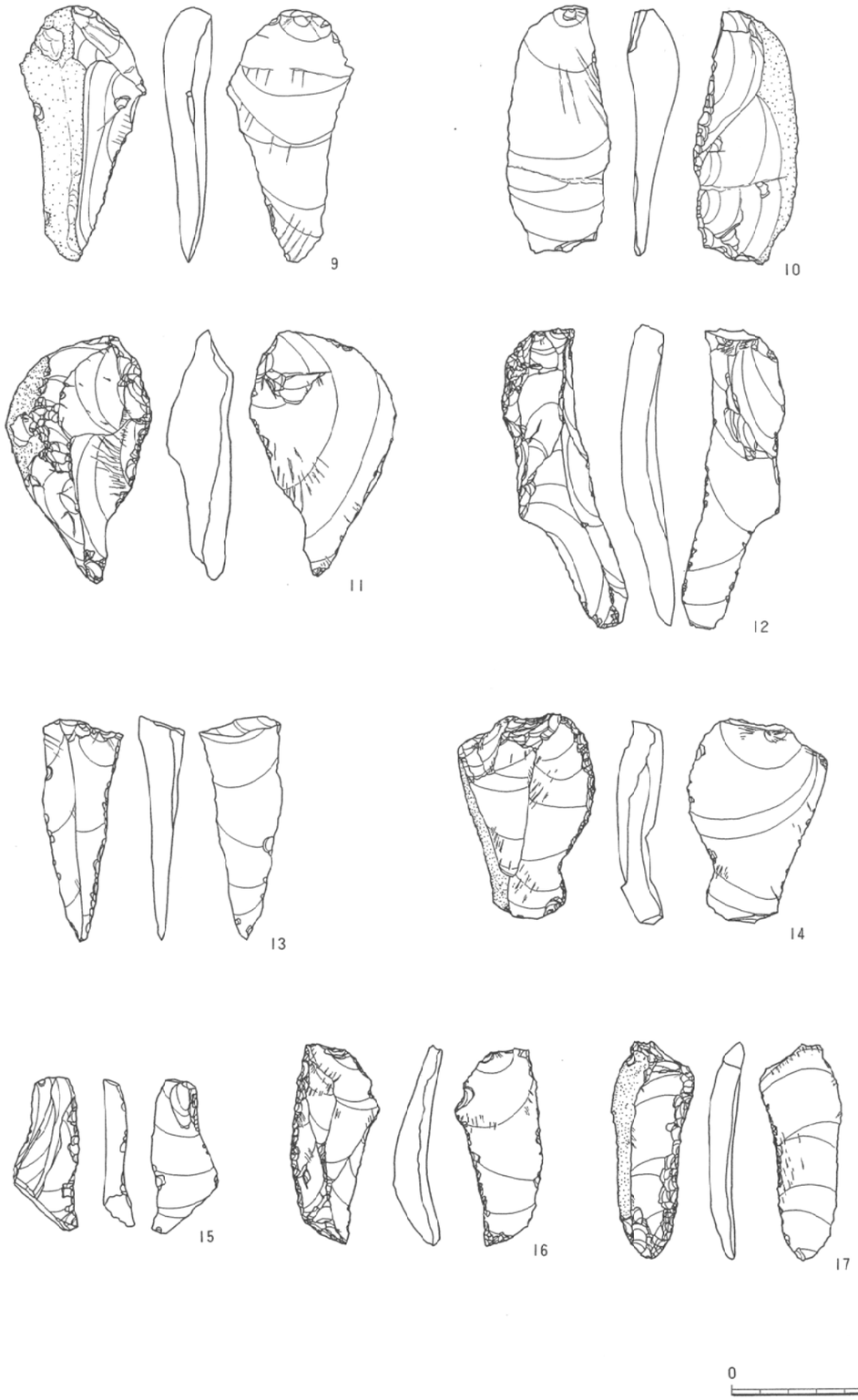
第24図　箆状石器実測図（２）



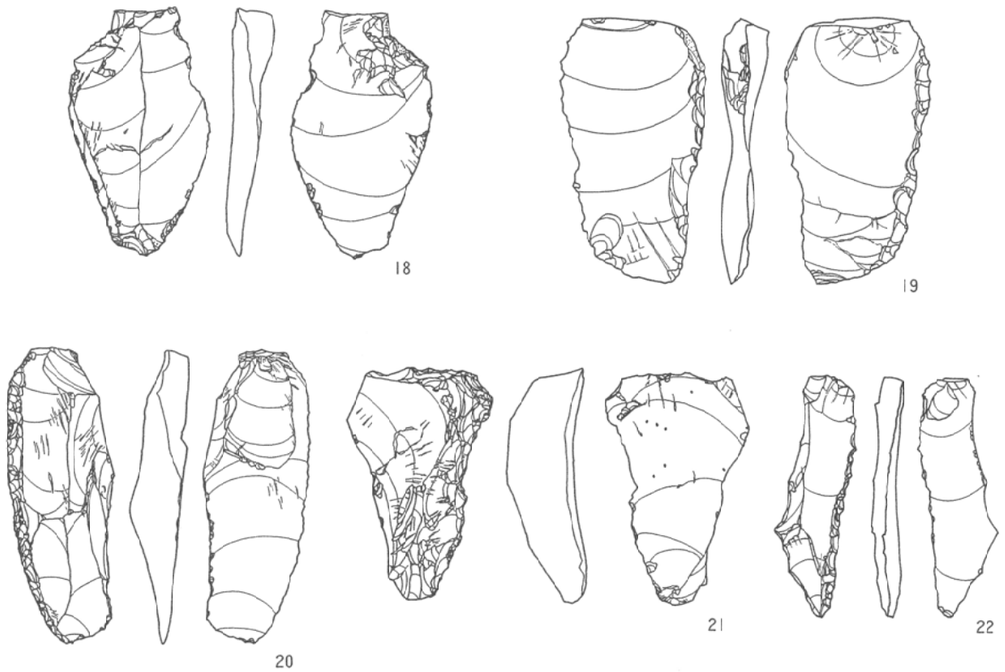
第25図　箆状石器実測図（３）

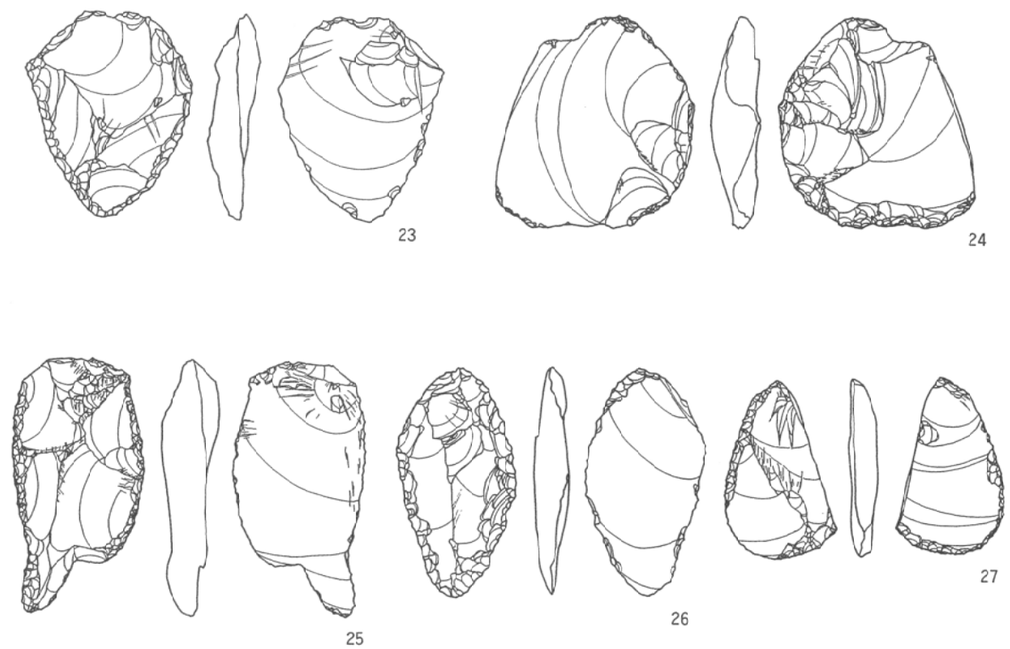


第26図　掻器・削器実測図（1）



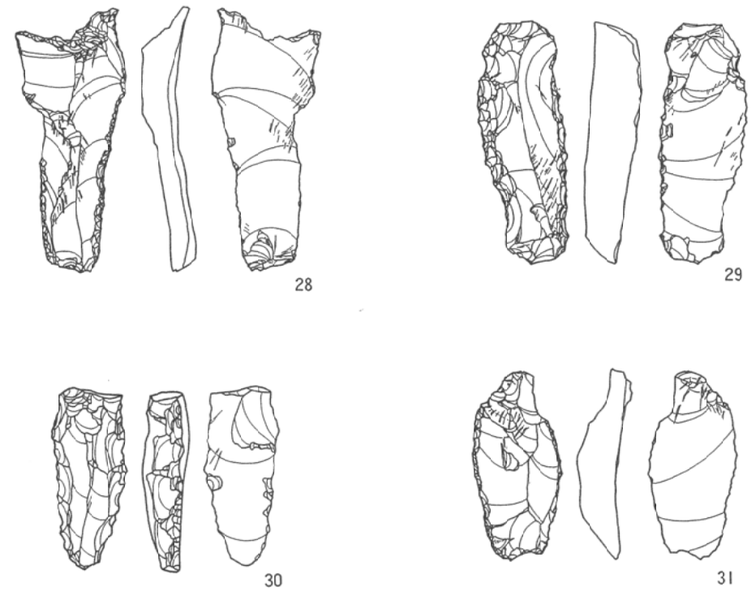
第27図　掻器・削器実測図（2）

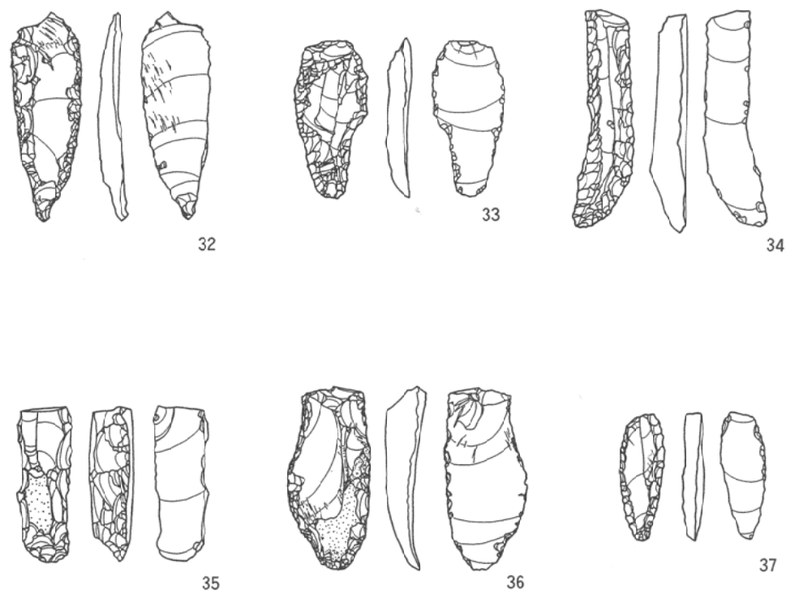




0　5cm

第28図　掻器・削器実測図（3）

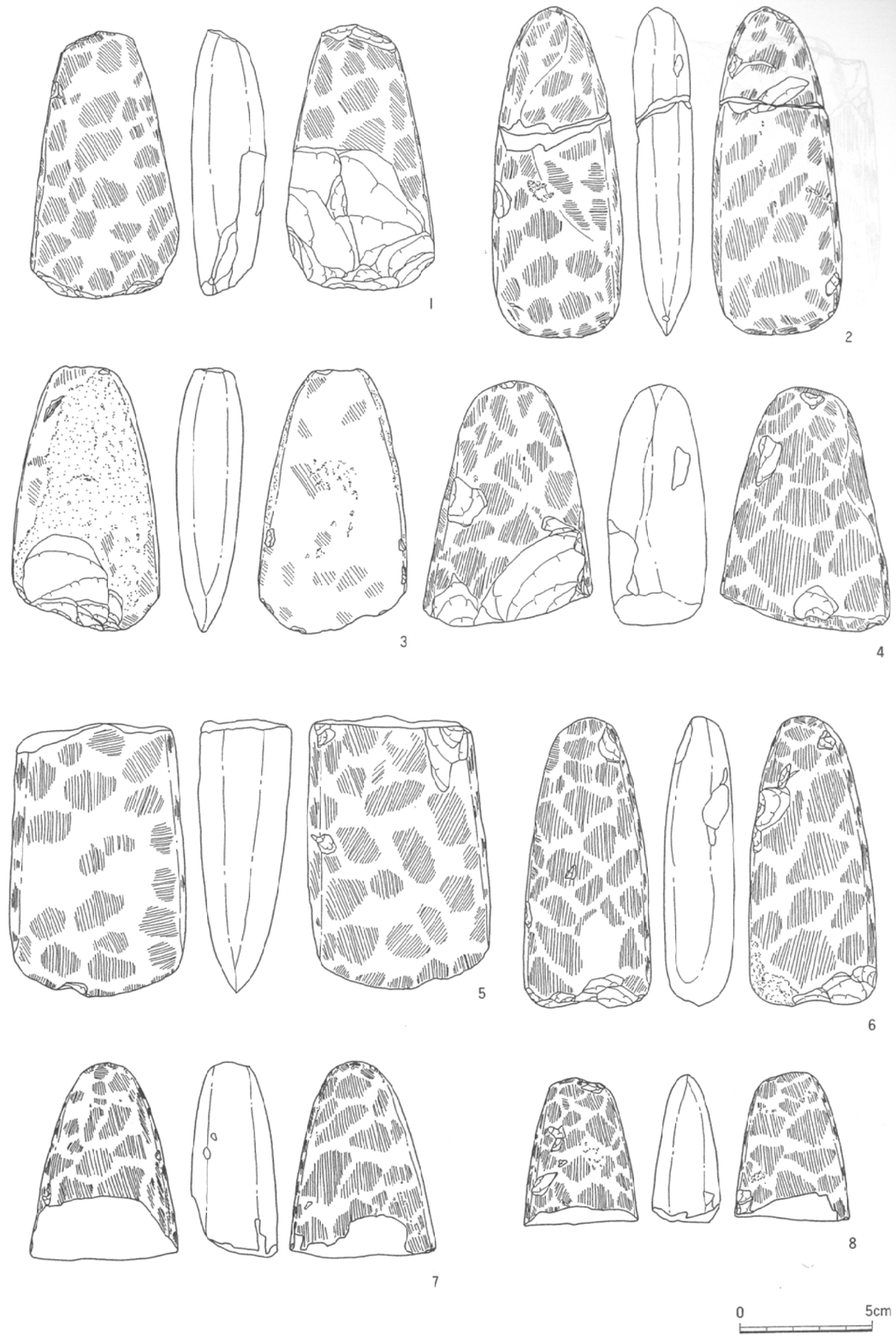




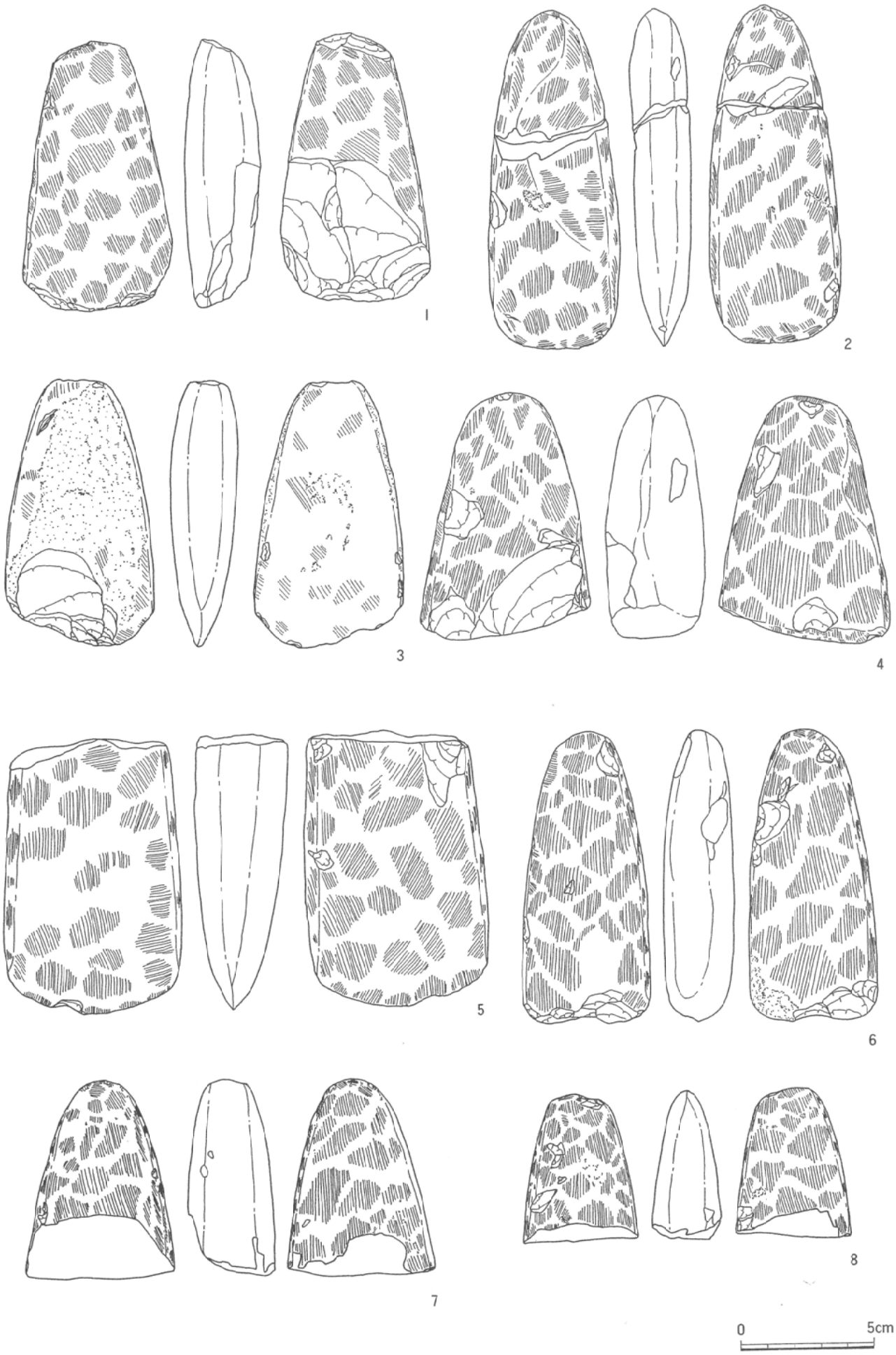
0　5cm

第29図　掻器・削器実測図（4）

第30図　石匙実測図

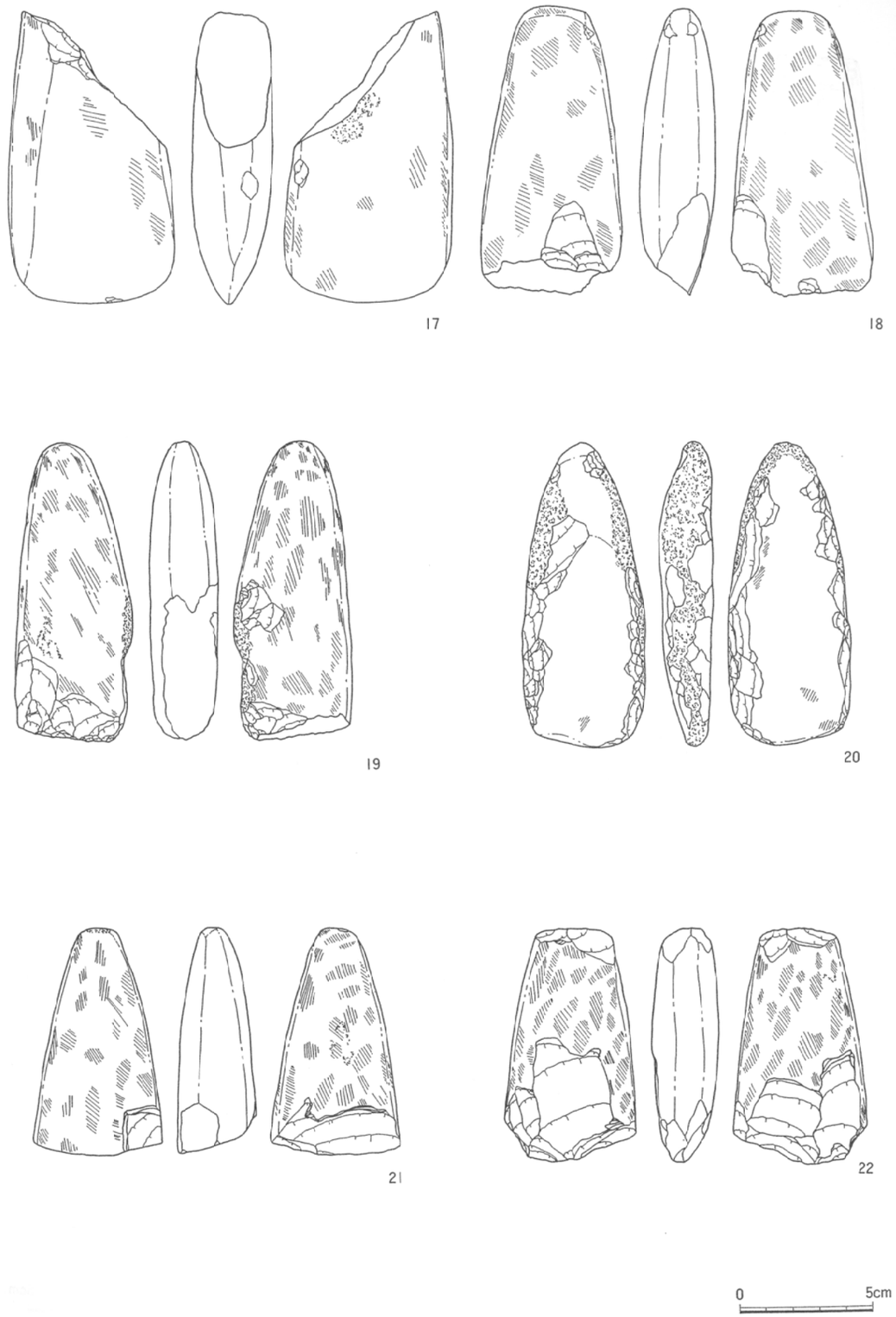


第31図　磨製石斧実測図（1）

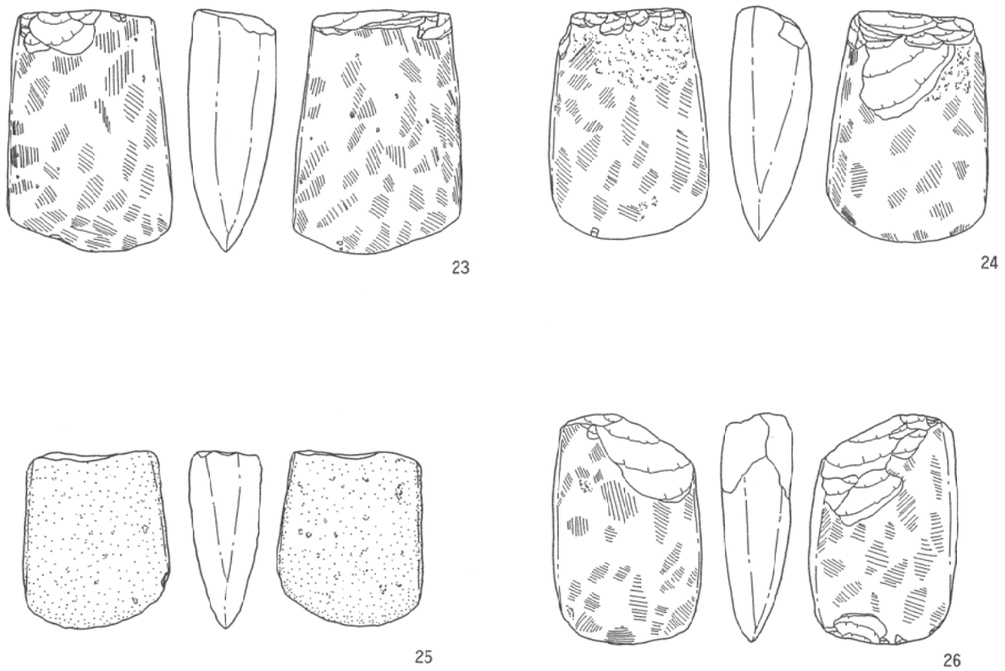


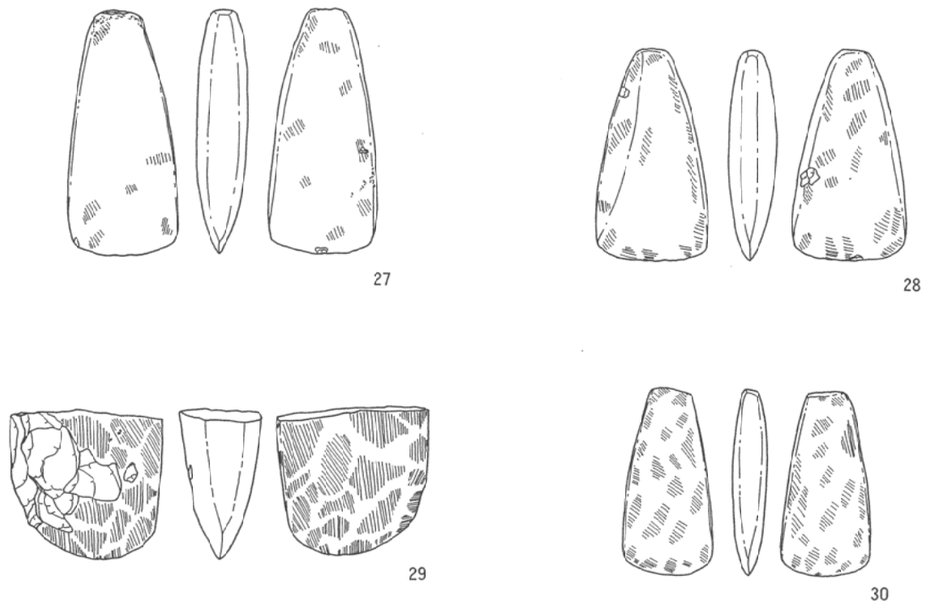
第31図　磨製石斧実測図（Ⅰ）

第32図　磨製石斧実測図（２）



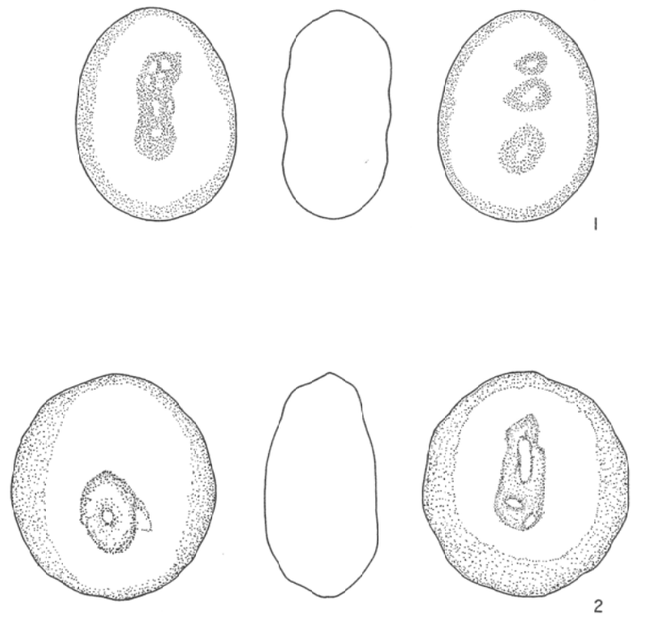
第33図　磨製石斧実測図（３）

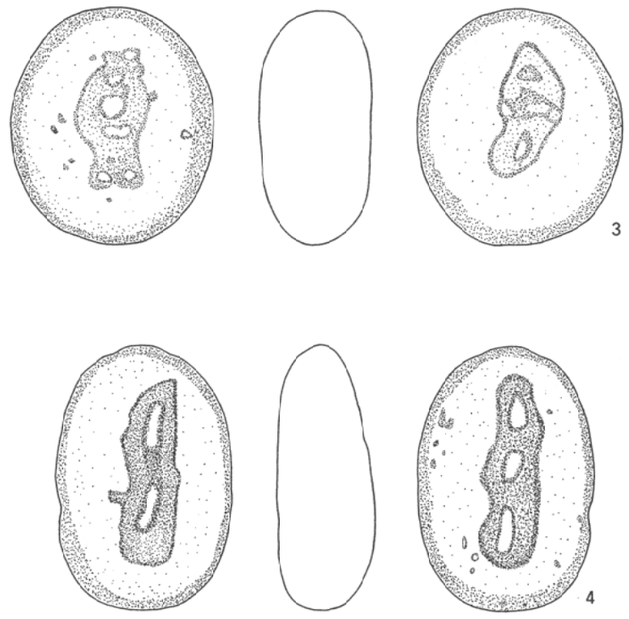




0　5cm

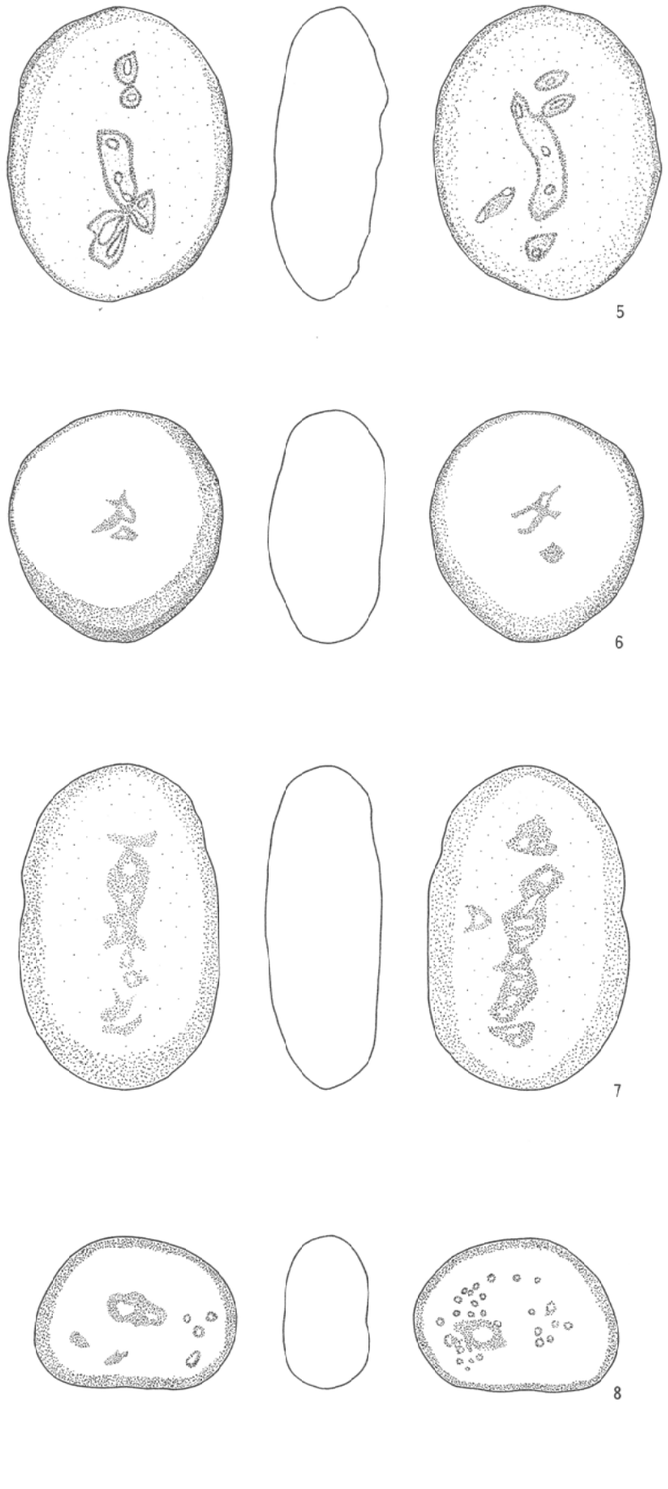
第34図　磨製石斧実測図（４）



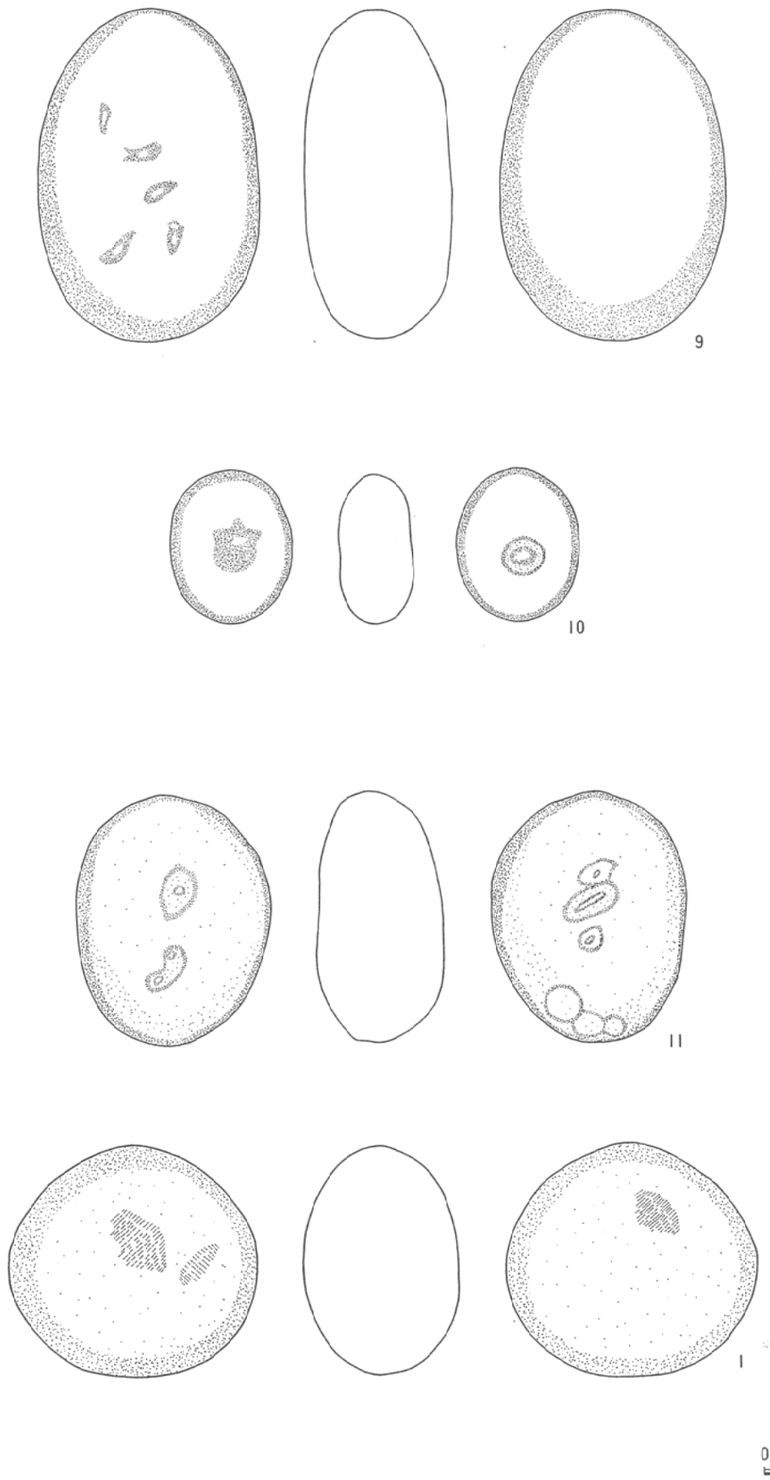


0　5cm

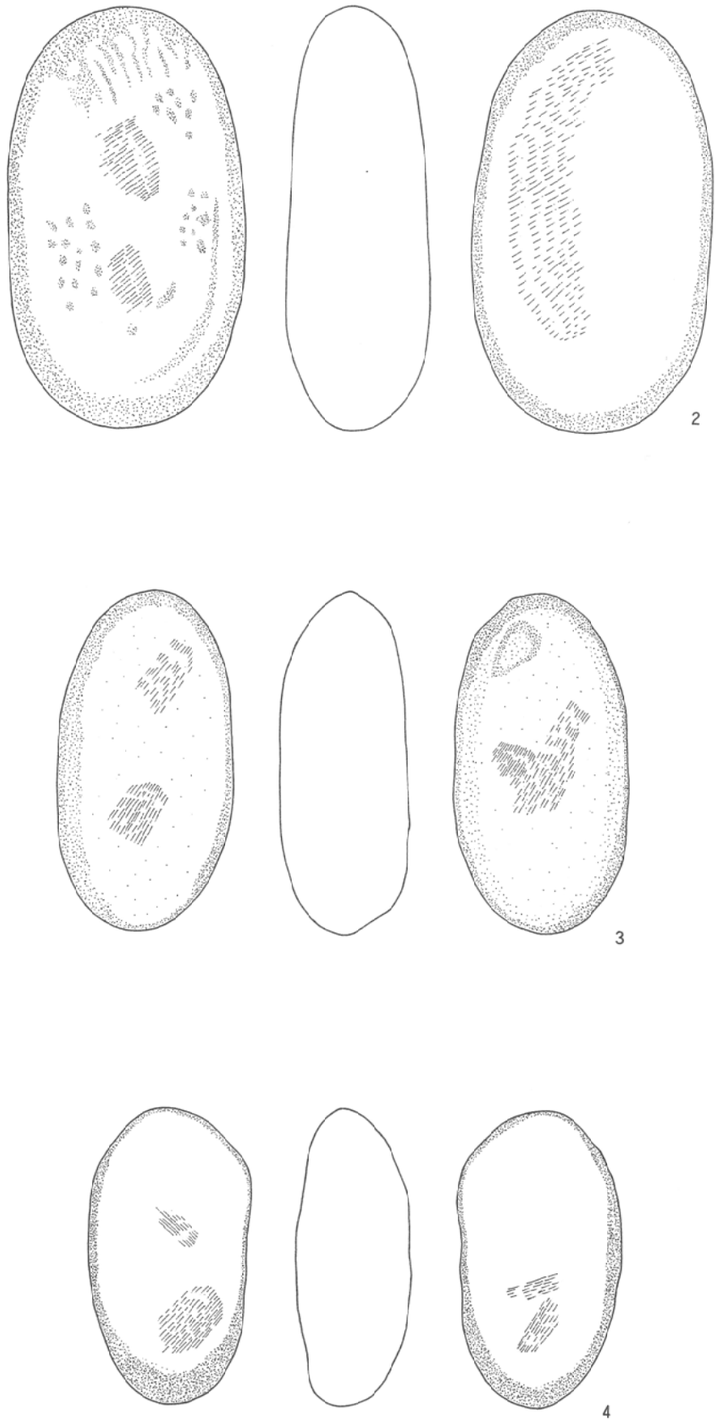
第35図　凹石実測図（１）



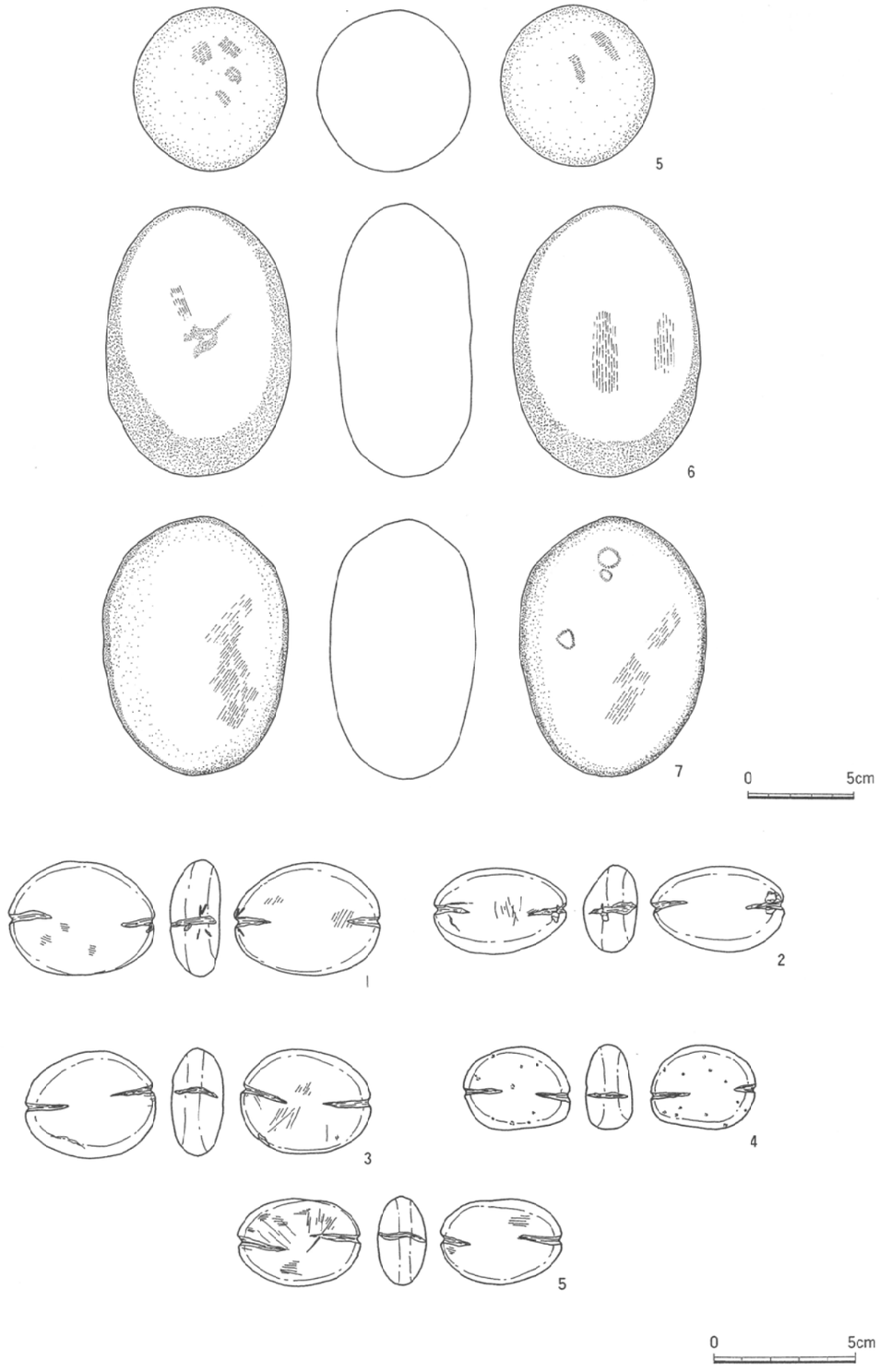
第36図　凹石実測図（２）



第37図　凹石実測図（３）　磨石実測図（１）



第38図　磨石実測図（２）



第39図　磨石実測図（３）　石錘実測図

Ⅵ　まとめ

今回の調査は、平成５年度国営農地開発事業鳥海南麓地区の「蕨台工区」にかかる蕨台遺跡の緊急発掘調査をまとめたものである。

遺構の範囲は、調査区中央部から東側にかけて集中して検出された。縄文時代の住居跡が８棟、環状に検出された。その内、ＳＴ１を除く７棟には地床炉をはじめ石囲炉や土器を転用した炉などが発見された。さらに、土坑が７基とも調査区中央部に集中して検出された。出土遺物の総箱数は140箱にのぼった。破片で出土したものが多く、復元できたものは３個にすぎなかった。しかし、土偶沈線の文様が菅生田遺跡（宮城県白石市）から出土したものに類似していることや、土器口縁部の特徴的な形状から、縄文時代の中期から後期にかけての時代であると思われる。また、石器類の種類が多いこと。この内、磨製石斧が30点も出土したことは本遺跡の特徴を示していることだろう。

最後に、遺構の特徴をみるため、ＳＴ，ＳＫから出土した土器と石器について統計分析を行なった。

ＳＴ出土量(グラム)　　＊Ｐ＜.05,＊＊Ｐ＜.01

	ST1	ST8	ST9	ST31	ST32	ST37	ST54	ST99
土　器	4750**	1920*	530**	2500ns	5780ns	17460**	4330**	5820*
石　器	360**	360*	240**	410ns	680ns	1370**	1270**	960*

ＳＫ出土量(グラム)

	SK15	SK22	SK38	SK50	SK51	SK89	SK90
土　器	910ns	900**	1620**	2870**	750*	200**	140**
石　器	100ns	80**	80**	580**	70*	0**	0**

ＳＴに関して、表中における出土量の偏りは有意であった($\chi^2_{(7)}=151.27$, Ｐ＜.01)。残差分析の結果、土器の出土量は期待値よりＳＴ１，37が多く、反対にＳＴ８，９，54，99が少なかった。また、石器の出土量は期待値よりＳＴ８，９，54，99が多く、ＳＴ１，37が少なかった。以上から、調査区南端に位置するＳＴ１と37において土器の出土量が多いことがわかる。ＳＫに関して、表中における出土量の偏りは有意であった（$\chi^2_{(6)}=244.96$, Ｐ＜.01)。残差分析の結果、土器の出土量は期待値よりＳＫ22，38，51，89，90が多く、反対にＳＫ50が少なかった。また、石器の出土量は期待値よりＳＫ50が多く、反対に、ＳＫ22，38，51，89，90が少なかった。以上から、ＳＫ50が他の土坑と比べ反対の特徴を示していることがわかる。

参考文献
佐々木洋治・佐藤正俊・横戸昭二：『熊の前遺跡発掘調査報告書』　山形県教育委員会　1979年
佐藤庄一・尾形興典・阿部明彦：『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』　1979年
井川一良：『八幡町史』上巻八幡町史編纂委員会　1981年
鈴木道之助：『図録石器の基礎知識Ⅲ』柏書房　1981年
名和達朗・阿部明彦：『水上遺跡第２次発掘調査報告書』山形県発掘調査報告書　1981年
渋谷孝雄・佐藤正俊：『東興野Ｂ遺跡発掘調査報告書』山形県教育委員会　1981年
阿部明彦・長橋　至：『町下遺跡発掘調査報告書』　山形県教育委員会　1981年
工藤定雄他：『青沢越街道　山形県歴史の道調査報告書』山形県教育委員会　1982年
丹羽　茂・阿部博志・小野寺祥一郎：『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅶ』　宮城県教育委員会　1982年
渋谷孝雄：『吹浦遺跡第２次緊急発掘調査報告書』山形県教育委員会　1985年
佐藤禎宏・小野　忍・酒井英一：『八森遺跡第７次発掘調査概報』八幡町教育委員会　1986年
渋谷孝雄・黒坂雅人：『吹浦遺跡第３・４次緊急発掘調査報告書』山形県教育委員会　1988年
佐藤禎宏・小野　忍・酒井英一：『八森遺跡第８・９・10次発掘調査報告書』八幡町教育委員会　1989年
福島県立博物館：『縄文絵巻』　1991年
山形県教育委員会：『分布調査報告書(19)』1992年

報告書抄録

ふりがな	わらびだいいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	蕨台遺跡発掘調査報告書
副書名	国営農地開発事業鳥海南麓地区(5)
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第５集
編著者名	斎藤　守
編集機関	財団法人　山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番１号　TEL 0236-72-5301
発行年月日	西暦１９９４年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
わらび　だい 蕨　台	やまがたけんあくみぐん 山形県飽海郡 やわたまちおおあざしも 八幡町大字下 あおさわあざわらびだい 青沢字蕨台	6462	平成２年 度登録	38度 57分 40秒	140度 00分 34秒	19930607～ 19931014	5,000	国営農地 開発事業 鳥海南麓 地区

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蕨　台	集落跡	縄文時代 中期～ 後期	竪穴住居跡　８棟 土　坑　７基 柱　穴　27基 地床炉跡　７基 石囲炉跡　２基	縄文土器　土偶　石鏃 石錐　篦状石器　掻器 削器　石匙　磨製石斧 凹石　磨石　石錘　石皿	山形県の北西部、八幡町の山林に所在する。台地上に環状に住居跡が８棟検出された。その内、重複して検出されたものが４棟みられた。また、土器を転用した炉や地床炉も検出された。遺物では、沈線を施した板状土偶が出土した。そのなかで、磨製石斧が30点出土したのが目立つ。

報告書抄録

ふりがな	わらびだいいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	蕨台遺跡発掘調査報告書
副書名	国営農地開発事業鳥海南麓地区(5)
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第5集
編著者名	斎藤　守
編集機関	財団法人　山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 0236-72-5301
発行年月日	西暦1994年3月31日

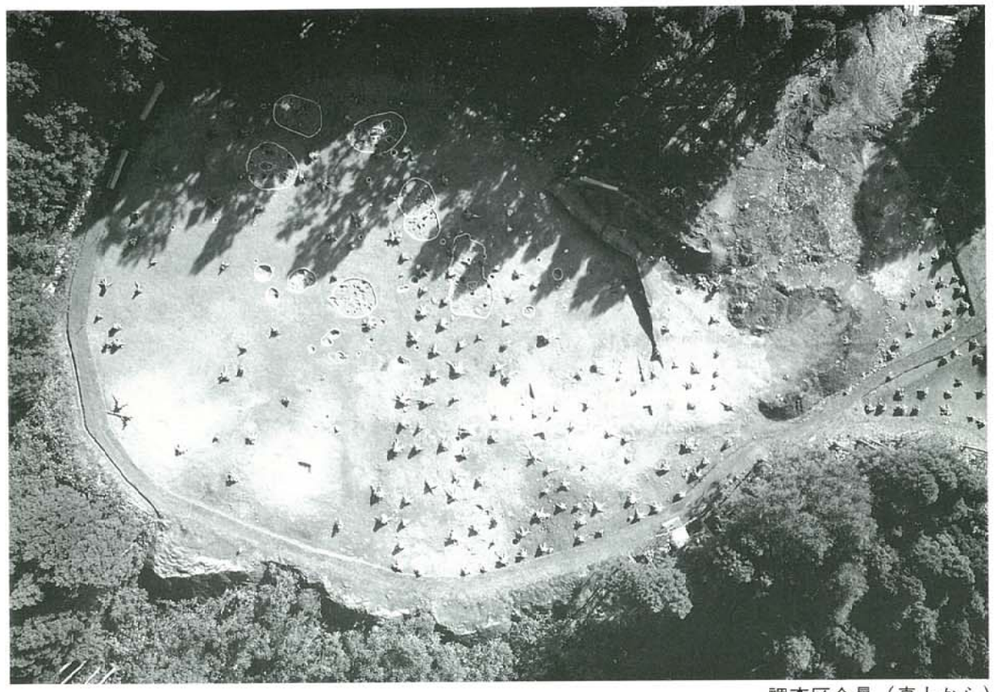
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わらび　だい 蕨　台	やまがたけんあくみぐん 山形県飽海郡 やわたまちおおあざしも 八幡町大字下 あおさわあざわらびだい 青沢字蕨台	6462	平成2年度登録	38度57分40秒	140度00分34秒	19930607～19931014	5,000	国営農地開発事業鳥海南麓地区

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蕨　台	集落跡	縄文時代中期～後期	竪穴住居跡　8棟 土　坑　7基 柱　穴　27基 地床炉跡　7基 石囲炉跡　2基	縄文土器　土偶　石鏃 石錐　篦状石器　掻器 削器　石匙　磨製石斧 凹石　磨石　石錘　石皿	山形県の北西部、八幡町の山林に所在する。台地上に環状に住居跡が8棟検出された。その内、重複して検出されたものが4棟みられた。また、土器を転用した炉や地床炉も検出された。遺物では、沈線を施した板状土偶が出土した。そのなかで、磨製石斧が30点出土したのが目立つ。

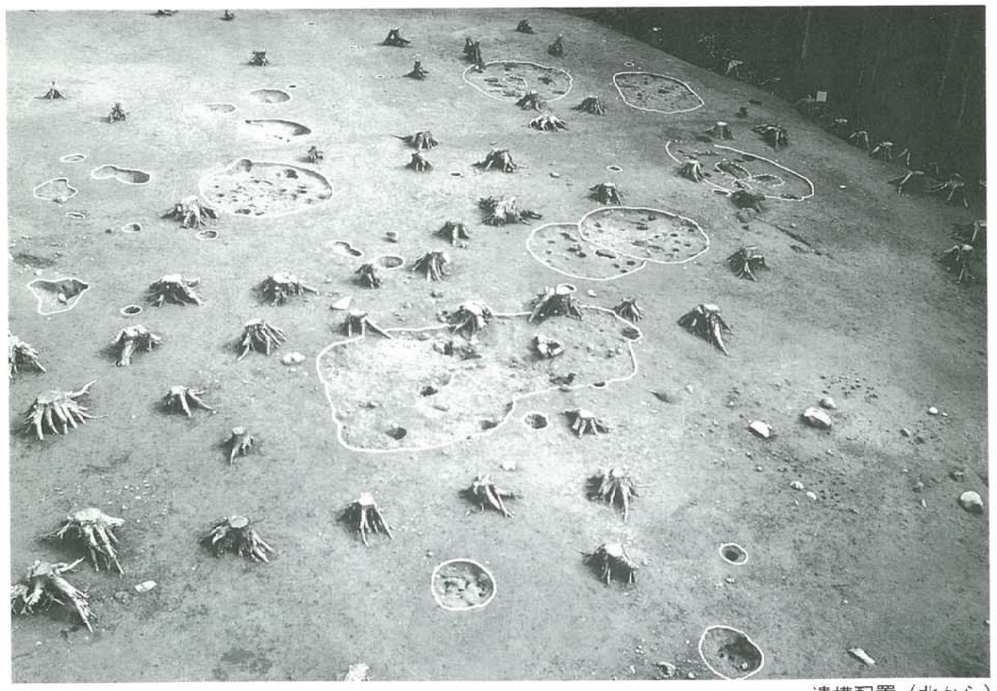
図　　版

調査区遠景（南から）

調査区全景（西から）



調査区全景（真上から）

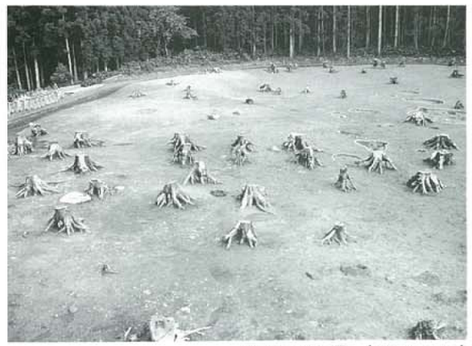


遺構配置（北から）

調査区遠景（西南から）

鍬入式

表土除去



調査区風景（北西から）

調査区風景（北西から）

調査風景（東から）

調査風景（北西から）

ST54検出状況（北東から）

ST99検出状況（北西から）

ST54完掘状況（南から）

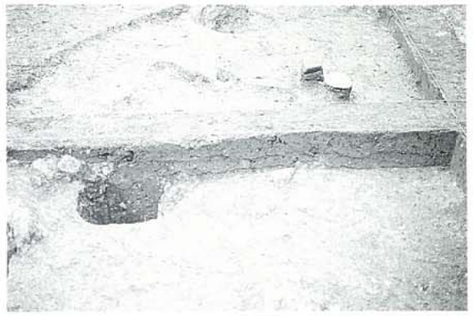
ST1全景（北西から）

ST9,8全景（東から）

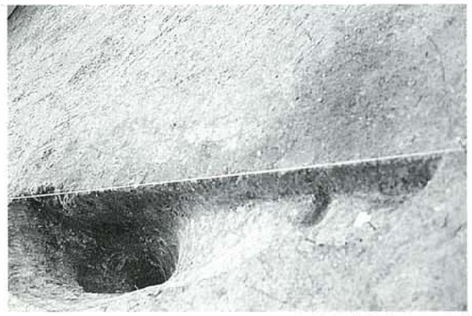
ST32,31全景（東から）

ST37土層断面（北西から）

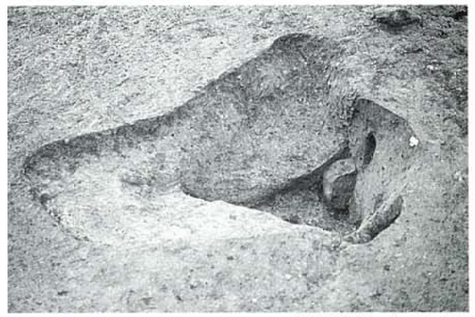
ST37土層断面（東から）



ST99土層断面（西から）



SK15半截状況（南から）



SK38完掘状況（西から）

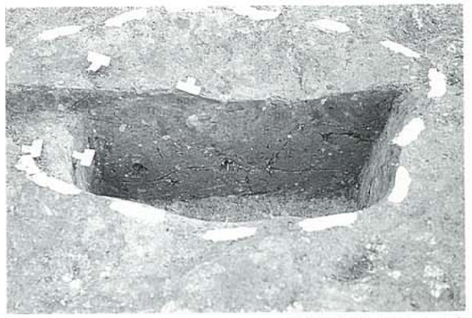
SK50半截状況（南から）

SK51半截状況（南から）

SP10検出状況（西から）

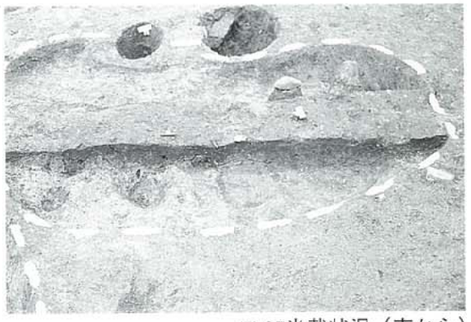
SP64完掘状況（南から）

EL93半截状況（北から）



EL95半截状況（西から）

EL96半截状況（南から）



EL97半截状況（南から）

EP102土層断面（東から）

EP103土層断面（南から）

EP104土層断面（東から）

EP109土層断面（東から）

土器出土状況（RP2）

土器を転用した炉（RP18）

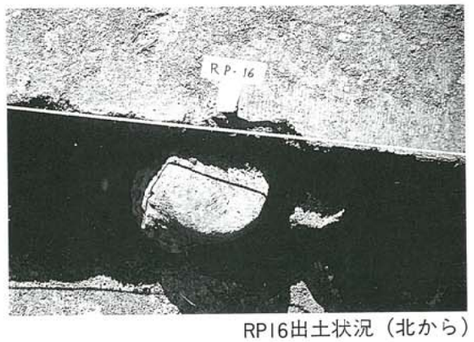
EL2出土状況（東から）

EL2半截状況（東から）

EL3出土状況（西から）

RQ14出土状況（東から）

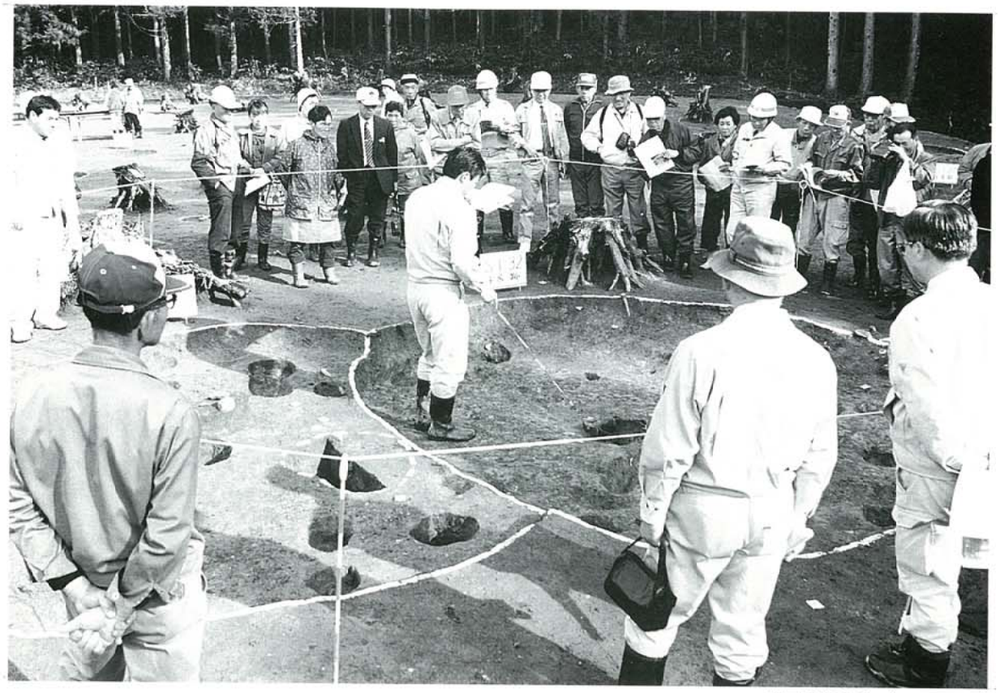
RP15, RQ13出土状況（東から）



RP16出土状況（北から）

RP17出土状況（東から）

RQ107出土状況（北から）


調査説明会（ST31, 32）

調査説明会（遺物）

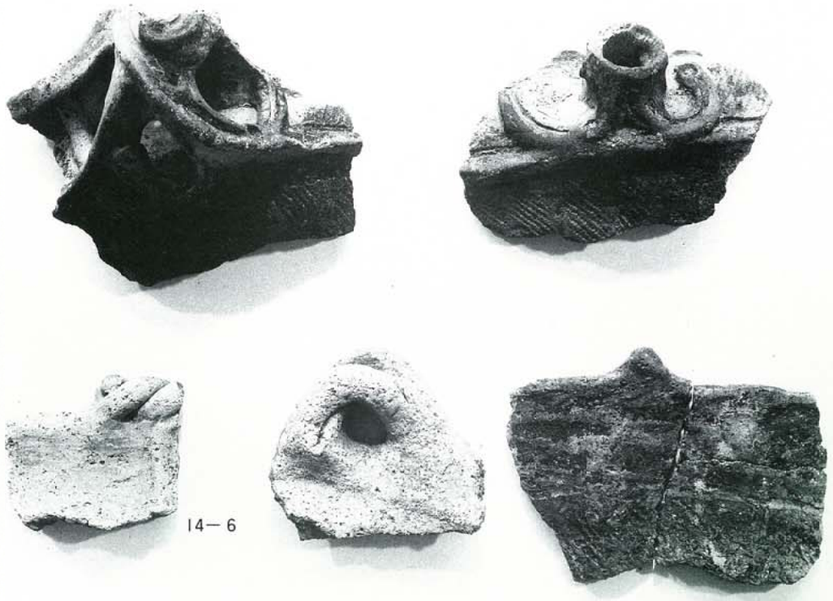
13－2

13－1

縄文土器復元（1）

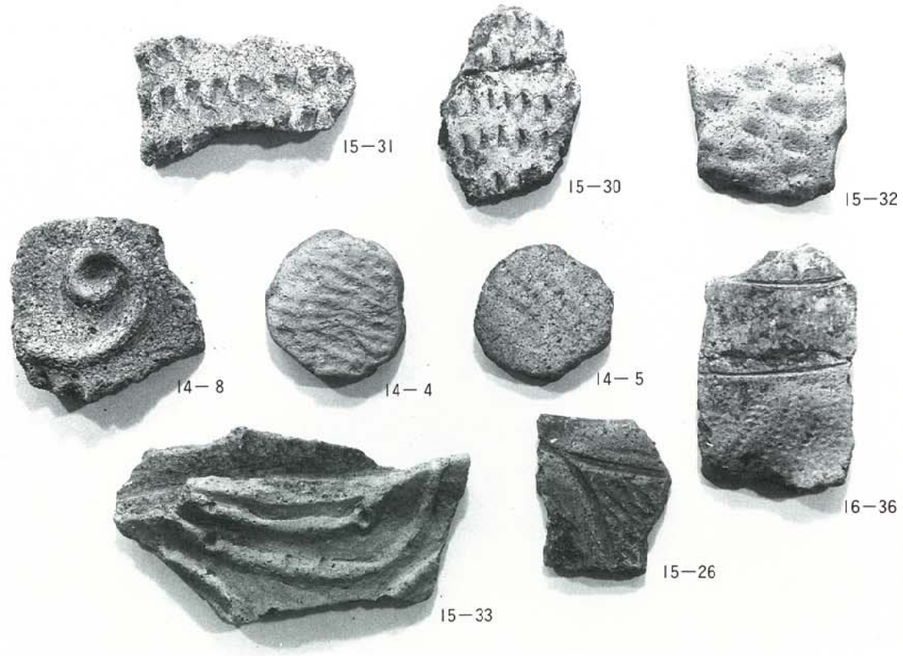
13－3

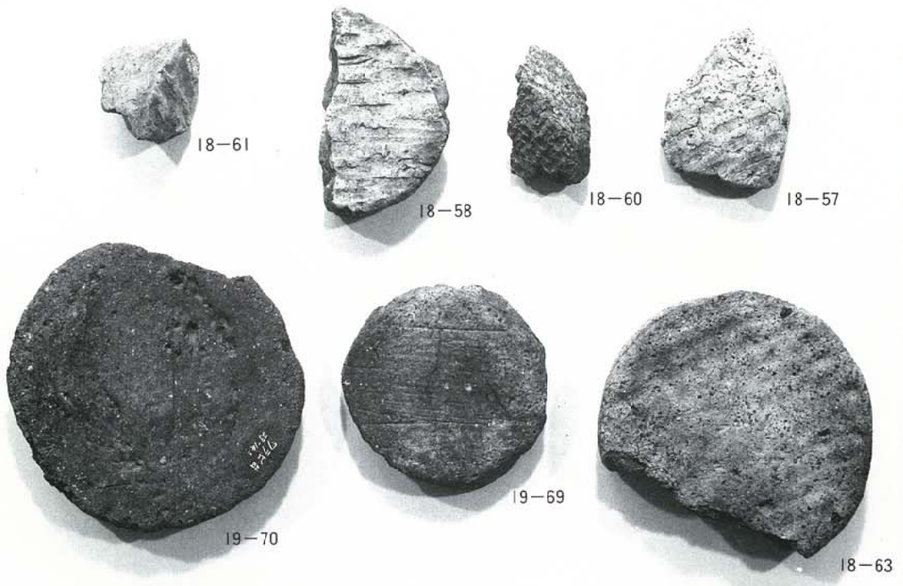
縄文土器復元（2）



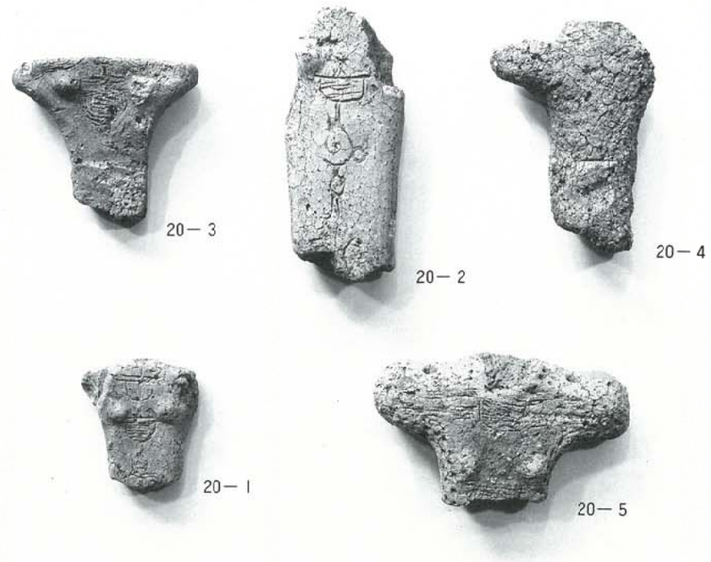
14－6

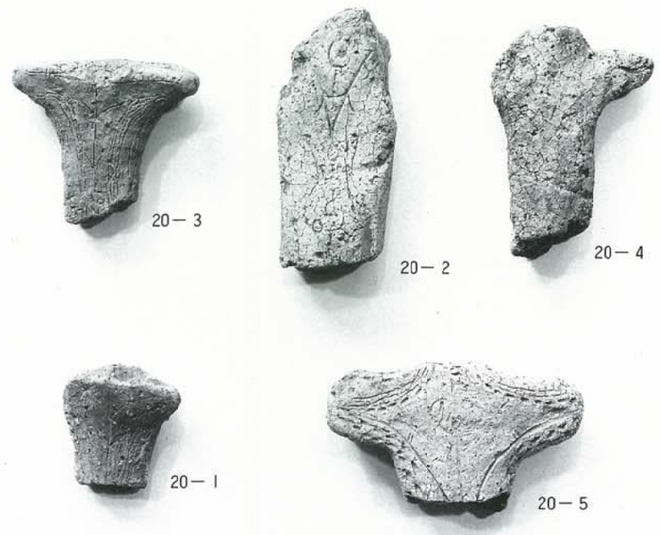
縄文土器（1）


15−31
15−30
15−32
14−8
14−4
14−5
16−36
15−26
15−33

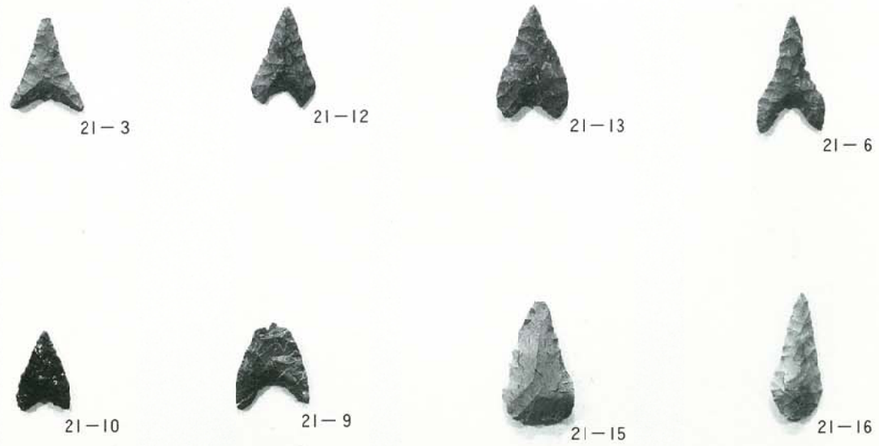

18−61
18−58
18−60
18−57
19−70
19−69
18−63

縄文土器（2）

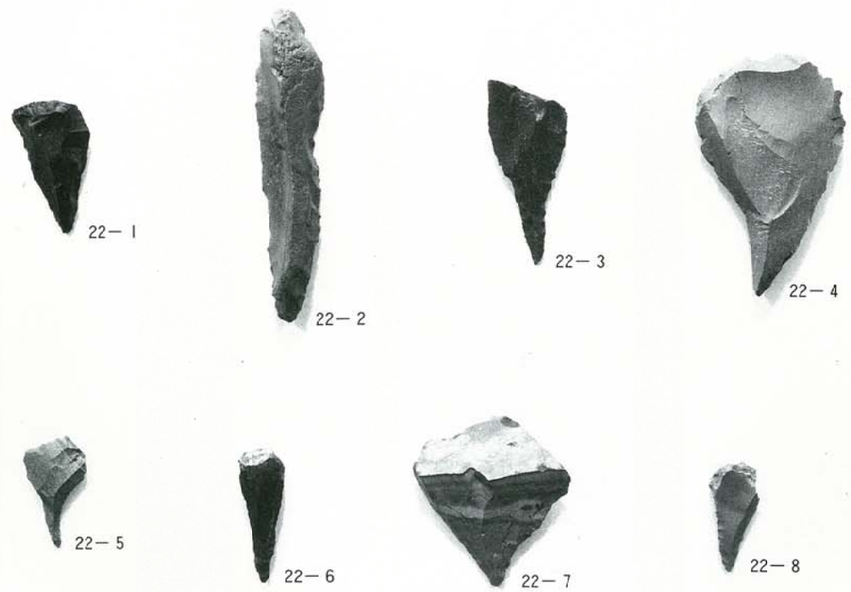

20−3
20−2
20−4
20−1
20−5


20−3
20−2
20−4
20−1
20−5

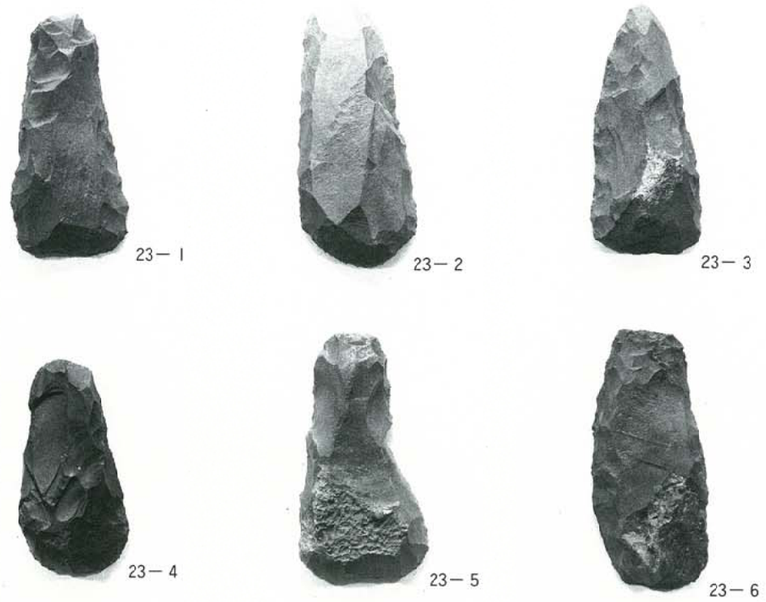
土偶

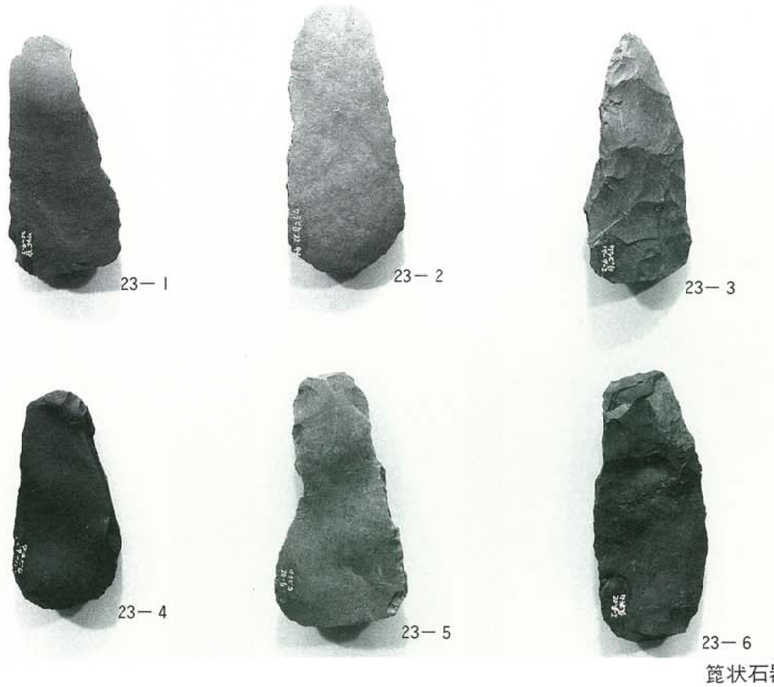

21－3
21－12
21－13
21－6
21－10
21－9
21－15
21－16

石鏃

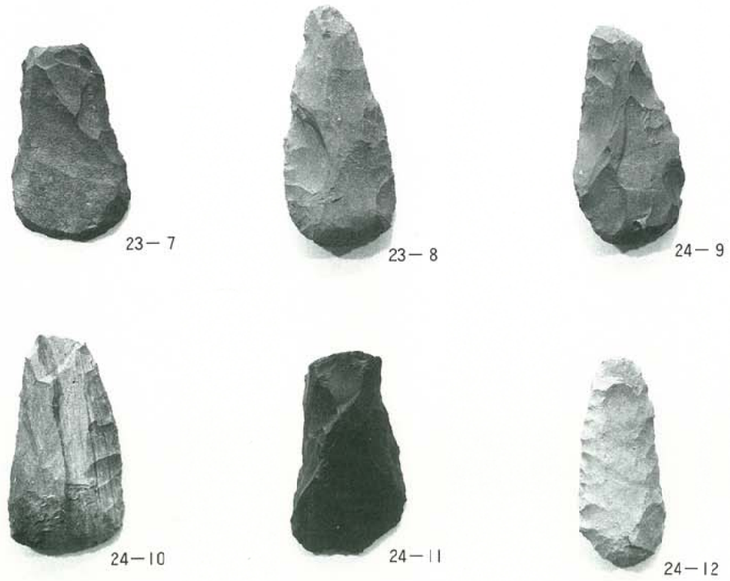

22－1
22－2
22－3
22－4
22－5
22－6
22－7
22－8

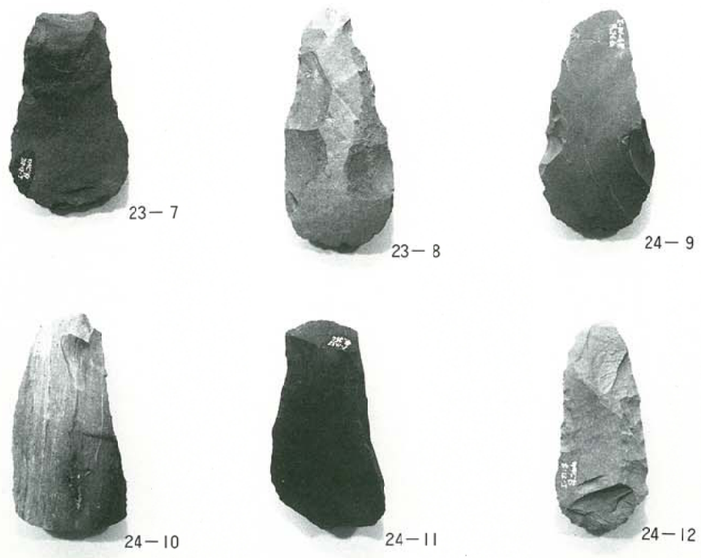
石錐


23－1
23－2
23－3
23－4
23－5
23－6

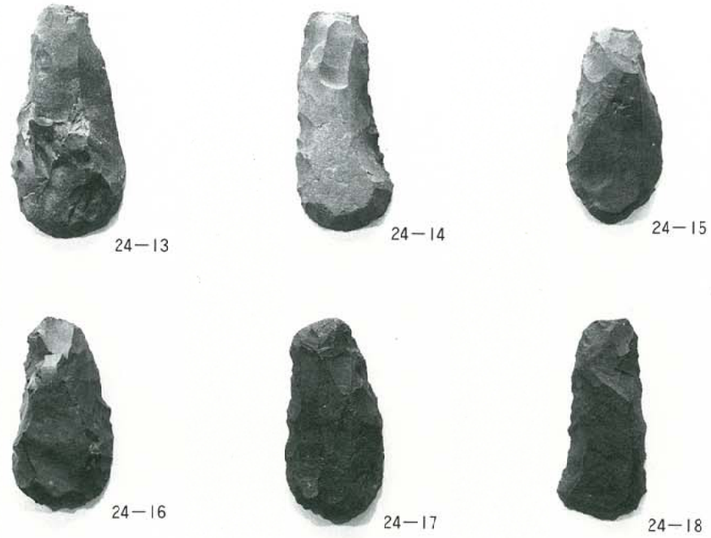

23－1
23－2
23－3
23－4
23－5
23－6

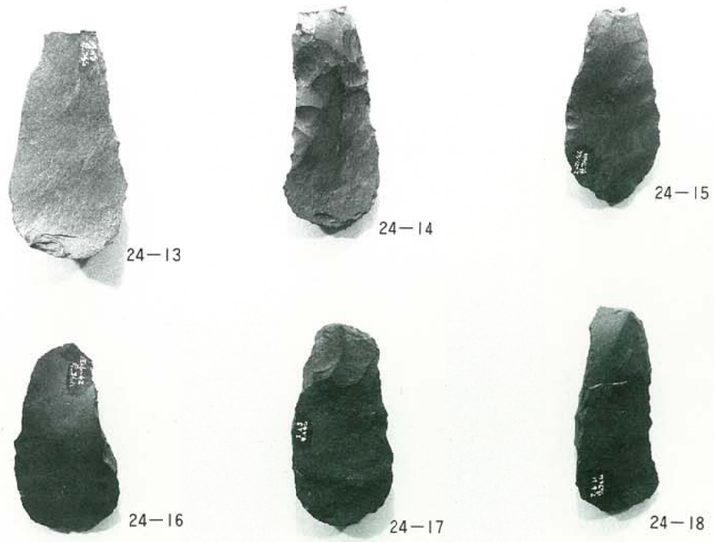
篦状石器（1）


23－7
23－8
24－9
24－10
24－11
24－12

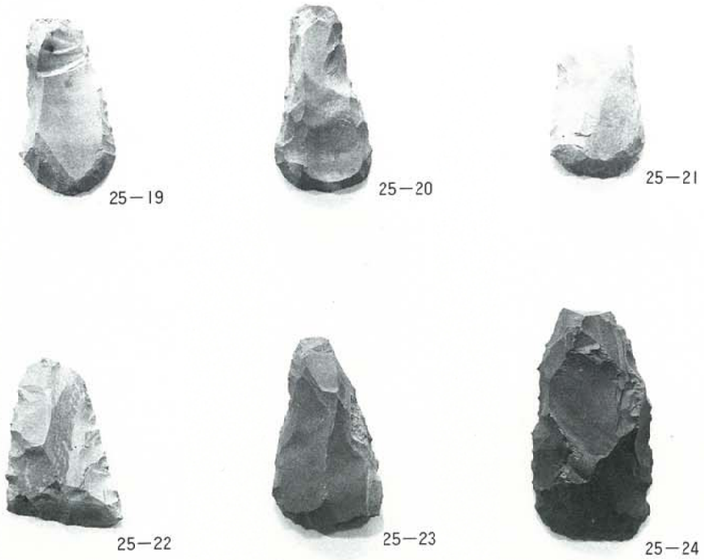

23－7
23－8
24－9
24－10
24－11
24－12

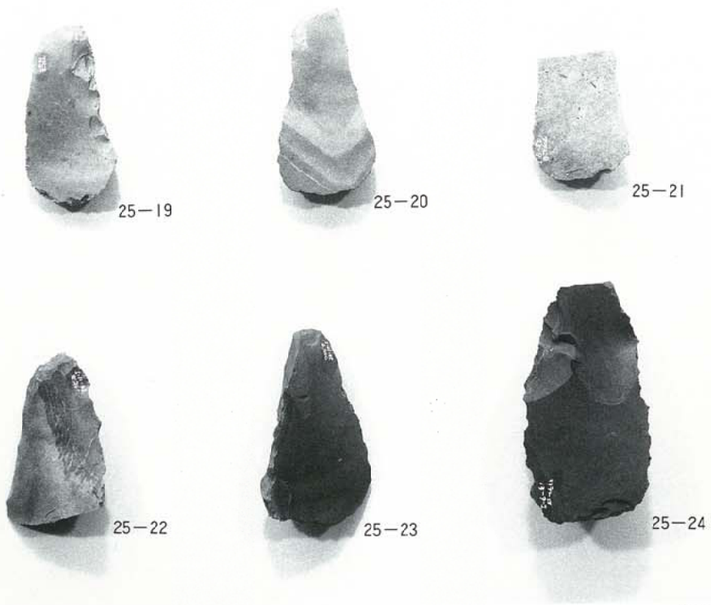
箆状石器（２）

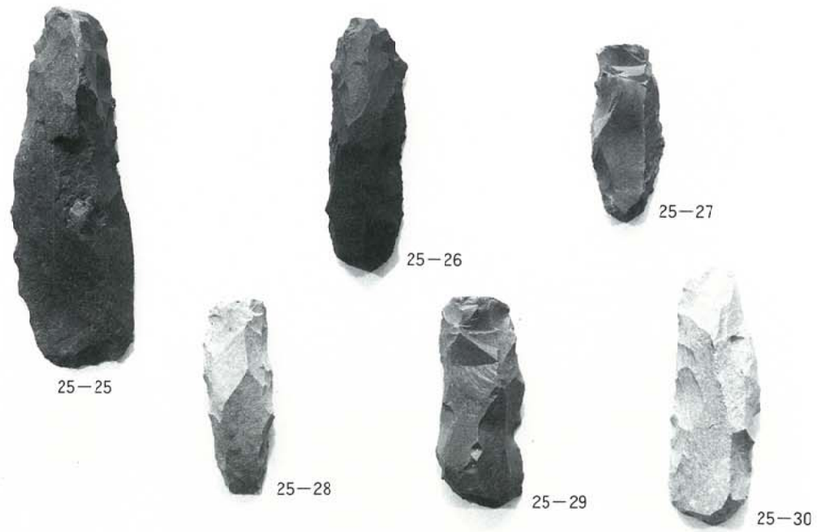

24－13
24－14
24－15
24－16
24－17
24－18


24－13
24－14
24－15
24－16
24－17
24－18

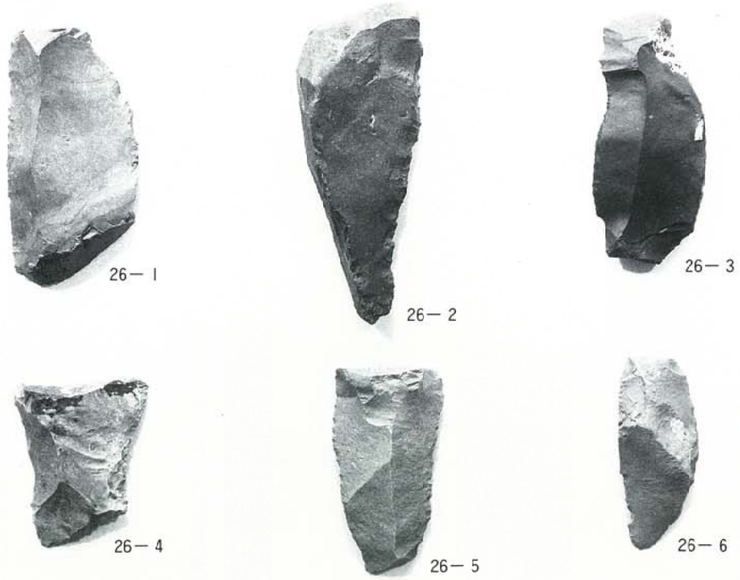
箆状石器（３）


25－19
25－20
25－21
25－22
25－23
25－24


25－19
25－20
25－21
25－22
25－23
25－24

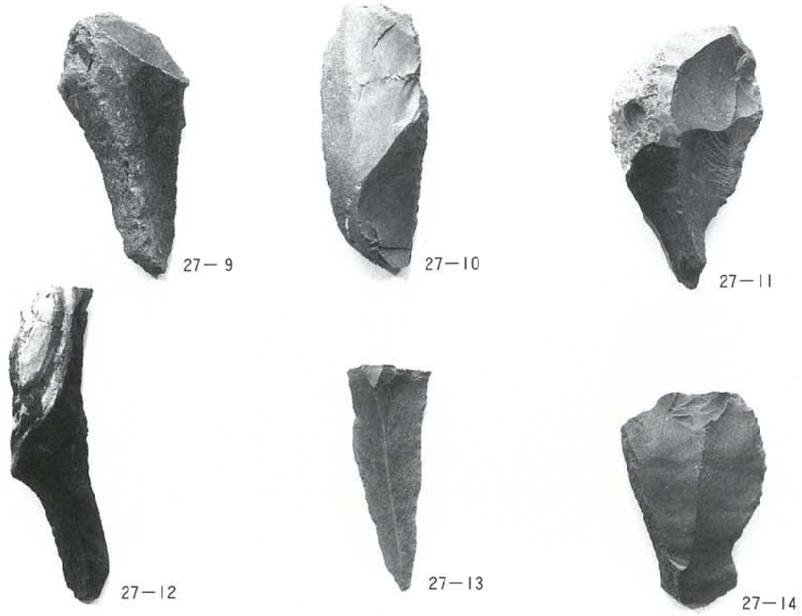

25－25
25－26
25－27
25－28
25－29
25－30

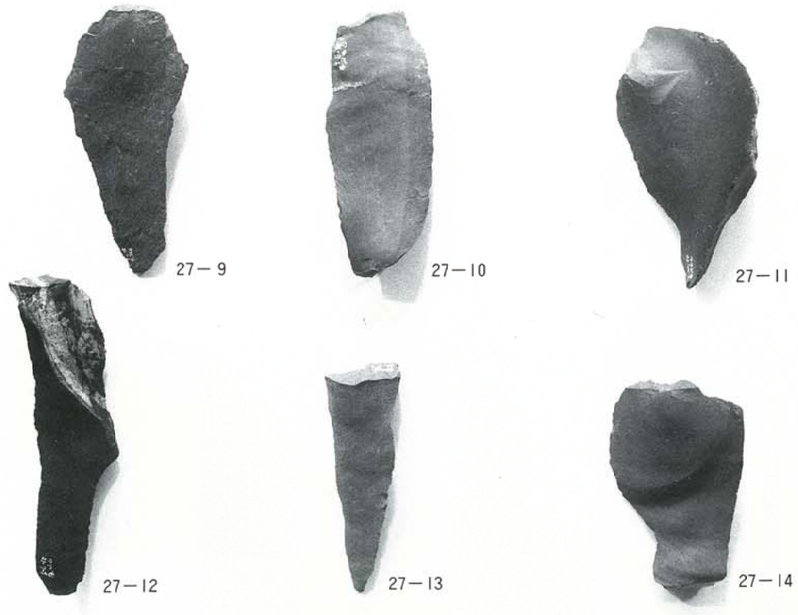
25－25
25－26
25－27
25－28
25－29
25－30


26－1
26－2
26－3
26－4
26－5
26－6

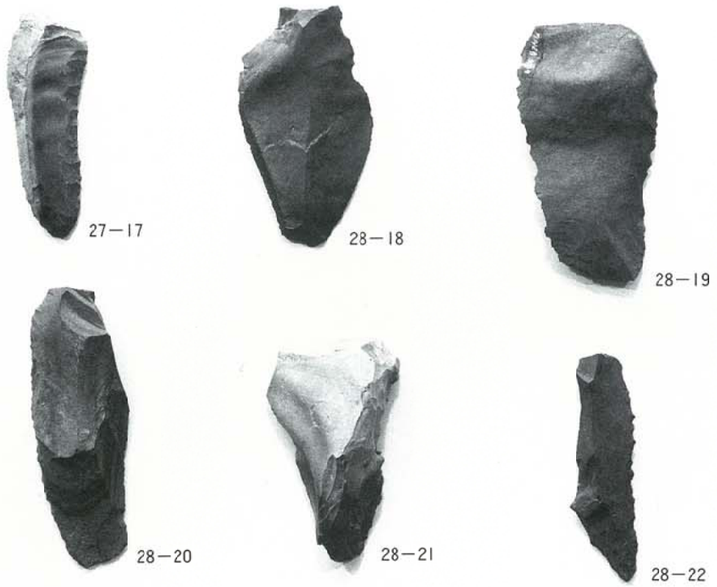
26－1
26－2
26－3
26－4
26－5
26－6

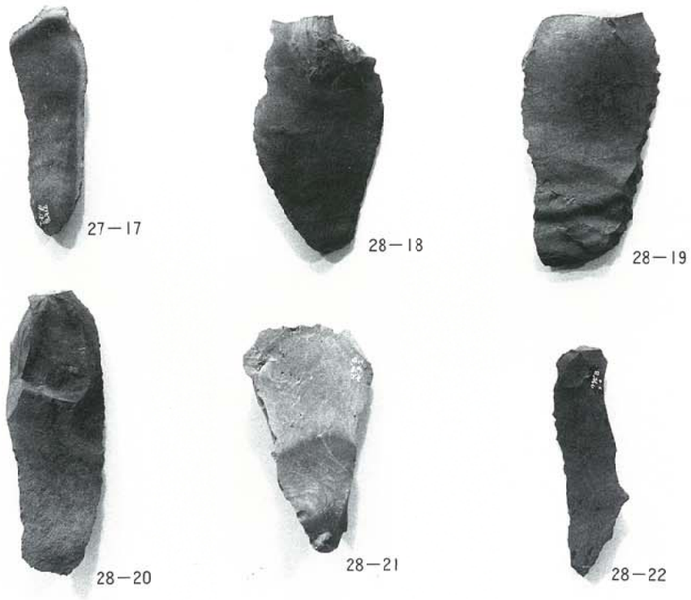
掻器・削器（1）


27－9
27－10
27－11
27－12
27－13
27－14

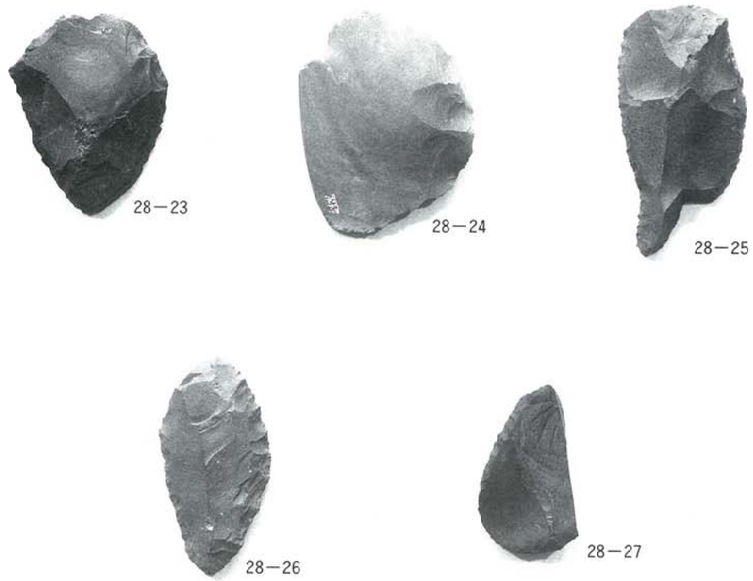

27－9
27－10
27－11
27－12
27－13
27－14

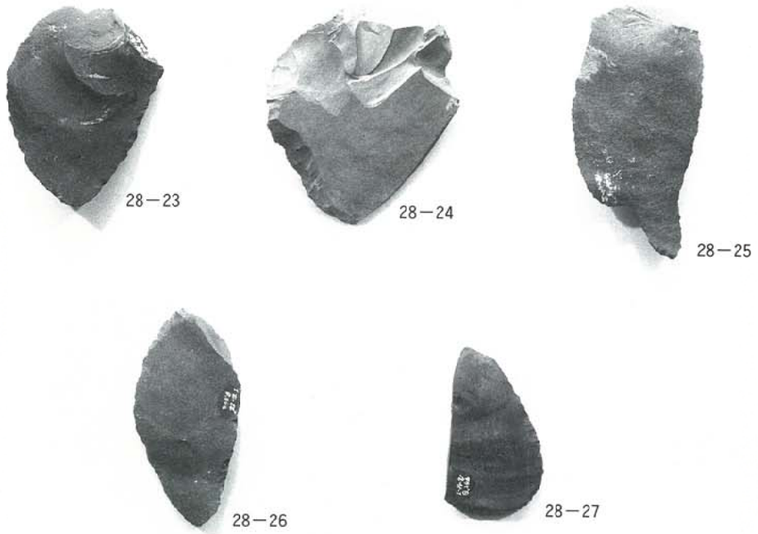
掻器・削器（2）


27－17
28－18
28－19
28－20
28－21
28－22

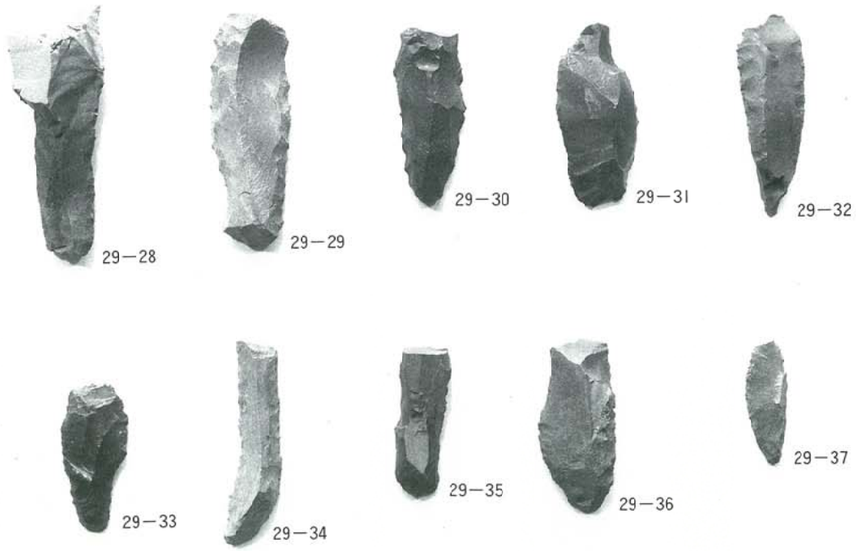

27－17
28－18
28－19
28－20
28－21
28－22

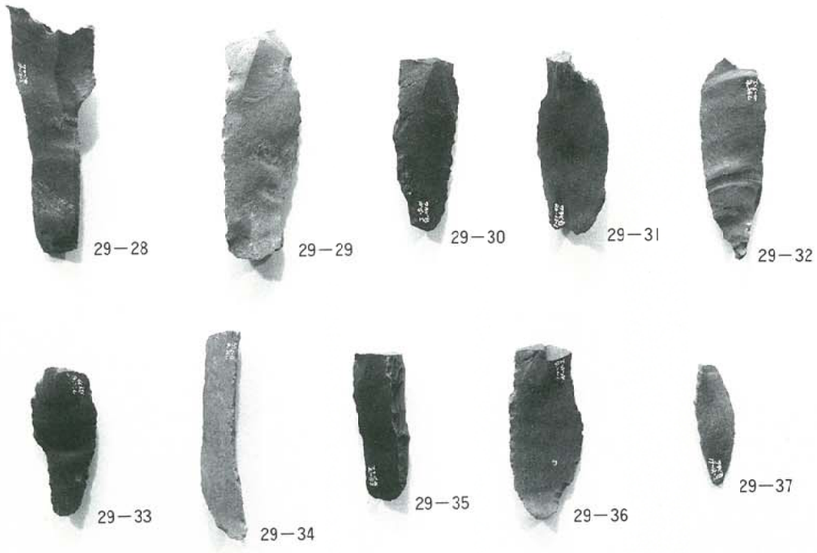
掻器・削器（３）


28－23
28－24
28－25
28－26
28－27

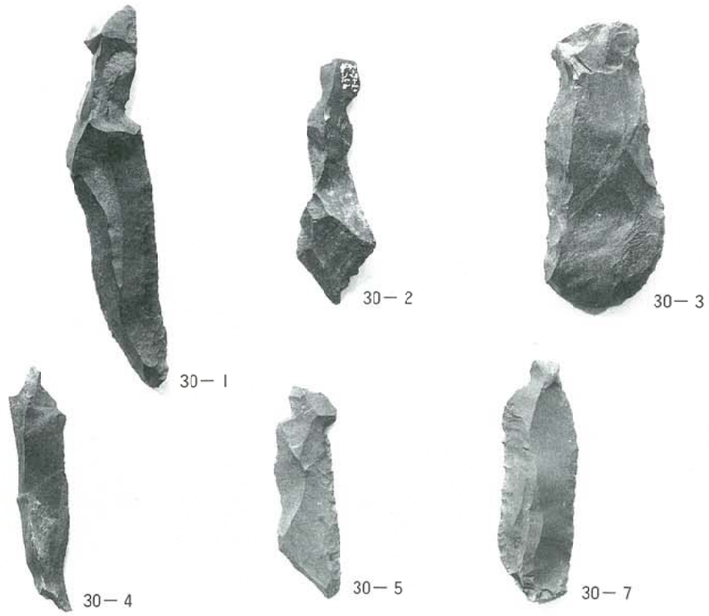

28－23
28－24
28－25
28－26
28－27

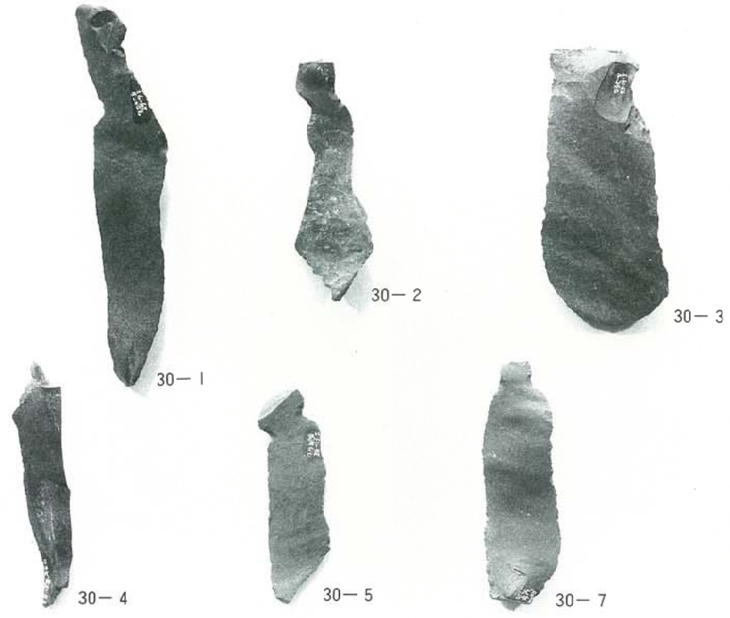
掻器・削器（４）


29－28
29－29
29－30
29－31
29－32
29－33
29－34
29－35
29－36
29－37

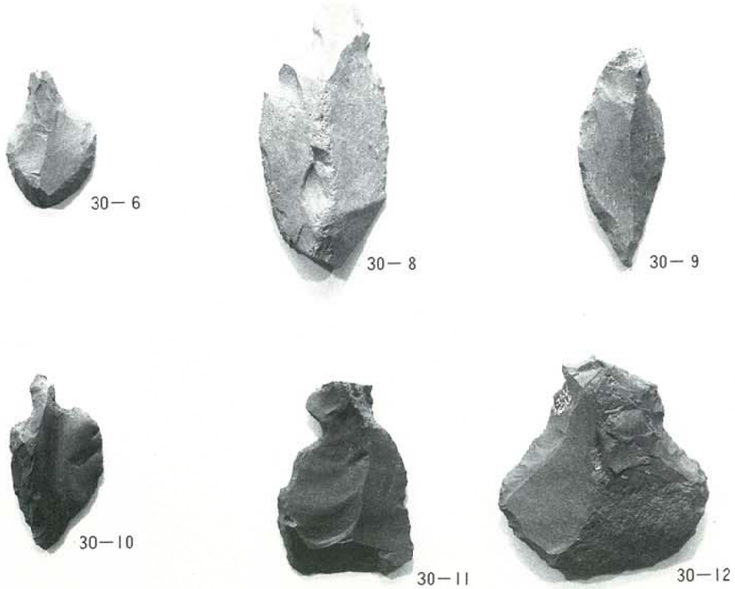

29－28
29－29
29－30
29－31
29－32
29－33
29－34
29－35
29－36
29－37

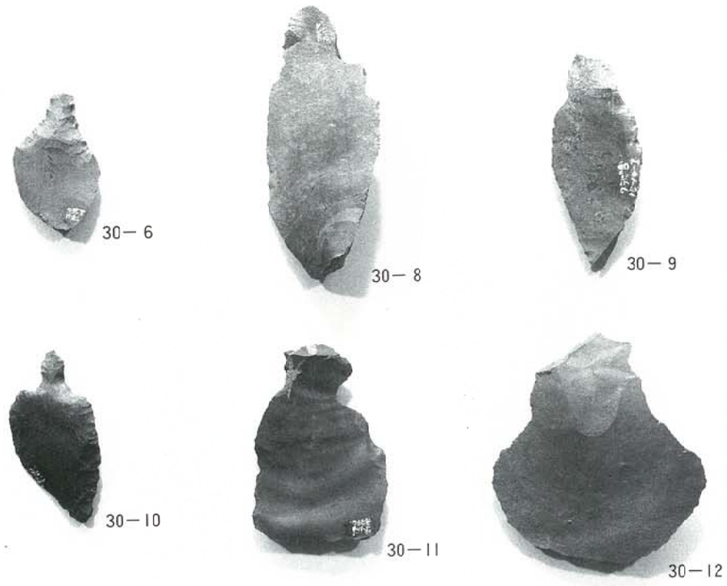
掻器・削器（5）


30－1
30－2
30－3
30－4
30－5
30－7

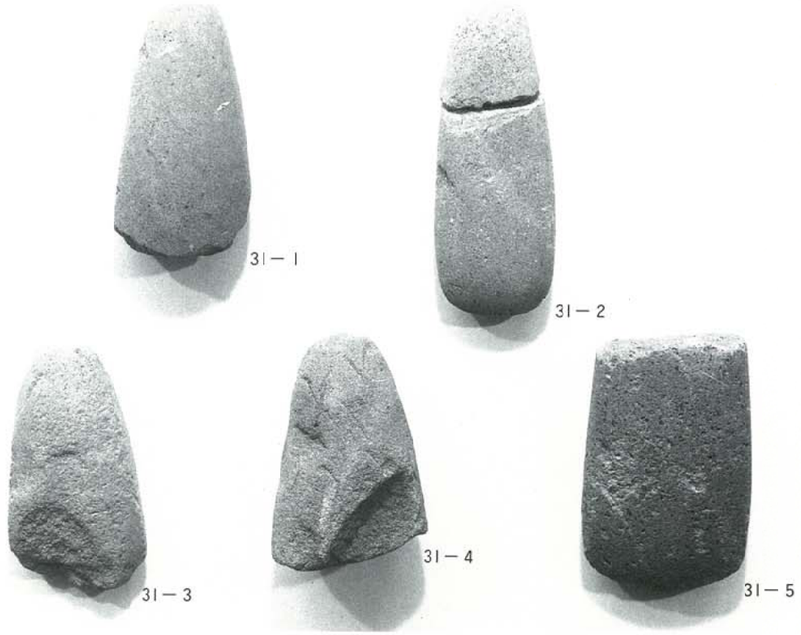

30－1
30－2
30－3
30－4
30－5
30－7

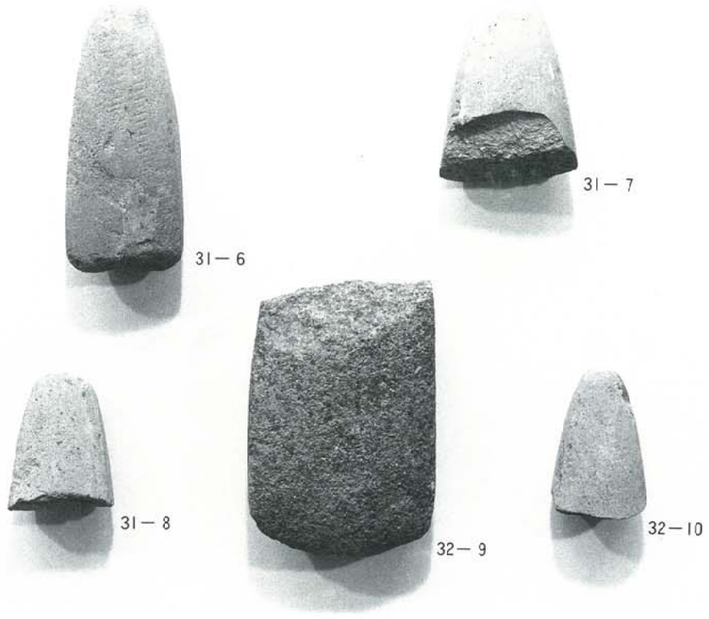
石匙（1）


30－6
30－8
30－9
30－10
30－11
30－12

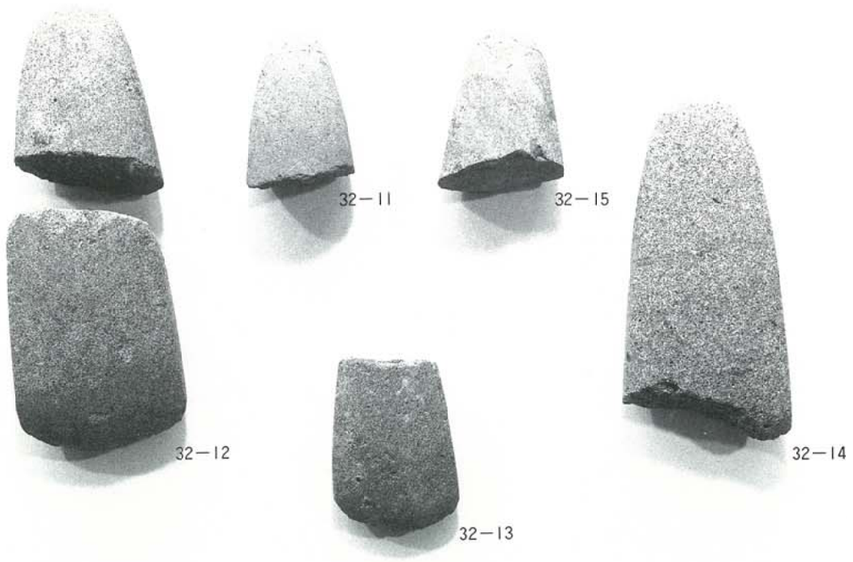

30－6
30－8
30－9
30－10
30－11
30－12

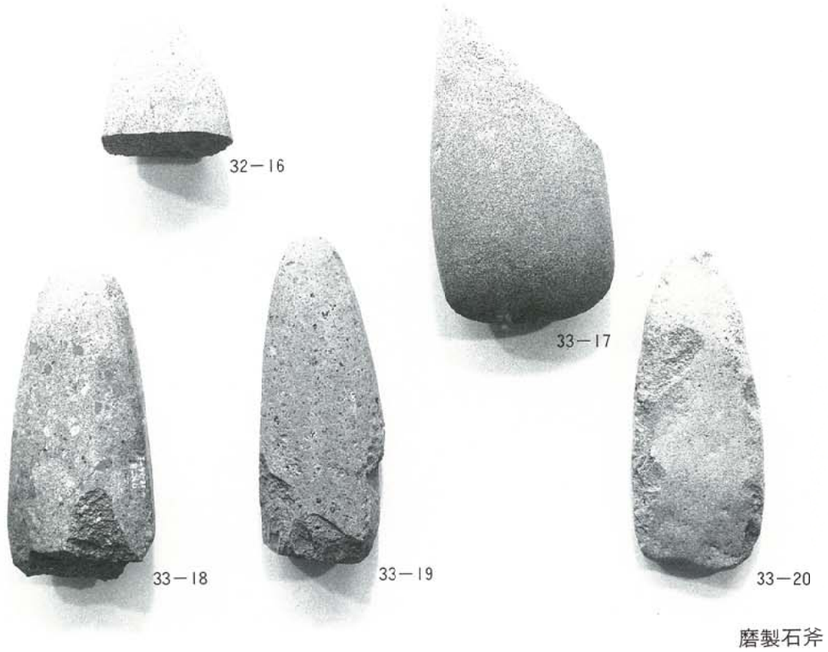
石匙（2）


31－1
31－2
31－3
31－4
31－5

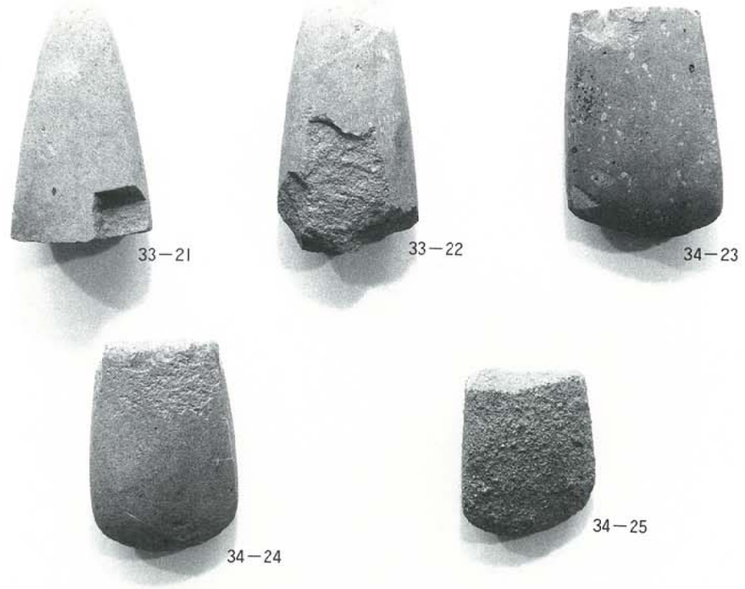

31－7
31－6
31－8
32－9
32－10

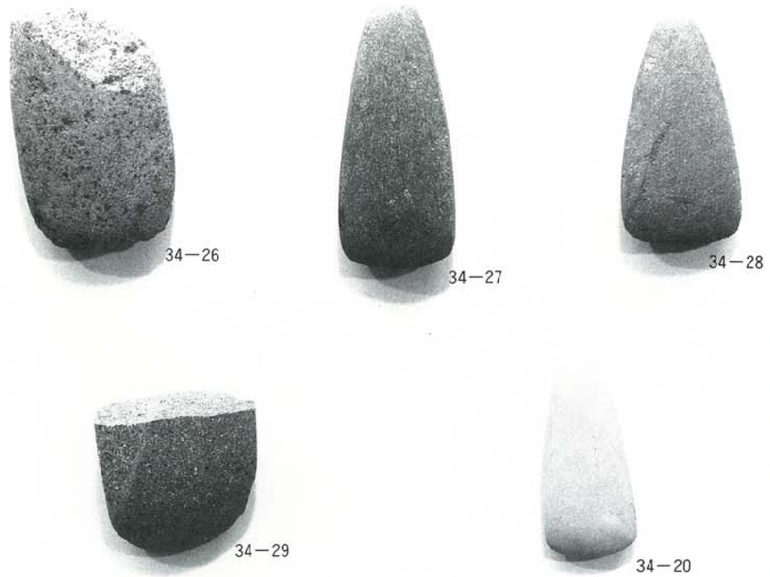
磨製石斧（1）


32－11
32－15
32－12
32－14
32－13

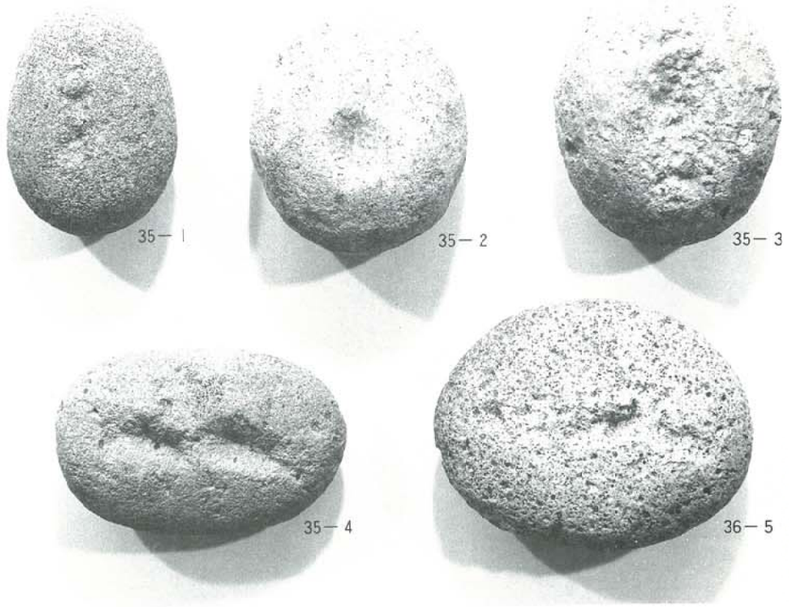

32－16
33－17
33－18
33－19
33－20

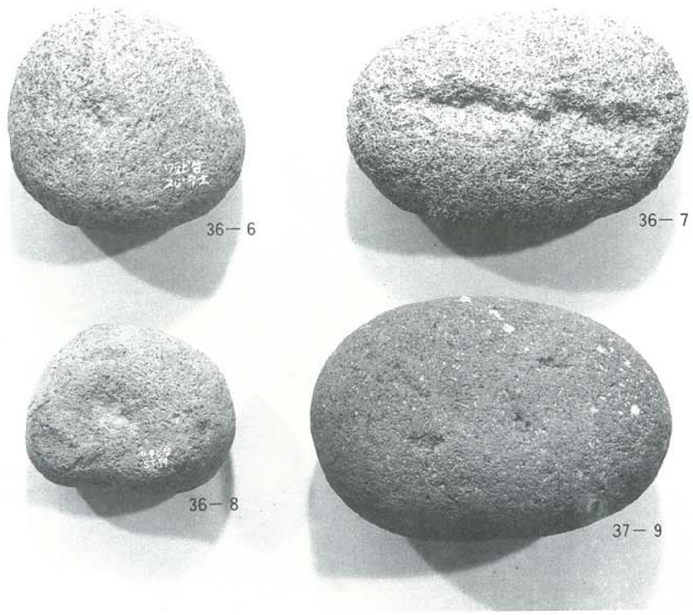
磨製石斧（２）


33－21
33－22
34－23
34－24
34－25

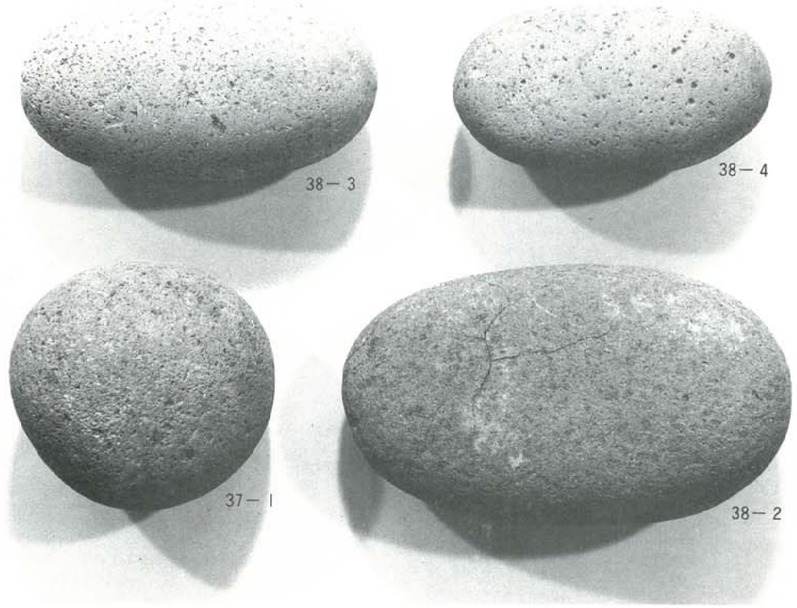

34－26
34－27
34－28
34－29
34－20

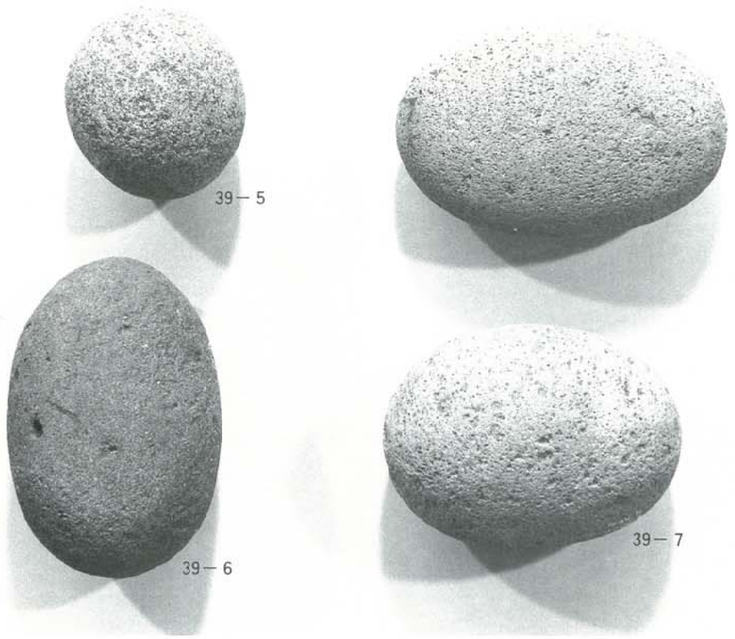
磨製石斧（３）





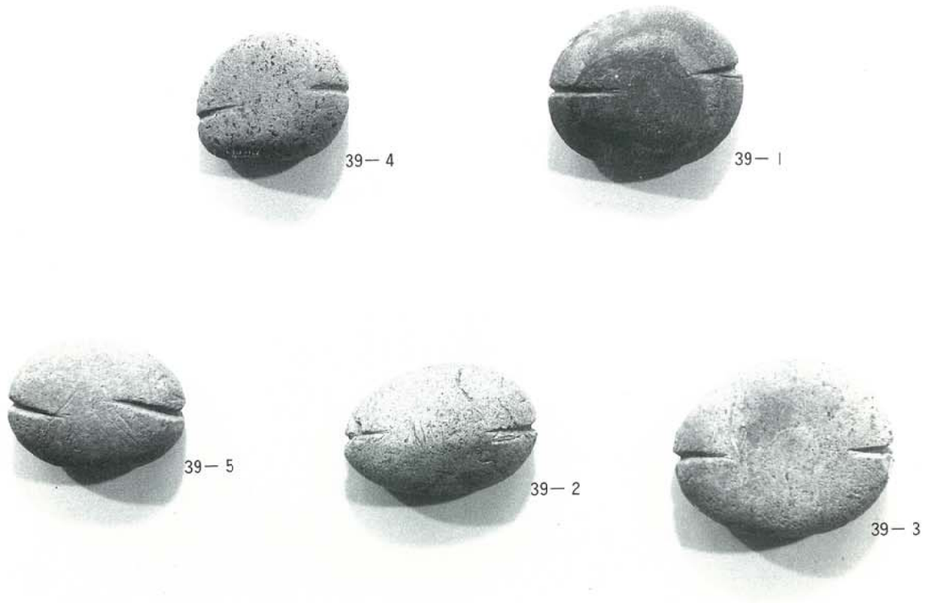
凹石



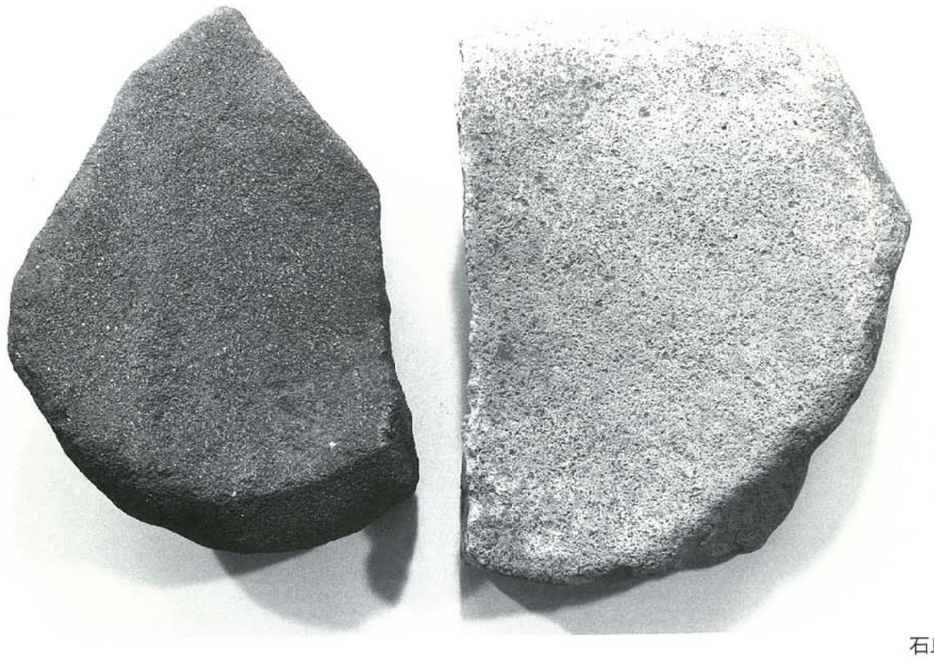


磨石

図版34



石錘



石皿

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第５集

蕨台（わらびだい）遺跡発掘調査報告書
国営農地開発事業鳥海南麗地区（５）

１９９４年３月３１日　発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-31　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　0236-72-5301
印刷　山形印刷株式会社

094 - 069